

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点5－1－①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

平成24年度の授業科目表，一般科目～材料工学科専門科目(資料5－1－①－1～7) から集計した一般科目と専門科目の単位数と総単位数に対する一般及び専門科目の各学科・学年での比率(資料5－1－①－8) から分かるように低学年で一般科目の割合が多く，高学年になると専門科目の割合が増える楔形に授業科目を配置している。必修科目の実験，実習，演習科目は，学年進行とともに連続して学習ができる。また低学年にて工学の基礎科目を必修科目として学んだ後に高学年で選択科目を選び学習することができる。

本校の基本理念，教育目標等(資料5－1－①－9，10)を統合した各学科の学習・教育目標(資料5－1－①－11～15)を達成するために，内容を精査した授業科目を系統的に配置している(資料5－1－①－16～20)。また，前，後期とも授業時間割(資料5－1－①－21～25)は，講義を午前中に置き，実験・実習科目は午後に配置できるように配慮している。

資料 5 - 1 - ① - 1

学科名 一般科目(機械工学科・電気電子工学科・電子情報工学科・材料工学科)			(平成21年度以降入学)						
区 分	授業科目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	人文社会	国語ⅠA	2	2					
		国語ⅠB	2	2					
		国語Ⅱ	2		2				
		日本文学	2			2			
		世界史Ⅰ	2	2					
		世界史Ⅱ	1		1				
		政治・経済	1		1				
		倫理・社会	2		2				
		地理	2	2					
	自然科学	基礎数学A	4	4					
		基礎数学B	2	2					
		線形代数Ⅰ	2		2				
		線形代数Ⅱ	1			1			
		微分積分Ⅰ	4		4				
		微分積分Ⅱ	4			4			
		数学講究	1			1			後期実施
		物理	5	2	3				
		化学	4	2	2				
		生物	2		2				
	外国語	英語ⅠA	4	4					
		英語ⅠB	2	2					
		英語ⅡA	2		2				
		英語ⅡB	3		3				
		英語Ⅲ	2			2			
		英語特講Ⅰ	1			1			前期実施
		英語特講Ⅱ	1			1			後期実施
		英語Ⅴ	*	2				2	
	保健体育(武道を含む)		10	4	2	2	2		
	小計		72	28	26	14	2	2	
選択必修科目	言語表現学Ⅰ	言語表現学Ⅰ	*	1			1		同時開講
		歴史学概論Ⅰ	*	1			1		前期実施
		技術者倫理入門Ⅰ	*	1			1		左記4単位の中から1単位以上修得
		法学Ⅰ	*	1			1		
		言語表現学Ⅱ	*	1			1		同時開講
		歴史学概論Ⅱ	*	1			1		後期実施
	技術者倫理入門Ⅱ	技術者倫理入門Ⅱ	*	1			1		左記4単位の中から1単位以上修得
		法学Ⅱ	*	1			1		
		物理学特講	*	1			1		同時開講
		現代科学Ⅰ	*	1			1		前期実施
		現代科学Ⅲ	*	1			1		左記5単位の中から1単位以上修得
		現代科学Ⅳ	*	1			1		
	現代科学Ⅴ	現代科学Ⅴ	*	1			1		同時開講
		化学特講	*	1			1		
		現代科学Ⅰ	*	1			1		同時開講
		現代科学Ⅱ	*	1			1		後期実施
		現代科学Ⅲ	*	1			1		左記5単位の中から1単位以上修得
		現代科学Ⅳ	*	1			1		
	英語ⅣA	英語ⅣA	*	2			2		同時開講 左記4単位の中から2単位以上修得
		英語ⅣB	*	2			2		
	小計		6				6		
選択科目	美術	美術	2	2					同時開講
		音楽	2	2					
		書道	2	2					
	文学概論Ⅰ	文学概論Ⅰ	*	1			1		同時開講
		心理学Ⅰ	*	1			1		前期実施
		経済学Ⅰ	*	1			1		
		哲学Ⅰ	*	1			1		
	文学概論Ⅱ	文学概論Ⅱ	*	1			1		同時開講
		心理学Ⅱ	*	1			1		後期実施
		経済学Ⅱ	*	1			1		
		哲学Ⅱ	*	1			1		
	数学特講Ⅰ	数学特講Ⅰ	*	1			1		前期実施
		数学特講Ⅱ	*	1			1		後期実施
	実用英語Ⅰ	実用英語Ⅰ	*	1				1	同時開講
		社会学Ⅰ	*	1				1	前期実施
	中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	*	1				1	同時開講
		実用英語Ⅱ	*	1				1	後期実施
	社会学Ⅱ	社会学Ⅱ	*	1				1	
		中国語Ⅱ	*	1				1	
	小計		8	2			4	2	
一般科目開設単位数			86	30	26	14	12	4	
一般科目総開設単位数			116	34	26	14	34	8	
*の4, 5年は学則第26条第3項による授業科目									

(出典 平成24年度学生便覧p. 74)

資料 5-1-①-2

学科名 一般科目 (生物応用化学科)			(平成21年度以降入学)										
区 分		授業科目		単位数	学 年 別 配 当						備 考		
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年				
必修科目	人文社会	国語ⅠA		2	2								
		国語ⅠB		2	2								
		国語Ⅱ		2		2							
		日本文学		2			2						
		世界史Ⅰ		2	2								
		世界史Ⅱ		1		1							
		政治・経済		1		1							
		倫理・社会		2		2							
		地理		2	2								
	自然科学	基礎数学A		4	4								
		基礎数学B		2	2								
		線形代数Ⅰ		2		2							
		線形代数Ⅱ		1			1						
		微分積分Ⅰ		4		4							
		微分積分Ⅱ		4			4						
		数学講究		1			1				後期実施		
		物理		5	2	3							
		化学		4	3	1							
	生物		2		2								
	外国語	英語ⅠA		4	4								
		英語ⅠB		2	2								
		英語ⅡA		2		2							
		英語ⅡB		3		3							
		英語Ⅲ		2			2						
		英語特講Ⅰ		1			1				前期実施		
		英語特講Ⅱ		1			1				後期実施		
		英語Ⅴ	*	2					2				
	保健体育(武道を含む)			10	4	2	2	2					
	小計			72	29	25	14	2	2				
選択必修科目		言語表現学Ⅰ	*	1				1			同時開講	前期実施 左記4単位の中から1単位以上修得	
		歴史学概論Ⅰ	*	1				1					
		技術者倫理入門Ⅰ	*	1				1					
		法学Ⅰ	*	1				1					
		言語表現学Ⅱ	*	1				1			同時開講	後期実施 左記4単位の中から1単位以上修得	
		歴史学概論Ⅱ	*	1				1					
		技術者倫理入門Ⅱ	*	1				1					
		法学Ⅱ	*	1				1					
		物理学特講	*	1				1			同時開講	前期実施 左記5単位の中から1単位以上修得	
		現代科学Ⅰ	*	1				1					
	現代科学Ⅲ	*	1				1						
	現代科学Ⅳ	*	1				1						
		現代科学Ⅴ	*	1				1			同時開講	後期実施 左記5単位の中から1単位以上修得	
		化学特講	*	1				1					
		現代科学Ⅰ	*	1				1					
		現代科学Ⅱ	*	1				1					
		現代科学Ⅲ	*	1				1					
		現代科学Ⅳ	*	1				1					
		英語ⅣA	*	2				2			同時開講	左記4単位の中から2単位以上修得	
		英語ⅣB	*	2				2					
		小計			6				6				
選択科目			美術		2	2						同時開講	
	音楽			2	2								
	書道			2	2								
		文学概論Ⅰ	*	1				1			同時開講	前期実施	
		心理学Ⅰ	*	1				1					
		経済学Ⅰ	*	1				1					
		哲学Ⅰ	*	1				1					
		文学概論Ⅱ	*	1				1			同時開講	後期実施	
		心理学Ⅱ	*	1				1					
		経済学Ⅱ	*	1				1					
		哲学Ⅱ	*	1				1					
		数学特講Ⅰ	*	1				1			前期実施		
		数学特講Ⅱ	*	1				1			後期実施		
		実用英語Ⅰ	*	1					1		同時開講	前期実施	
		社会学Ⅰ	*	1					1				
		中国語Ⅰ	*	1					1				
		実用英語Ⅱ	*	1					1		同時開講	後期実施	
		社会学Ⅱ	*	1					1				
		中国語Ⅱ	*	1					1				
小計				8	2			4	2				
一般科目開設単位数				86	31	25	14	12	4				
一般科目総開設単位数				116	35	25	14	34	8				
				*の4, 5年は学則第26条第3項による授業科目									

(出典 平成24年度学生便覧p. 76)

資料 5－1－①－3

学科名 専門科目 (機械工学科)				(平成21年度以降入学)						
区分	授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	応 用 数 学 I		1			1				
	応 用 数 学 II	*	2				2			
	応 用 数 学 III	*	1					1		
	応 用 物 理 I		2			2				
	応 用 物 理 II	*	2				2			
	機 械 工 学 序 論		1	1						
	機 械 工 作 法		2		2					
	機 械 工 作 実 習		5	2	3					
	総 合 実 習		4			4				
	創 造 工 学		2				2			
	機 械 工 学 演 習 I		2			2				
	機 械 工 学 演 習 II	*	2				2			
	情 報 処 理 I		2	2						
	情 報 処 理 II		1		1					
	計 算 機 援 用 工 学	*	1					1		
	メ カ ト ロ ニ ク ス		2			2				
	材 料 力 学 I		2			2				
	材 料 力 学 II	*	2				2			
	熱・流体工学基礎		1			1				
	熱 力 学	*	2				2			
	水 力 学	*	2				2			
	機 械 運 動 学		2			2				
	機 械 設 計 法	*	2				2			
	機 械 力 学	*	2				2			
	材 料 学 I	*	1				1			
	材 料 学 II	*	1					1		
	機 械 設 計 製 図	*	12	1	2	3	3	3		
	工 学 実 験	*	6				2	4		
	卒 業 研 究		9					9		
	小 計		76	6	8	19	24	19		
選択必修科目	熱 工 学	*	2					2	2単位以上 修得	
	流 体 工 学	*	2					2		
	生 産 シ ス テ ム	*	1					1	1単位以上 修得	
	塑 性 加 工 学	*	1					1		
	制 御 工 学	*	1					1	1単位以上 修得	
	電 子 回 路	*	1				1			
	ロ ボ ッ ト 工 学	*	1				1			
小 計		9					9			
選択科目	機 械 加 工 工 学		1			1				
	情 報 処 理 応 用		1			1				
	電 気 工 学 概 論		1			1				
	工 業 英 語	*	1					1		
	計 測 工 学	*	1					1		
	弾 性 学	*	1					1		
	創 造 工 学 演 習		5	1	1	1	1	1		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ		2				1	1		
小 計		13	1	1	4	2	5			
専 門 科 目 開 設 単 位 数			98	7	9	23	26	33		
一 般 科 目 開 設 単 位 数			86	30	26	14	12	4		
開 設 単 位 数 合 計			184	37	35	37	38	37		
修 得 単 位 数			167 以 上	134以上 167以上(専門科目82以上)						
課 題 研 究			別に定める							
			*の4, 5年は学則第26条第3項による授業科目							

資料 5 - 1 - ① - 4

学科名 専門科目 (電気電子工学科)			(平成23年度以降入学)						
区分	授業科目		単位数	学 年 別 配 当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	*	2				2		
	応用数学Ⅱ	*	2					2	
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ	*	2				2		
	電気電子工学序論		1	1					
	電気電子製図		2		2				
	情報処理Ⅰ		2	2					
	情報処理Ⅱ		1		1				
	電気磁気学	*	4			2	2		
	電気回路	*	6		2	2	2		
	電気電子計測		2			2			
	電子回路	*	3			2	1		
	電子回路設計		1			1			
	デジタル回路	*	2				1	1	
	電子物性基礎		2			2			
	電気電子材料	*	2				1	1	
	半導体工学	*	1				1		
	計算機システム	*	2						2
	電子制御基礎		1			1			
	制御システム	*	2				2		
	電気機器	*	3			1	2		
	電力システム工学	*	2						2
	情報通信工学	*	2						2
	電気電子工学演習		2		1	1			
	ものづくり実習		2	2					
	創造工学		2				2		
	電気電子工学実験	*	14		4	4	3	3	
	卒業研究		10						10
	小 計		79	5	10	20	21	23	
選択科目	プログラミング言語		1			1			
	電気電子工学演習	*	1				1		
	電気法規	*	1				1		
	発変電工学	*	1				1		
	高電圧工学	*	2					2	
	パワー・エレクトロニクス	*	1					1	
	電気エネルギー応用Ⅰ	*	1					1	
	電気エネルギー応用Ⅱ	*	1					1	
	電気電子応用	*	1					1	
	電子デバイス工学	*	1					1	
	創造工学演習		5	1	1	1	1	1	
	インターンシップ		2				1	1	
	小 計		18	1	1	2	5	9	
専門科目開設単位数			97	6	11	22	26	32	
一般科目開設単位数			86	30	26	14	12	4	
開設単位数合計			183	36	37	36	38	36	
修得単位数			167以上	134以上					
		167以上(専門82以上)							
課題研究			別に定める						
			*の4, 5年は学則第26条第3項による授業科目						

(出典 平成24年度学生便覧p. 82)

資料 5-1-①-5

学科名 専門科目 (電子情報工学科)					(平成23年度以降入学)				
区分	授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1 年		2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	電子情報工学序論		1	1					
	プログラミング基礎		1	1					
	情報処理Ⅰ		1	1					
	マイクロコンピュータ基礎		1		1				
	電気電子基礎		2		2				
	プログラム設計		2		2				
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ	*	2				2		
	デジタル回路		2			2			
	オペレーティングシステム		2			2			
	データ構造とアルゴリズム		2			2			
	電子機器学		1			1			
	電子工学		2			2			
	電気磁気学	*	4			2	2		
	電気回路論	*	4			2	2		
	電子回路	*	3			1	2		
	応用数学Ⅰ	*	2				2		
	ソフトウェア工学	*	2				2		
	計算機アーキテクチャ	*	2				2		
	情報通信ネットワーク	*	2				2		
	基礎制御工学	*	2				2		
	創造工学		2				2		
	情報理論Ⅰ	*	1				1		
	電子材料工学	*	2					2	
	電子情報工学実験	*	14	2	4	4	4		
	卒業研究		10					10	
	小計		71	5	9	20	25	12	
選択必修科目	情報理論Ⅱ	*	1					1	3単位以上修得
	計算機工学	*	2					2	
	情報数学	*	2					2	
	電子計測	*	2					2	3単位以上修得
	光電子工学	*	2					2	
	集積回路工学	*	1					1	
	小計		10					10	
選択科目	数値解析	*	1					1	
	応用数学Ⅱ	*	2					2	
	画像処理工学	*	2					2	
	人工知能	*	2					2	
	電子制御工学	*	2					2	
	創造工学演習		5	1	1	1	1	1	
	インターンシップ		2				1	1	
	小計		16	1	1	1	2	11	
専門科目開設単位数		97	6	10	21	27	33		
一般科目開設単位数		86	30	26	14	12	4		
開設単位数合計		183	36	36	35	39	37		
修得単位数		167以上	134単位以上						
			167以上(専門科目82以上)						
課題研究			別に定める						
			※の4、5年け学則第26条第3項による授業科目						

資料5-1-①-6

学科名		専門科目（生物応用化学科）				(平成21年度以降入学)				
区分		授業科目		単 位	学 年 別			配 当	備考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目		応用数学Ⅰ	*	2				2		
		応用物理Ⅰ		2			2			
		応用物理Ⅱ	*	2				2		
		情報処理Ⅰ		2	2					
		情報処理Ⅱ		1		1				
		情報処理応用	*	2				2		
		生物応用化学序論		1	1					
		無機化学	*	3			2	1		
		有機化学		4		2	2			
		物理化学Ⅰ	*	3			2	1		
		物理化学Ⅱ	*	2				2		
		分析化学		2		2				
		機器分析化学		2			2			
		生物化学		2			2			
		微生物学Ⅰ		1			1			
		細胞生物学		1			1			
		化学工学Ⅰ	*	2			1	1		
		反応工学Ⅰ	*	1				1		
		創造工学		2				2		
		有機工業化学	*	2					2	
		化学設計製図	*	2					2	
		生物応用化学実験	*	14	2	4	4	4		
		卒業研究		10					10	
		小計		65	5	9	19	18	14	
応用化学コース	必修科目	高分子化学	*	2				2		
		反応工学Ⅱ	*	1				1		
		化学工学Ⅱ	*	2				1	1	
		応用化学コース実験	*	3					3	
		小計		8	0	0	0	4	4	
	コース選択	精密合成化学	*	2				2		
		触媒化学	*	1					1	
		電気化学	*	1					1	4単位以上修得
		無機工業化学	*	2					2	
		機能材料工学	*	1					1	
		小計		7	0	0	0	2	5	
	生物化学コース	必修科目	微生物学Ⅱ	*	2				2	
細胞工学			*	1				1		
生物化学工学			*	2				1	1	
生物化学コース実験			*	3					3	
小計				8	0	0	0	4	4	
コース選択		分子生物学	*	2				2		
		タンパク質化学	*	2					2	
		生物情報工学	*	1					1	4単位以上修得
		遺伝子工学	*	1					1	
		生体材料工学	*	1					1	
小計		7	0	0	0	2	5			
共通選択科目	応用数学Ⅱ	*	1					1		
	工業英語		1			1				
	環境分析化学	*	1				1			
	界面化学	*	1					1		
	生物機能工学	*	2					2		
	環境工学	*	2					2		
	創造工学演習		5	1	1	1	1	1		
	インターンシップ		2				1	1		
小計		15	1	1	2	3	8			
専門科目開設単位数			95	6	10	21	27	31		
一般科目開設単位数			86	31	25	14	12	4		
開設単位数合計			181	37	35	35	39	35		
修 得 単 位 数			167以上	134以上 計167以上(専門科目82以上を含む。)						
課題研究			別に定める							
*の4、5年は学則第26条第3項による授業科目										

*の4, 5年は学則第26条第3項による授業科目

(出典 平成24年度学生便覧 p.87)

資料5-1-①-7

学科名 専門科目 (材料工学科)				(平成23年度以降入学)					
区分	授業科目		単位数	学 年 別 配 当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	*	2				2		
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ	*	2				2		
	情報処理Ⅰ		2	2					
	情報処理Ⅱ		1		1				
	情報処理応用	*	1					1	
	機械工作法		1		1				
	材料工学序論		1	1					
	基礎材料学		2		2				
	材料組織学		2			2			
	材料強度学		2			2			
	材料力学	*	1				1		
	熱力学		2			2			
	無機化学		1			1			
	無機材料	*	2				2		
	有機化学		2			2			
	有機材料	*	2				2		
	鉄鋼材料	*	2				2		
	非鉄金属材料	*	1				1		
	物理化学Ⅰ	*	1				1		
	物理化学Ⅱ	*	1				1		
	結晶解析学	*	1				1		
	材料プロセス工学	*	1						1
	材料機器分析	*	1						1
	生産工学	*	1						1
	機能材料	*	1						1
	高分子機能材料	*	1						1
	半導体工学	*	1						1
	量子力学	*	1						1
	電気化学	*	1						1
	接合工学	*	1					1	
	鋳造工学	*	1						1
	塑性加工	*	1						1
	複合材料	*	1						1
	設計製図Ⅰ		1	1					
	設計製図Ⅱ		1		1				
	設計製図Ⅲ		1			1			
	設計製図Ⅳ	*	1					1	
	ものづくり実習		2		2				
	創造工学		2					2	
	材料工学実験	*	13	2	1	4	4	2	
	卒業研究		9						9
	小計		76	6	8	16	23	23	
選択科目	応用数学Ⅱ	*	2					2	
	材料環境科学	*	1						1
	工業英語	*	1						1
	電気工学基礎Ⅰ		1			1			
	電気工学基礎Ⅱ	*	1				1		
	材料設計学	*	1					1	
	設計製図Ⅴ	*	1					1	
	機械工学基礎Ⅰ	*	1				1		
	機械工学基礎Ⅱ	*	1					1	
	創造工学演習		5	1	1	1	1	1	
	インターンシップ		2				1	1	
	小計		17	1	1	2	4	9	
	専門科目開設単位数			93	7	9	18	27	32
一般科目開設単位数			86	30	26	14	12	4	
開設総単位数合計			179	37	35	32	39	36	
修得単位数			167	134以上					
			以上	167以上(専門科目82以上)					
課題研究			別に定める						
※の4, 5年は学則第26条第3項による授業科目									

(出典 平成24年度学生便覧p. 91)

資料 5 - 1 - ① - 8

一般科目と専門科目の単位数と総単位数に対する一般及び専門科目の各学科・学年での比率

機械工学科

学年	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 (%)	必修	選択	比率 (%)
1 年	28	2	81.1	6	1	18.9
2 年	26	0	74.3	8	1	25.7
3 年	14	0	37.8	19	4	62.2
4 年	8	4	31.6	24	2	68.4
5 年	2	2	12.5	23	5	87.5

電気電子工学科

学年	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 (%)	必修	選択	比率 (%)
1 年	28	2	83.3	5	1	16.7
2 年	26	0	70.3	10	1	29.7
3 年	14	0	38.9	20	2	61.1
4 年	8	4	31.5	21	5	68.4
5 年	2	2	11.1	23	9	88.9

電子情報工学科

学年	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 (%)	必修	選択	比率 (%)
1 年	28	2	83.3	5	1	16.7
2 年	26	0	72.2	9	1	27.8
3 年	14	0	40.0	20	1	60.0
4 年	8	4	31.6	24	2	68.4
5 年	2	2	12.1	18	11	87.9

生物応用化学科

学年	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 (%)	必修	選択	比率 (%)
1 年	29	2	83.8	5	1	16.2
2 年	25	0	71.4	9	1	28.6
3 年	14	0	40.0	19	2	60.0
4 年	8	4	32.4	22	3	67.6
5 年	2	2	11.8	22	8	88.2

材料工学科

学年	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 (%)	必修	選択	比率 (%)
1 年	28	2	81.1	6	1	18.9
2 年	26	0	74.3	8	1	25.7
3 年	14	0	43.8	16	2	56.3
4 年	8	4	30.8	23	4	69.2
5 年	2	2	11.1	23	9	88.9

(出典 教育課程表より算出)

鈴鹿工業高等専門学校基本理念

鈴鹿工業高等専門学校は、建学の精神を踏まえ、未来を展望し、次のとおり教育理念と養成すべき人材像を定める。

使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

(出典 平成24年度学生便覧表紙の次ページ)

○教育に関する目標

<学科教育>

教育方針

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

教養教育の目標

豊かな人間性と社会性を涵養し、広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。また、自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

専門教育の共通目標

「複合型生産システム工学」教育プログラム（2003年度JABEE認定）で期待される高い専門知識と豊富な実験技術を養う。

機械工学科の目標

機械工学に関する理論と知識（材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等）、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。

電気電子工学科の目標

電気電子工学に関する理論と知識（電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信）並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。

電子情報工学科の目標

電子情報工学に関する理論と知識（電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等）及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。

生物応用化学科の目標

化学に関する理論と知識（無機化学系科目、有機化学系科目、分析化学系科目、生物化学系科目、物理化学系科目等）及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識（工業化学系科目、化学工学系科目、設計・システム系科目、環境工学系科目、細胞工学系科目、遺伝子工学系科目、生体材料工学系科目等）並びに豊富な実験技術を習得させるとともに、創造性を養う。

材料工学科の目標

材料工学に関する理論と知識（材料の物理と化学、材料の構造・設計・物性・機能、製造プロセス等）及び豊富な実験技術を習得させるとともに、それらを応用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

<学習・教育目標>

教育理念、養成すべき人材像、教養教育の目標、専門教育の目標などを統合し、学生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を、学科及び専攻科ごとの「学習・教育目標」として別に定める。

○学生への支援に関する目標

豊かな人間性、健全な心身及び確かな自己実現を図るため、学生の学習活動や課外活動等への参加を促進し、未来を自ら切り拓く力を引き出せるよう修学上及び生活上の支援を行う。

（出典 平成24年度学生便覧表紙より3-4ページ目）

機械工学科 学習・教育目標

本学科の卒業生は、産業界で活躍できる実践的機械技術者として、以下の姿勢・知識・技術・能力を身に付けている必要がある。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

- < 視野 > 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。(a)
- < 技術者倫理 > 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。(b)
- < 意欲 > 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識・技術とその応用力 (c, d, e, h)

- < 基礎 > 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。(d)
- < 専門 > 機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を身に付けている。(d)
- < 展開 > 習得した知識・技術をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。(c, d, e, h)

(C) コミュニケーション能力 (f)

- < 発表 > 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)
- < 英語 > 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

注：文末のアルファベットはJABEEの基準1(1)との対応関係を示す。

(出典 平成24年度学生便覧p. 34)

電気電子工学科(電気工学科) 学習・教育目標

本学科の卒業生は、基礎理論と十分なる実験・実習技術を背景に、工業分野で活躍できる実践的技術者として以下の知識・技術・能力を身につけている必要がある。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

- < 視野 > 地球人としての視野をもって自己と世界の関係を理解し、地球規模で物事を眺める。(a)
- < 技術者倫理 > 技術が人類・社会・自然におよぼす影響や生産により生じる環境と社会の変化を認識し責任を自覚する。(b)
- < 意欲 > 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)

- < 基礎 > 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。(c)
- < 専門 > 電気・電子・情報通信分野の基礎理論、基礎技術の知識を習得している。(d)
- < 展開 > 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。(c, d, e, h)

(C) コミュニケーション能力 (f)

- < 発表 > 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)
- < 英語 > 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

注：文末のアルファベットはJABEEの基準1(1)との対応関係を示す。

(出典 平成24年度学生便覧p. 34)

電子情報工学科 学習・教育目標

電子情報工学科では、電気・電子および情報・通信の理論と技術に基づく教育を行う。

そのために、高専教育の特徴である早期5年一貫教育により、

電子情報工学に関する知識と、豊富な実験技術を得た実践的技術者を育成する。

本学科の学生は、以下の姿勢のもとに知識・能力の修得を目指す。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。(a)

<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。(b)

<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自立的に学習する。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)

<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。(c)

<専門> 電子情報工学と関連分野の知識を習得している。(d)

<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、

電気・電子および情報・通信技術を融合し、新たな価値を生み出す能力を習得している。(c, d, e, h)

(C) 意思伝達・討論能力 (f)

<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)

<英語> 英語による技術文書の記述・読解ができる。(f)

※ 文末のアルファベットはJABEEの基準1(1)との対応関係を示す。

(出典 平成24年度学生便覧p. 35)

生物応用化学科 学習・教育目標

生物応用化学科では、5年一貫教育により、化学および生物化学に関する専門知識と、豊富な実験技術を身に付けた実践的技術者を育成する。生物応用化学科の卒業生は、以下の姿勢・知識・能力を身につけている必要がある。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。(a)

<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。(b)

<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自立的に学習する。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)

<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。(c)

<専門> 化学および生物化学に関する専門知識・実験技術を習得している。(d)

<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。(c, d, e, h)

(C) コミュニケーション能力 (f)

<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。(f)

<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

注：文末のアルファベットは
JABEEの基準1(1)との
対応関係を示す。

この目標は、学科1年次から5年次の学生を対象としたものであり、専攻科までを対象とした「『複合型生産システム工学』教育プログラム」の学習・教育目標の一部分をなすものである。

(出典 平成24年度学生便覧p. 35)

材料工学科 学習・教育目標

中京地区の特色でもある材料に関連の深い工業技術分野からの要請に基づき、**材料工学に関する基礎理論と実験技術**を背景に各種工業分野で活躍できる実践的技術者として以下の知識・技術・能力を身につけている必要がある。

(A) 技術者としての姿勢 (a, b, e, g)

- <視野> 多様性を積極的に肯定し、グローバルな視点から多角的に物事を見つめ考察できる。(a)
- <技術者倫理> 材料の製造・利用・廃棄に関する技術が社会および自然に及ぼす影響を把握し、技術者として社会に対し果たさなければならない責任を自覚できる。(b)
- <意欲> 技術の進歩に対応して最新の情報を収集・理解し、社会の新たなニーズに合った課題を見いだし、自主的・継続的に学習できる。(e, g)

(B) 基礎・専門の知識とその応用力 (c, d, e, h)

- <基礎> 材料工学の基本を理解し諸問題を解決するために必要な数学、自然科学、情報技術に関する知識と応用力を習得している (c)
- <専門> 材料の構造・性質・機能および製造・加工についての基本を理解し、その利用や新しい材料の開発、材料に関連した諸問題の解決に応用できる。(d)
- <展開> 身に付けた科学・技術や知識・情報により創造力を発揮し、限られた条件の下に自らの課題について実験を計画・遂行し、その成果をまとめることができる。(c, d, e, h)

(C) コミュニケーション能力 (f)

- <発表> 自らの課題に対して日本語により論理的に記述・伝達・討論できる (f)
- <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。(f)

注:文末のアルファベットは
JABEEの基準1(1)との
対応関係を示す。

(出典 平成24年度学生便覧p. 36)

教育課程系統図									
機械工学科1年～電子機械工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム)									
学習・教育目標		学 科					専 攻 科		
		1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	
(A)	<視 野>	国 語 I A (2) 国 語 I B (2)	国 語 II (2)	日 本 文 学 (2)	文 学 概 論 I (1)* 文 学 概 論 II (1)* 言 語 表 現 学 I (1)† 言 語 表 現 学 II (1)†				
		世 界 史 I (2)	世 界 史 II (1)*		歴 史 学 概 論 I (1)† 歴 史 学 概 論 II (1)†				
		地 理 (2)*							
			倫 理 ・ 社 会 (2)		哲 学 I (1)† 哲 学 II (1)†				
		機 械 工 学 序 論 (1)	政 治 ・ 経 済 (1)		法 学 I (1)† 法 学 II (1)† 経 済 学 I (1)* 経 済 学 II (1)*	社 会 学 I (1)* 社 会 学 II (1)*		国 際 関 係 論 (2) 経 営 学 (2)†	
					心 理 学 I (1)* 心 理 学 II (1)*				
		保 健 体 育 (4)	保 健 体 育 (2)	保 健 体 育 (2)	保 健 体 育 (2)				
		英 語 I A (4) 英 語 I B (2)	英 語 II A (2) 英 語 II B (3)	英 語 III (2) 英 語 特 講 I (1) 英 語 特 講 II (1)	英 語 IV A(2)† 英 語 IV B(2)†	英 語 V (2) 実 用 英 語 I (1)* 実 用 英 語 II (1)* 中 国 語 I (1)* 中 国 語 II (1)*	英 語 総 合 I (1)	英 語 総 合 II (1)	
		美 術 (2)* 音 楽 (2)* 書 道 (2)*							
	<技術者倫理>		倫 理 ・ 社 会 (2)		技 術 者 倫 理 入 門 I (1)† 技 術 者 倫 理 入 門 II (1)† 哲 学 I (1)* 哲 学 II (1)*		技 術 者 倫 理 (2)		
	<意 欲>				創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (10)	特 別 研 究	特 別 研 究 (12)	
(B)	<基 礎>	基 礎 数 学 A (4) 基 礎 数 学 B (2)	線 形 代 数 I (2) 線 形 代 数 II (1) 微 分 積 分 I (4) 数 学 講 究 (1) 応 用 数 学 I (1)	微 分 積 分 II (4) 線 形 代 数 II (1) 数 学 講 究 (1) 応 用 数 学 I (1)	数 学 特 講 I (1)* 数 学 特 講 II (1)* 応 用 数 学 II (2)	応 用 数 学 III (1)	代 数 学 特 論 (2) 数 理 解 析 学 I (2)† 数 理 解 析 学 II (2)†		
		物 理 (2)	物 理 (3)	総 合 基 礎 物 理 (1) 応 用 物 理 I (2)	物 理 学 特 講 (1)† 応 用 物 理 II (2)		応 用 物 理 学 (2)*		
					現 代 科 学 I (1)† 現 代 科 学 II (1)† 現 代 科 学 III (1)† 現 代 科 学 IV (1)†				
		化 学 (2)	化 学 (2)		化 学 特 講 (1)†		化 学 総 論 (2)*		
			生 物 (2)		現 代 科 学 V (1)†			生 命 工 学 (2)*	
		情 報 処 理 I (2)	情 報 処 理 II (1)	情 報 処 理 応 用 (1)*		計 算 機 採 用 工 学 (1)			
		□ : 目標達成の証明科目	□ : 他の目標の証明科目	† : 選択必修科目	* : 選択科目	無印: 必修科目	(複合型生産システム工学教育プログラム) (次ページへ続く)		

資料5-1-①-16続き

教育課程系統図									
機械工学科1年～電子機械工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム) (つづき)									
学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科			
						専1年	専2年		
(B)	<専門>		(材料と構造)	材料力学Ⅰ(2)	材料科学Ⅰ(1) 材料力学Ⅱ(2)	材料科学Ⅱ(1) 弾性学(1)*	構造設計学(2)* 力学特論(2)* 複合材料工学(2)† 非破壊検査工学(2)†	物性工学(2) 電子材料特論(2)*	
			(エネルギーと流れ)	熱・流体工学基礎(1)	熱力学(2) 水力学(2)	熱工学(2)† 流体力学(2)†	エネルギー・移送論(2)* 流体力学特論(2)*		
		機械工学序論(1)	(運動と振動)	機械運動学(2)	機械力学(2)	制御工学(1)†	(情報・論理系科目) 応用情報工学(2)	データ処理システム(2)*	
			(計測・制御)			計測工学(1)* 制御工学(1)†	情報通信工学特論(2)* 制御機器工学(2)*	センサ工学(2) ヒューマンインターフェース(2)*	
			(機械とシステム)	メカトロニクス(2) 電気工学概論(1)*		ロボット工学(1)† 電子回路(1)†	応用電子回路論(2)* マイクロデバイス工学(2)†	電子線機器工学(2)* 電気理論特論(2)* メカトロニクス工学特論(2)*	
			(設計と生産)	機械工作法(2)	機械加工学(1)*	機械設計法(2)	塑性加工学(1)† 生産システム(1)†	生産設計工学(2)*	
			(設計製図)	機械設計製図(1)	機械設計製図(2)	機械設計製図(3)	データベース論(2) 信頼性工学(2)		
				機械工学演習Ⅰ(2)	機械工学演習Ⅱ(2)		先端技術特論(2)* 実践工業数学Ⅰ(1)* 実践工業数学Ⅱ(1)*		
			(実験・実習・創造工学・卒業研究・特別研究)	機械工作実習(2) 創造工学演習(1)*	機械工作実習(3) 創造工学演習(1)* 総合実習(4) 創造工学演習(1)*	創造工学(2) 工学実験(2) 創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	卒業研究(9) 工学実験(4) 創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	特別研究 電子機械工学実験(2) インターンシップⅠ* インターンシップⅡ* インターンシップⅢ*	特別研究(12) 電子機械工学実験(2) 電子機械工学特論(2) インターンシップⅡ(2)* インターンシップⅣ(4)* インターンシップⅢ(6)*
	<展開>			総合実習(4)	創造工学(2) インターンシップ(1)*	卒業研究(9) 工学実験(4) インターンシップ(1)*	特別研究 電子機械工学実験(2) インターンシップⅠ* インターンシップⅡ* インターンシップⅢ*	特別研究(12) 電子機械工学実験(2) インターンシップⅡ(2)* インターンシップⅣ(4)* インターンシップⅢ(6)*	
(C)	<発表>	国語ⅠA(2)	国語Ⅱ(2)	日本文学(2)	言語表現Ⅰ(1)† 言語表現Ⅱ(1)†			言語表現学特論(2)†	
				総合実習(4)	創造工学(2)	卒業研究(9)	特別研究	特別研究(12)	
	<英語>	英語ⅠA(4) 英語ⅠB(2)	英語ⅡA(2) 英語ⅡB(3)	英語Ⅲ(2) 英語特講Ⅰ(1) 英語特講Ⅱ(1)	英語ⅣA(2)† 英語ⅣB(2)†	英語Ⅴ(2) 工業英語(1)* 実用英語Ⅰ(1)* 実用英語Ⅱ(1)*	技術英語Ⅰ(1) 英語総合Ⅰ(1)	技術英語Ⅱ(1) 英語総合Ⅱ(1)	
□:目標達成の証明科目 □:他の目標の証明科目 †:選択必修科目 * :選択科目 無印:必修科目 (複合型生産システム工学教育プログラム)									

(出典 平成24年度学生便覧p. 97)

教育課程系統図															
電気電子工学科1年～電子機械工学専攻(学科H23年度、専攻科H23年度カリキュラム)															
学習・教育目標		1年		2年		学 科 3年		4年		5年		専 攻 科 専1年		専2年	
(A)	<視 野>	国 語 I A (2)		国 語 II (2)		日 本 文 学 (2)		文 学 概 論 I (1)*						言 語 表 現 学 特 論 (2)†	
		国 語 I B (2)						文 学 概 論 II (1)*							
								言 語 表 現 学 I (1)†							
								言 語 表 現 学 II (1)†							
		世 界 史 I (2)		世 界 史 II (1)				歴 史 学 概 論 I (1)†							
		地 理 (2)						歴 史 学 概 論 II (1)†							
				倫 理 ・ 社 会 (2)				哲 学 I (1)*							
								哲 学 II (1)*							
				政 治 ・ 経 済 (1)				経 済 学 I (1)*		社 会 学 I (1)*				国 際 関 係 論 (2)	
								経 済 学 II (1)*		社 会 学 II (1)*				経 営 学 (2)†	
						法 学 I (1)†									
						法 学 II (1)†									
								心 理 学 I (1)*							
								心 理 学 II (1)*							
		保 健 体 育 (4)		保 健 体 育 (2)		保 健 体 育 (2)		保 健 体 育 (2)							
		英 語 I A (4)		英 語 II A (2)		英 語 III (2)		英 語 IV A(2)†		英 語 V (2)		英 語 総 合 I (1)		英 語 総 合 II (1)	
		英 語 I B (2)		英 語 II A (3)		英 語 特 講 I (1)		英 語 IV B(2)†		実 用 英 語 I (1)*					
						英 語 特 講 II (1)				実 用 英 語 II (1)*					
		美 術 (2)*								中 国 語 I (1)*					
		音 楽 (2)*								中 国 語 II (1)*					
		書 道 (2)*													

資料 5 - 1 - ① - 17 続き

教育課程系統図 電気電子工学科1年～電子機械工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム) (つづき)								
学習・教育目標	1年	2年	学 科 3年	4年	5年	専 攻 科 専1年	専 攻 科 専2年	
< 専 門 >	電気電子工学序論(1)	電 気 回 路 (2) 電気電子工学演習(1)	電 気 磁 気 学 (2) 電 気 回 路 (2) 電 気 電 子 計 測 (2) 電 子 回 路 (2) 電 子 制 御 基 礎 (1) 電気電子工学演習(1)	電 気 磁 気 学 (2) 電 気 回 路 (2) 電 子 回 路 (1) デ ィ ジ タ ル 回 路 (1) 制 御 シ ス テ ム (2) 電気電子工学演習(1)*		デ ィ ジ タ ル 回 路 (1) 情 報 通 信 工 学 (2) 応 用 電 子 回 路 論 (2)* 情報通信工学特論(2)*	セン サ 工 学 (2) 電 気 理 論 特 論 (2)*	
			電 子 物 性 基 礎 (2)	半 導 体 工 学 (1) 電 気 電 子 材 料 (1)	電 気 電 子 材 料 (1) 電 子 ティ「ハ」イス工学(1)*	複 合 材 料 工 学 (2)* 非 破 壊 検 査 工 学 (2)*	物 性 工 学 (2) 電 子 材 料 特 論 (2)*	
		電 気 電 子 製 図 (2)	電 気 機 器 (1)	電 気 機 器 (2) 発 変 電 工 学 (1)* 電 気 法 規 (1)*	ハ「ワ」エレクトロニクス(1)* 電 力 シ ス テ ム 工 学 (2) 高 電 圧 工 学 (2)* 電 気 エ ネ ル ギ ー 応 用 I (1)* 電 気 エ ネ ル ギ ー 応 用 II (1)*	信 頼 性 工 学 (2) 流 体 力 学 特 論 (2)† エ ネ ル ギ ー 移 送 論 (2)† 制 御 機 器 工 学 (2)† マイク「ロ」ッセ工学(2)*	生 産 設 計 工 学 (2)† ヒューマンインターフェース(2)* メカトロニクス工学特論(2)* 電 子 機 械 工 学 (2)*	
< 展 開 >	ものづくり実習(2) 創造工学演習(1)*	電気電子工学実験(4) 創造工学演習(1)*	電気電子工学実験(4) 電 子 回 路 設 計 (1) 創造工学演習(1)*	電気電子工学実験(3) 創 造 工 学 (2) 創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	電気電子工学実験(3) 卒 業 研 究 (10) 創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	電子機械工学実験(2) 特 別 研 究 インターンシップ「I」(2)* インターンシップ「II」(4)* インターンシップ「III」(6)*	電子機械工学実験(2) 特 別 研 究 (12) インターンシップ「I」(2)* インターンシップ「II」(4)* インターンシップ「III」(6)*	
(C)	< 発 表 >	国 語 I A (2) 国 語 I B (2)	国 語 II (2)	日 本 文 学 (2)	言 語 表 現 学 I (1)* 言 語 表 現 学 II (1)*		言 語 表 現 学 特 論 (2)†	
	< 英 語 >	英 語 I A (4) 英 語 I B (2)	英 語 II A (2) 英 語 II A (3)	英 語 III (2) 英 語 特 講 I (1) 英 語 特 講 II (1)	英 語 IV A(2)† 英 語 IV B(2)†	英 語 V (2) 実 用 英 語 I (1)* 実 用 英 語 II (1)*	技 術 英 語 I (1) 英 語 総 合 I (1) 技 術 英 語 II (1) 英 語 総 合 II (1)	

□ : 目標達成の証明科目 □ : 他の目標の証明科目 無印: 必修科目 †: 選択必修科目 *: 選択科目 □ : 複合型生産システム工学教育プログラム

(出典 平成24年度学生便覧p. 99)

教育課程系統図 電子情報工学科1年～電子機械工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム)							
学習・教育目標	学 科					専 攻 科	
	1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年
(A) < 視 野 >	国語ⅠA(2) 国語ⅠB(2)	国語Ⅱ(2)	日本文学(2)	文学概論Ⅰ(1)* 文学概論Ⅱ(1)* 言語表現Ⅰ(1)† 言語表現Ⅱ(1)†			言語表現学特論(2)†
	世界史Ⅰ(2)	世界史Ⅱ(1)		歴史学概論Ⅰ(1)† 歴史学概論Ⅱ(1)†			
	地 理 (2)						
		倫理・社会(2)		哲学Ⅰ(1)* 哲学Ⅱ(1)*			
		政治・経済(1)		法学Ⅰ(1)† 法学Ⅱ(1)† 経済学Ⅰ(1)* 経済学Ⅱ(1)*	社会学Ⅰ(1)* 社会学Ⅱ(1)*		国際関係論(2) 経営学(2)†
				心理学Ⅰ(1)* 心理学Ⅱ(1)*			
	保健体育(4)	保健体育(2)	保健体育(2)	保健体育(2)			
	英語ⅠA(4) 英語ⅠB(2)	英語ⅡA(2) 英語ⅡB(3)	英語Ⅲ(2) 英語特講Ⅰ(1) 英語特講Ⅱ(1)	英語ⅣA(2)† 英語ⅣB(2)†	英語Ⅴ(2) 実用英語Ⅰ(1)* 実用英語Ⅱ(1)* 中国語Ⅰ(1)* 中国語Ⅱ(1)*	英語総合Ⅰ(1)	英語総合Ⅱ(1)
	美術(2)* 音楽(2)* 書道(2)*						
< 技術者倫理 >		倫理・社会(2)		技術者倫理入門Ⅰ(1)* 技術者倫理入門Ⅱ(1)* 哲学Ⅰ(1)* 哲学Ⅱ(1)* 創造工学(2)		技術者倫理(2)	
					卒業研究(10)		
< 意 欲 >				創造工学(2)	卒業研究(10)	特別研究	特別研究(12)
(B) < 基 礎 >	基礎数学A(4) 基礎数学B(2)	線形代数Ⅰ(2) 微分積分Ⅰ(4)	微分積分Ⅱ(4) 線形代数Ⅱ(1) 数学講究(1)	数学特講Ⅰ(1)* 数学特講Ⅱ(1)* 応用数学Ⅰ(2)	応用数学Ⅱ(1)*	代数学特論(2) 数理解析Ⅰ(2)† 数理解析Ⅱ(2)†	
	物 理 (2)	物 理 (3)	応用物理Ⅰ(2)	応用物理Ⅱ(2) 物理学特講(1)† 現代科学Ⅰ(1)† 現代科学Ⅱ(1)† 現代科学Ⅲ(1)† 現代科学Ⅳ(1)†		応用物理学(2)*	
	化 学 (2)	化 学 (2)		化学特講(1)†		化学総論(2)*	
		生 物 (2)		現代科学Ⅴ(1)†			生命工学(2)*
	情報処理Ⅰ(1)			情報理論Ⅰ(1)	計算機工学(2)†		
□:目標達成の証明科目 □:他の目標の証明科目 無印:必修科目 †:選択必修科目 *:選択科目 []:複合型生産システム工学教育プログラム (次ページへ続く)							

教育課程系統図							
電子情報工学科1年～電子機械工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム)(つづき)							
学習・教育目標	学 科					専 攻 科	
	1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年
< 専門 > (B)	電子情報工学序論(1)	電気電子基礎(2)	電気磁気学(2) 電気回路論(2) 電子工学(2) 電子回路(1) デジタル回路(2) 電子機器学(1)	応用物理Ⅱ(2) 電気磁気学(2) 電気回路論(2) 電子回路(2)	電子計測(2)† 集積回路工学(1)† 電子材料工学(2) 光電子工学(2)†	応用電子回路論(2)* 構造設計学(2) エネルギー移送論(2)† 複合材料工学(2)† 力学特論(2)* マイクロプロセス工学(2)† 流体力学特論(2)† 非破壊検査工学(2)*	電気理論特論(2)† センサ工学(2) 物性工学(2) 電子材料特論(2)* 電子線機器工学(2)*
				基礎制御工学(2)	電子制御工学(2)*	制御機器工学(2)†	メカトロニクス工学特論(2)*
	プログラミング基礎(1)	プログラム設計(2) マイクロコンピュータ基礎(1)	オペレーティングシステム(2) データ構造とアルゴリズム(2)	ソフトウェア工学(2) 情報通信ネットワーク(2) 計算機アーキテクチャ(2) 情報理論Ⅰ(1)	計算機工学(2)† 情報理論Ⅱ(1)† 数値解析(1)* 画像処理工学(2)* 人工知能(2)*	応用情報工学(2) 情報通信工学特論(2)*	データ処理システム(2)*
						データベース論(2) 環境保全工学(2) 信頼性工学(2)	生産設計工学(2)† ヒューマンインターフェース(2)*
						先端技術特論* 実践工業数学*	先端技術特論(2)* 実践工業数学(2)* 電子機械工学輪講(2)
< 展開 >	電子情報工学実験(2) 創造工学演習(1)*	電子情報工学実験(4) 創造工学演習(1)*	電子情報工学実験(4) 創造工学演習(1)*	電子情報工学実験(4) 創造工学(2) 創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	卒業研究(10) 創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	電子機械工学実験(2) 特別研究 インターンシップⅠ* インターンシップⅡ* インターンシップⅢ*	電子機械工学実験(2) 特別研究(12) インターンシップⅠ(2)* インターンシップⅡ(4)* インターンシップⅢ(6)*
< 発表 > (C)	国語ⅠA(2) 国語ⅠB(2)	国語Ⅱ(2)	日本文学(2)	言語表現Ⅰ(1)* 言語表現Ⅱ(1)*			言語表現学特論(2)†
				創造工学(2)	卒業研究(10)	特別研究	特別研究(12)
< 英語 >	英語ⅠA(4) 英語ⅠB(2)	英語ⅡA(2) 英語ⅡB(3)	英語Ⅲ(2) 英語特講Ⅰ(1) 英語特講Ⅱ(1)	英語ⅣA(2)† 英語ⅣB(2)†	英語Ⅴ(2) 実用英語Ⅰ(1)* 実用英語Ⅱ(1)*	技術英語Ⅰ(1) 英語総合Ⅰ(1)	技術英語Ⅱ(1) 英語総合Ⅱ(1)

□: 目標達成の証明科目

□: 他の目標の証明科目

無印: 必修科目

†: 選択必修科目

*: 選択科目

□: 複合型生産システム工学教育プログラム

教育課程系統図 生物応用化学科1年～応用物質工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム)															
学 習・教育目標		1年		2年		学 科 3年		4年		5年		専 攻 科			
												専1年		専2年	
(A)	< 視 野 >	国 語 I A (2)	国 語 II (2)	日 本 文 学 (2)	文 学 概 論 I (1)*									言 語 表 現 学 特 論 (2)†	
		国 語 I B (2)			文 学 概 論 II (1)*										
					言 語 表 現 学 I (1)†										
					言 語 表 現 学 II (1)†										
		世 界 史 I (2)	世 界 史 II (1)		歴 史 学 概 論 I (1)†										
		地 理 (2)			歴 史 学 概 論 II (1)†										
			倫 理・社会 (2)		哲 学 I (1) *										
					哲 学 II (1) *										
			政 治・経済 (1)		法 学 I (1) †	社 会 学 I (1) *								国 際 関 係 論 (2)	
					法 学 II (1) †	社 会 学 II (1) *								経 営 学 (2) †	
					経 済 学 I (1)*										
					経 済 学 II (1)*										
					心 理 学 I (1)*										
					心 理 学 II (1)*										
		保 健 体 育 (4)	保 健 体 育 (2)	保 健 体 育 (2)	保 健 体 育 (2)										
		英 語 I A (4)	英 語 II A (2)	英 語 III (2)	英 語 IV A(2) †	英 語 V (2)	英 語 総 合 I (1)	英 語 総 合 II (1)							
		英 語 I B (2)	英 語 II B (3)	英 語 特 講 I (1)	英 語 IV B(2) †	実 用 英 語 I (1)*									
				英 語 特 講 II (1)		実 用 英 語 II (1)*									
		美 術 (2)*				中 国 語 I (1)*									
		音 楽 (2)*				中 国 語 II (1)*									
		書 道 (2)*													
< 技術者倫理 >			倫 理・社会 (2)		技 術 者 倫 理 入 門 I (1)†	環 境 工 学 (2)*	技 術 者 倫 理 (2)								
					技 術 者 倫 理 入 門 II (1)†										
					哲 学 I (1)*										
					哲 学 II (1)*										
					創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (10)									
< 意 欲 >					創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (10)	特 別 研 究	特 別 研 究 (12)							
(B)	< 基 礎 >	基 礎 数 学 A (4)	線 形 代 数 I (2)	微 分 積 分 II (4)	数 学 特 講 I (1)*	応 用 数 学 II (1)*	代 数 学 特 論 (2)								
		基 礎 数 学 B (2)	微 分 積 分 I (4)	線 形 代 数 II (1)	数 学 特 講 II (1)*			数 理 解 析 学 I (2)†							
				数 学 講 究 (1)	応 用 数 学 I (2)			数 理 解 析 学 II (2)†							
		物 理 (2)	物 理 (3)	応 用 物 理 I (2)	応 用 物 理 II (2)		応 用 物 理 学 (2)*								
					物 理 学 特 講 (1)†										
					現 代 科 学 I (1)†										
					現 代 科 学 II (1)†										
					現 代 科 学 III (1)†										
					現 代 科 学 IV (1)†										
		化 学 (3)	化 学 (1)	無 機 化 学 (1)	無 機 化 学 (1)		化 学 総 論 (2)*								
		生 物 応 用 化 学 序 論 (1)	有 機 化 学 (2)	物 理 化 学 I (1)	物 理 化 学 I (1)										
		生 物 応 用 化 学 実 験 (2)	分 析 化 学 (2)	有 機 化 学 (2)	化 学 特 講 (1)†										
			生 物 応 用 化 学 実 験 (4)	生 物 応 用 化 学 実 験 (4)											
			生 物 (2)	生 物 化 学 (2)	現 代 科 学 V (1)†								生 命 工 学 (2)*		
				微 生 物 学 I (1)											
				細 胞 生 物 学 (1)											
		情 報 処 理 I (2)	情 報 処 理 II (1)		情 報 処 理 応 用 (2)	生 物 情 報 工 学 (2)†	コ ン プ ュ ー タ 特 論 (2)*								
							化 学 情 報 工 学 (2)*								
		□ : 目標達成の証明科目		□ : 他の目標の証明科目		無印: 必修科目		†: 選択必修科目		*: 選択科目		複合型生産システム工学教育プログラム (次ページへ続く)			

資料5-1-①-19続き

教育課程系統図									
生物応用化学科1年～応用物質工学専攻(学科H23年度, 専攻科H23年度カリキュラム) (つづき)									
学習・教育目標		1年	2年	学 科 3年	4年	5年	専 攻 科		
							専1年	専2年	
(B)	< 専 門 >				(力 学 系 科 目)		(情 報 ・ 論 理 系 科 目)		
					応 用 物 理 Ⅱ (2)		応 用 情 報 工 学 (2)		
					(無 機 化 学 系 科 目)				
					無 機 化 学 (2)	無 機 化 学 (1)			
			(有機化学系科目)						
			有 機 化 学 (2)	有 機 化 学 (2)		有 機 工 業 化 学 (2)			
			(分析化学系科目)						
			分 析 化 学 (2)	機 器 分 析 化 学 (2)	環 境 分 析 化 学 (1)*		分 析 化 学 特 論 (2)*		
			(生 物 化 学 系 科 目)						
			生 物 化 学 (2)			生 物 機 能 工 学 (2)*			
		生 物 化 学 序 論 (1)							
			微 生 物 学 I (1)						
			細 胞 生 物 学 (1)						
			(物 理 化 学 系 科 目)						
			物 理 化 学 I (2)	物 理 化 学 I (1)	界 面 化 学 (1)*	化 学 熱 力 学 (2)*			
				物 理 化 学 II (2)		反 応 速 度 論 (2)*			
			(化学工学系科目, 設計・システム系科目)						
			化 学 工 学 I (1)	化 学 工 学 I (1)	化 学 設 計 製 図 (2)	移 動 現 象 論 (2)*			
				反 応 工 学 I (1)					
				(環 境 工 学 系 科 目)					
			環 境 分 析 化 学 (1)*	環 境 工 学 (2)*	環 境 保 全 工 学 (2)				
						(生 産 に 関 す る 工 学)			
						生 産 設 計 工 学 (2)*			
						(知 識 に 関 す る 工 学)			
						化 学 情 報 工 学 (2)*	セン サ 工 学 (2)		
						デ ー タ ベ ー ス 論 (2)	物 性 工 学 (2)		
						信 頼 性 工 学 (2)			
		(実験・実習・創造工学・卒業研究・特別研究)							
		生 物 応 用 化 学 実 験 (2)	生 物 応 用 化 学 実 験 (4)	生 物 応 用 化 学 実 験 (4)	生 物 応 用 化 学 実 験 (4)	卒 業 研 究 (10)	特 別 研 究	特 別 研 究 (12)	
		創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 演 習 (2)	創 造 工 学 演 習 (1)*	応 用 物 質 工 学 実 験 (2)	応 用 物 質 工 学 実 験 (2)	
					イ ン タ ー ン シ ッ プ I (1)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ I (1)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ I *	イ ン タ ー ン シ ッ プ I *	
					創 造 工 学 演 習 (1)*		イ ン タ ー ン シ ッ プ II *	イ ン タ ー ン シ ッ プ II *	
							イ ン タ ー ン シ ッ プ III *	イ ン タ ー ン シ ッ プ II (4)*	
								イ ン タ ー ン シ ッ プ III (6)*	
				(応 用 化 学 コ ー ス)	高 分 子 化 学 (2)	無 機 工 業 化 学 (2) †	有 機 化 学 特 論 (2)*	高 分 子 化 学 特 論 (2)*	
					精 密 合 成 化 学 (2) †	触 媒 化 学 (1) †			
					反 応 工 学 II (1)	機 能 材 料 工 学 (1) †			
					化 学 工 学 II (1)	化 学 工 学 II (1)			
						応 用 化 学 コ ー ス 実 験 (3)			
						電 気 化 学 (1) †			
				(生 物 化 学 コ ー ス)	微 生 物 学 II (2)	タ ン バ ク 質 化 学 (2) †	分 子 生 命 科 学 (2)*	生 体 機 能 工 学 (2)*	
					分 子 生 物 学 (2) †	生 物 情 報 工 学 (1) †		細 胞 情 報 科 学 (2)*	
					細 胞 工 学 (1)	遺 伝 子 工 学 (1) †			
					生 物 化 学 工 学 (1)	生 物 化 学 工 学 (1)			
						生 物 化 学 コ ー ス 実 験 (3)			
						生 体 材 料 工 学 (1) †			
	< 展 開 >	創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (10)	応 用 物 質 工 学 実 験 (2)	応 用 物 質 工 学 実 験 (2)	
					創 造 工 学 演 習 (1)*	創 造 工 学 演 習 (1)*	特 別 研 究	特 別 研 究 (12)	
					イ ン タ ー ン シ ッ プ I (1)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ I (1)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ I (2)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ I (2)*	
							イ ン タ ー ン シ ッ プ II (4)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ II (4)*	
							イ ン タ ー ン シ ッ プ III (6)*	イ ン タ ー ン シ ッ プ III (6)*	
(C)	< 発 表 >	国 語 I A (2)	国 語 II (2)	日 本 文 学 (2)	言 語 表 現 学 I (1) †			言 語 表 現 学 特 論 (2) †	
		国 語 I B (2)			言 語 表 現 学 II (1) †				
				創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (10)	特 別 研 究	特 別 研 究 (12)		
	< 英 語 >	英 語 I A (4)	英 語 II A (2)	英 語 III (2)	英 語 IV A(2) †	英 語 V (2)	技 術 英 語 I (1)	技 術 英 語 II (1)	
		英 語 I B (2)	英 語 II B (3)	英 語 特 講 I (1)	英 語 IV B(2) †	実 用 英 語 I (1)	英 語 総 合 I (1)	英 語 総 合 II (1)	
				英 語 特 講 II (1)		実 用 英 語 II (1)*			
				工 業 英 語 (1)*					
			目標達成の証明科目	他の目標の証明科目	無印: 必修科目	†: 選択必修科目	*	複合型生産システム工学教育プログラム	

(出典 平成24年度学生便覧p. 103)

教育課程系統図									
材料工学科 1 年～応用物質工学専攻（学科H23年度、専攻科H22年度以降カリキュラム）									
学 習 ・ 教 育 目 標		学 科					専 攻 科		
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	専1年	専2年	
(A)	<視 野>	国 語 I A (2) 国 語 I B (2)	国 語 II (2)	日 本 文 学 (2)	文 学 概 論 I (1)* 文 学 概 論 II (1)* 言 語 表 現 学 I (1)† 言 語 表 現 学 II (1)†				言 語 表 現 学 特 論 (2)*
		世 界 史 I (2)	世 界 史 II (1)		歴 史 学 概 論 I (1)† 歴 史 学 概 論 II (1)†				
		地 理 (2)							
			倫 理 ・ 社 会 (2)		哲 学 I (1)* 哲 学 II (1)* 技 術 者 倫 理 入 門 I (1)† 技 術 者 倫 理 入 門 II (1)†				
			政 治 ・ 経 済 (1)		経 済 学 I (1)* 経 済 学 II (1)* 法 学 I (1) † 法 学 II (1) †	社 会 学 I (1)* 社 会 学 II (1)*		国 際 関 係 論 (2) 経 営 学 (2)*	
					心 理 学 I (1)* 心 理 学 II (1)*				
		保 健 体 育 (4)	保 健 体 育 (2)	保 健 体 育 (2)	保 健 体 育 (2)				
		英 語 I A (4) 英 語 I B (2)	英 語 II A (2) 英 語 II B (2)	英 語 III (2) 英 語 特 講 I (1) 英 語 特 講 II (1)	英 語 IV A (2) † 英 語 IV B (2) †	英 語 V (2) 実 用 英 語 I (1)* 実 用 英 語 II (1)* 中 国 語 I (1)* 中 国 語 II (1)*	技 術 英 語 I (1) 英 語 総 合 I (1)	技 術 英 語 II (1) 英 語 総 合 II (1)	
		美 術 (2)* 音 楽 (2)* 書 道 (2)*							
	<技術者倫理>		倫 理 ・ 社 会 (2)		技 術 者 倫 理 入 門 I (1)† 技 術 者 倫 理 入 門 II (1)† 哲 学 I (1) * 哲 学 II (1) * 創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (9)	技 術 者 倫 理 (2)		
	<意 欲>				創 造 工 学 (2)	卒 業 研 究 (9)	特 別 研 究	特 別 研 究 (12)	
(B)	<基 礎>	基 礎 数 学 A (4) 基 礎 数 学 B (2)	線 形 代 数 I (2) 微 分 積 分 I (4)	微 分 積 分 II (4) 線 形 代 数 II (1) 数 学 講 究 (1)	数 学 特 講 I (1)* 数 学 特 講 II (1)* 応 用 数 学 I (2)	応 用 数 学 II (2)*		代 数 学 特 論 (2) 数 理 解 析 学 I (2)* 数 理 解 析 学 II (2)*	
		物 理 (2)	物 理 (2)	応 用 物 理 I (2)	応 用 物 理 II (2) 物 理 学 特 論 (1) † 現 代 科 学 I (前 期 X)† 現 代 科 学 I (後 期 X)† 現 代 科 学 II (後 期 X)† 現 代 科 学 III (前 期 X)† 現 代 科 学 IV (前 期 X)† 現 代 科 学 III (後 期 X)† 現 代 科 学 IV (後 期 X)†		応 用 物 理 学 (2)*		
		化 学 (2)	化 学 (2)	熱 力 学 (2)	化 学 特 講 (1) † 物 理 化 学 I (1) 物 理 化 学 II (1)		化 学 総 論 (2)*		
			生 物 (2)		現 代 科 学 V (前 期 X)† 現 代 科 学 I (前 期 X)†		生 命 工 学 (2)*		
		情 報 処 理 I (2)	情 報 処 理 II (1)			情 報 処 理 応 用 (1)			
□：目標達成の証明科目　：他の目標の証明科目　†：選択必修科目　*：選択科目　無印：必修科目　（複合型生産システム工学教育プログラム）（次ページへ続く）									

資料5-1-①-20続き

教育課程系統図									
材料工学科1年～応用物質工学専攻（学科H23年度、専攻科H22以降年度カリキュラム）（つづき）									
学習・教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科			
						専1年		専2年	
(B)	<専門>	情報処理Ⅰ(2)	情報処理Ⅱ(1)			情報処理応用(1)	応用情報工学(2) コンピュータ特論(2)*		
						応用数学Ⅱ(2)*	実践工業数学Ⅰ* 実践工業数学Ⅱ*	実践工業数学Ⅰ(1)* 実践工業数学Ⅱ(1)*	
					現代科学Ⅲ(前期)(1)† 現代科学Ⅳ(前期)(1)† 現代科学Ⅲ(後期)(1)† 現代科学Ⅳ(後期)(1)†	材料環境科学(1)*	環境保全工学(2)		
					応用物理Ⅱ(2)		材料物理学(2)*		
					物理化学Ⅰ(1) 物理化学Ⅱ(1)	電気化学(1) 材料プロセス工学(1)	基礎電子化学(2)* 資源工学(2)*		
						生産工学(1) 材料機器分析(1)	信頼性工学(2) データベース論(2)	生産設計工学(2)*	
				電気工学基礎Ⅰ(1)*	電気工学基礎Ⅱ(1)*	半導体工学(1)		センサ工学(2)	
		化学(2)	化学(2)	無機化学(1)	無機材料(2)	機能材料(1) 高分子機能材料(1)		エコマテリアル(2)*	
				有機化学(2)	有機材料(2)	複合材料(1)		有機材料工学(2)*	
		材料工学序論(1)	基礎材料科学(2)	材料組織学(2)	鉄鋼材料(2) 非鉄金属材料(1) 結晶解析学(1)	量子力学(1) 機械工学基礎Ⅰ(1)* 機械工学基礎Ⅱ(1)*	組織制御学(2)* 相変換工学(2)*	物性工学(2)	
					材料強度学(2)	材料力学(1) 接合工学(1)	材料設計学(1)* 精密工学(1) 塑性加工(1)		材料強度工学(2)*
		設計製図Ⅰ(1)	設計製図Ⅱ(1)	設計製図Ⅲ(1)	設計製図Ⅳ(1)	設計製図Ⅴ(1)*			
		材料工学実験(2)	材料工学実験(1) ものづくり実習(2) 機械工作法(1)	材料工学実験(4)	材料工学実験(4) 創造工学(2)	材料工学実験(2) 卒業研究(9)	応用物質工学実験(2)	応用物質工学実験(2) 応用物質工学特論(2)	
	<展開>	材料工学実験(2)	材料工学実験(1) ものづくり実習(2)	材料工学実験(4)	材料工学実験(4)	卒業研究(9)	特別研究	特別研究(12)	
		創造工学演習(1)*	創造工学演習(1)*	創造工学演習(1)*	創造工学演習(1)* 創造工学(2) インターンシップ(1)*	創造工学演習(1)* インターンシップ(1)*	インターンシップⅠ* インターンシップⅡ* インターンシップⅢ*	インターンシップⅠ(2)* インターンシップⅡ(4)* インターンシップⅢ(6)*	
(C)	<発表>	国語ⅠA(2) 国語ⅠB(2)	国語Ⅱ(2)	日本文学(2)	言語表現Ⅰ(1)† 言語表現Ⅱ(1)†			言語表現学特論(2)*	
					創造工学(2) 卒業研究(9)		特別研究	特別研究(12)	
	<英語>	英語ⅠA(4) 英語ⅠB(2)	英語ⅡA(2) 英語ⅡB(2)	英語Ⅲ(2) 英語特講Ⅰ(1) 英語特講Ⅱ(1)	英語ⅣA(2)† 英語ⅣB(2)†	英語Ⅴ(2) 実用英語Ⅰ(1)* 実用英語Ⅱ(1)* 工業英語(1)*	英語総合Ⅰ(1) 技術英語Ⅰ(1)	英語総合Ⅱ(1) 技術英語Ⅱ(1)	

□：目標達成の証明科目 △：他の目標の証明科目 †：選択必修科目 *：選択科目 無印：必修科目 (複合型生産システム工学教育プログラム)

資料5-1-①-21

平成24年度 前期 授業時間割表

曜日 時限	月曜日							火曜日							水曜日						木曜日						金曜日						
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
第1学年	機械工学科	教科	国語Ⅰ	機械工作実習	基礎数学Ⅰ	英語Ⅰ			武国語Ⅰ		基礎数学Ⅰ	英語Ⅰ			地英特別活動			情報処理Ⅰ	基礎数学Ⅰ	世界史Ⅰ	化学Ⅰ	物理Ⅰ	保健体育Ⅰ	選択Ⅰ	機械工学序論	全教員							
		目教員	A川合	佐脇	A川本	Aソロン			道前細川野	B西岡	B豊田	B林			理鷺野	A出口	動川本		渥美	A川本	I小倉	学山崎	理仲本	育松	美術		音楽	書道					
	教室		実習センタ											2合併				センタ															
	電気電子工学科	教科	保健体育Ⅰ	国語Ⅰ	英語Ⅰ	基礎数学Ⅰ			実ものづくり		武国語Ⅰ	世界史Ⅰ			地英特別活動			基礎数学Ⅰ	国語Ⅰ	英語Ⅰ	物理Ⅰ	化学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	英語Ⅰ	基礎数学Ⅰ	横口2講 英語ⅠAソロン						
		目教員	A川合	A川合	B林	A堀江			習り山柴北田垣村	道前細川野	I小倉	I堀江			理鷺野	渥美	動堀江	B川本	B西岡	A出口	理田村	学山崎	堀江	堀江	浅井2合併	阿部視聴覚							
	教室								実習センタ					2合併	センタ																		
	電子情報工学科	教科	基礎数学Ⅰ	情報処理Ⅰ	国語Ⅰ	保健体育Ⅰ			武国語Ⅰ	基礎数学Ⅰ	英語Ⅰ	化学Ⅰ			英語Ⅰ	地英特別活動			国語Ⅰ	プログラミング基礎	英語Ⅰ		基礎数学Ⅰ	世界史Ⅰ	物理Ⅰ	選択Ⅰ	美術音楽 2合併						
		目教員	A川本	I青山	I川合	育松			道前細川野	B堀江	Iソロン	I山崎			I松尾	理鷺野	動林	B西岡	I田添	I林		川本	I小倉	田村	美術	音楽		書道					
	教室			センタ											尾				実験室														
	生物応用化学科	教科	英語Ⅰ	基礎数学Ⅰ	英語Ⅰ	物理Ⅰ	基礎数学Ⅰ		武国語Ⅰ	国語Ⅰ	実生物応用化学Ⅰ	英語Ⅰ	化学Ⅰ			保健体育Ⅰ	情報処理Ⅰ	地英特別活動	物理Ⅰ	世界史Ⅰ	基礎数学Ⅰ	国語Ⅰ	序生物応用化学論	基礎数学Ⅰ	英語Ⅰ	阿部視聴覚							
目教員		A松尾	A堀江	Aソロン	理仲本	B豊田		道前細川野	B西岡	甲下斐野	B林	学高倉			育松	渥美	理鷺野	I小倉	史小倉	A堀江	I川合	学下野	堀江	川合	堀江		堀江	堀江	堀江	堀江	堀江	堀江	
教室																																	
材料工学科	教科	英語Ⅰ	保健体育Ⅰ	物理Ⅰ	基礎数学Ⅰ	国語Ⅰ		材料工学序論	武国語Ⅰ	基礎数学Ⅰ				情報処理Ⅰ	設計製図Ⅰ	特別活動		世界史Ⅰ	化学Ⅰ	英語Ⅰ	国語Ⅰ	英語Ⅰ	基礎数学Ⅰ										
	目教員	B林	育松	理仲本	A川本	B西岡		道前細川野	堀江	B堀江				渥美	I万谷	動仲本		I小倉	学山崎	I鷺野	A松尾	I川合	Iソロン	A川本									
教室														センタ	製図室																		

平成24年度 後期 授業時間割表

	曜日 時限	月曜日							火曜日							水曜日							木曜日							金曜日						
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8			
第1学年	機械工学科	機械化学Ⅰ 教員 山崎	機械工作実習 佐脇	基礎数学Ⅰ A 川本	英語Ⅰ B 林				世界史Ⅰ 小倉		武国語Ⅰ 道前川野		基礎数学Ⅰ B 豊田	英語Ⅰ A 出口			国語Ⅰ B 西岡	保健体育Ⅰ 堀川	特別活動 動川本		基礎数学Ⅰ A 川本	英語Ⅰ A 出口	地英特別活動 情報処理Ⅰ 渥美			機械設計製図 A 川合	国語Ⅰ A 川合	選択Ⅰ 美術	物理Ⅰ 理仲本							
	電気電子工学科	保健体育Ⅰ 教員 堀江	基礎数学Ⅰ A 堀江	英語Ⅰ B 林				武国語Ⅰ 道前川野		英語Ⅰ A 出口	化学Ⅰ 学山崎	物理Ⅰ 理田村			基礎数学Ⅰ B 川本	英語Ⅰ 堀江	特別活動 動堀江			英語Ⅰ A 出口	国語Ⅰ B 西岡	物理Ⅰ 理鷺野	序電気電子工 論学奥野	国語Ⅰ A 川合		世界史Ⅰ 小倉	浅井 2 合併 阿部 2 講	基礎数学Ⅰ A 堀江								
	電子情報工学科	国語Ⅰ 教員 川合	英語Ⅰ A 松尾	実電子情報工 学実験室		基礎数学Ⅰ B 堀江		武国語Ⅰ 道前川野	世界史Ⅰ 小倉	化学Ⅰ 学山崎	物理Ⅰ 理紫野	英語Ⅰ B 林	特別活動 動林		国語Ⅰ B 西岡	基礎数学Ⅰ A 川本	英語Ⅰ A 松尾	序電子情報工 論学全教員	保健体育Ⅰ 堀川		基礎数学Ⅰ A 川本	物理Ⅰ 理田村			基礎数学Ⅰ A 川本	物理Ⅰ 理田村	選択Ⅰ 美術	機械工学序論 全教員								
	生物応用化学科	化学Ⅰ 教員 平井	国語Ⅰ A 川合	保健体育Ⅰ 堀江	基礎数学Ⅰ A 堀江			国語Ⅰ B 西岡	英語Ⅰ A 松尾	物理Ⅰ 道前川野	世界史Ⅰ 小倉	英語Ⅰ A 松尾	特別活動 動松尾		基礎数学Ⅰ B 豊田	物理Ⅰ 理仲本	情報処理Ⅰ 渥美	英語Ⅰ B 林	化学Ⅰ 学山崎		基礎数学Ⅰ A 堀江	物理Ⅰ 理仲本	英語Ⅰ B 林			基礎数学Ⅰ A 川本	物理Ⅰ 理仲本	浅井 2 合併 阿部 2 講	基礎数学Ⅰ A 堀江							
	材料工学科	基礎数学Ⅰ 教員 川本	保健体育Ⅰ 堀江	国語Ⅰ A 川合	英語Ⅰ A 松尾			武国語Ⅰ 道前川野	基礎数学Ⅰ B 堀江	情報処理Ⅰ 渥美			地英特別活動 情報処理Ⅰ 理鷺野	英語Ⅰ 堀江	特別活動 動仲本		材料工学実験 万兼谷松	英語Ⅰ B 林	物理Ⅰ 理仲本	世界史Ⅰ 小倉		基礎数学Ⅰ A 川本	物理Ⅰ 理仲本	英語Ⅰ B 林			基礎数学Ⅰ A 川本	物理Ⅰ 理仲本	浅井 2 合併 阿部 2 講	基礎数学Ⅰ A 堀江						
	教科																																			
	教科																																			
	教科																																			
	教科																																			
	教科																																			

(出典 学生課資料)

平成 24 年度 後 期 授 業 時 間 割 表																																			
		曜 日							火 曜 日							水 曜 日						木 曜 日						金 曜 日							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8		
第 2 学 年	機 械 工 学 科	目次	微分積分Ⅰ	英語Ⅱ	物理	線形代数Ⅰ	生物	生	微分積分Ⅰ	世界史Ⅱ	機械設計製図	英語Ⅱ	物	特別活動				化	機械工作実習	機械工作実習					倫理・社会	保健体育	英語Ⅱ	国語							
		教員	大貫	ソロン	丹波	片岡	井上	大貫	中村	藤松	山下	三浦	大貫					山崎	富田	打田					奥	細野	中井	久原							
		教室									製図室																								
		科目	倫理・社会	保健体育	線形代数Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅱ	B	電気電子製図	生物	微分積分Ⅰ	工学電気実電	特別活動						英語Ⅱ	微分積分Ⅰ	電気回路	世界史Ⅱ			演習電気電子工学	物理	国語	化学							
		教員	奥	細野	片岡	A	B	ソロン	奥花井	井上	藤原	花北井	藤原						C	中井	藤原	奥田	小倉			奥野	丹波	久原	山崎						
電 気 電 子 工 学 科	目次	国語	線形代数Ⅰ	保健体育	微分積分Ⅰ	政治・経済	生物	工学実情	英語Ⅱ	化学	特別活動							基礎電気電子	英語Ⅱ	微分積分Ⅰ					英語Ⅱ	設けプログラム	物理	倫理・社会							
	教員	八原留	片岡	細野	藤原	山口	井上	平貴田長柴野浦詒嶋田	B	中山崎	八原留							森育	浜口	藤原					ソロン	青山	丹波	奥							
	教室							実験室																	実験室										
	科目	微分積分Ⅰ	倫理・社会	有機化学	物理	分析化学	政治・経済	国語	生物	線形代数Ⅰ	英語Ⅱ	特別活動						英語Ⅱ	英語Ⅱ	実生物応用化学	微生物応用化学				微分積分Ⅰ	物理	保健体育								
	教員	藤原	奥	長原	三浦	甲斐	山口	八原留	内藤	藤澤	中井	三浦							浜口	ソロン	高倉	験査			藤原	三浦	細野								
生 物 応 用 化 学 科	目次	物理	微分積分Ⅰ	英語Ⅱ	国語	保健体育	政治・経済	基礎材料科学	微分積分Ⅰ	線形代数Ⅰ	特別活動							生	化学	英語Ⅱ	倫理・社会				実ものづくり	英語Ⅱ									
	教員	丹波	大貫	A	B	一越	山口	三浦	江崎	大貫	藤澤							内藤	山崎	B	奥				幸後	ソロン									
	教室						2合併																		実習センタ										
	科目	微分積分Ⅰ	倫理・社会	有機化学	物理	分析化学	政治・経済	国語	生物	線形代数Ⅰ	英語Ⅱ	特別活動									実生物応用化学	微生物応用化学				微分積分Ⅰ	物理	保健体育							
	教員	藤原	奥	長原	三浦	甲斐	山口	八原留	内藤	藤澤	中井	三浦							浜口	ソロン	高倉	験査			藤原	三浦	細野								
材 料 工 学 科	目次	物理	微分積分Ⅰ	英語Ⅱ	国語	保健体育	政治・経済	基礎材料科学	微分積分Ⅰ	線形代数Ⅰ	特別活動							生	化学	英語Ⅱ	倫理・社会				実ものづくり	英語Ⅱ									
	教員	丹波	大貫	A	B	一越	山口	三浦	江崎	大貫	藤澤							内藤	山崎	B	奥				幸後	ソロン									
	教室						2合併																		実習センタ										
	科目	微分積分Ⅰ	倫理・社会	有機化学	物理	分析化学	政治・経済	国語	生物	線形代数Ⅰ	英語Ⅱ	特別活動									実生物応用化学	微生物応用化学				微分積分Ⅰ	物理	保健体育							
	教員	藤原	奥	長原	三浦	甲斐	山口	八原留	内藤	藤澤	中井	三浦							浜口	ソロン	高倉	験査			藤原	三浦	細野								

資料5-1-①-23

		平成 24 年度 前期 授 業 時 間 割 表																																							
		月 曜 日								火 曜 日								水 曜 日								木 曜 日								金 曜 日							
		時 限		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8						
第 3 学 年	機 械 工 学 科	機 科	線 形 代 数 Ⅱ	電 気 工 学 概 論	微 分 積 分 Ⅱ	機 械 設 計 製 図	機 械 運 動 学	応 用 物 理 Ⅰ	総 合 実 習	情 報 処 理 応 用	材 料 力 学 Ⅰ	特 別 活 動	ニ メ カ ク ト ス ロ	英 語 特 講 Ⅰ	日 本 文 学	機 械 加 工 学	英 語 Ⅲ	保 健 体 育 Ⅰ	演 習 Ⅰ	機 械 工 学 Ⅱ	微 分 積 分 Ⅱ																				
		目 教 員	伊 藤 浩 昭	打 田 孝 一	伊 藤 浩 昭	民 秋 孝 一	白 木 原 真 一	丹 波 村 浩 一	白 木 原 井 孝 一	白 井 孝 一	埜 村 孝 一	民 秋 孝 一	打 田 孝 一	日 松 中 下 尾 井	熊 澤 南 部 社 長	濱 口 浩 一	森 誠 一	鬼 頭 孝 一	伊 藤 浩 昭																						
		教 室				製 図 室			セ ン タ ・ 実 習 セ ン タ	セ ン タ				1 講 3 C 3 M																											
	電 気 電 子 工 学 科	機 科	日 本 文 学	線 形 代 数 Ⅱ	電 気 磁 気 学 花 井	電 子 物 性 基 礎 柴 垣	応 用 物 理 Ⅰ 三 田 浦 村	グ ロ ー プ ラ ミ ン 語 Ⅰ	工 学 電 気 実 電 験 子	電 気 電 子 計 測 西 村	電 気 回 路 奥 西 大 野 村 津	特 別 活 動	英 語 特 講 Ⅰ	電 子 制 御 基 礎 日 松 出 下 尾 口	微 分 積 分 Ⅱ 豊 田	保 健 体 育 森 誠	微 分 積 分 Ⅱ 豊 田	英 語 Ⅲ 濱 口	電 子 回 路 尾 浦 浩 一																						
		目 教 員	狩 野 浩 一	伊 藤 浩 昭	花 井 孝 一	柴 垣 浩 一	三 田 浦 村 浩 一	川 口 孝 一	奥 西 大 野 村 津	西 村 孝 一	奥 西 大 野 村 津	奥 西 大 野 村 津	奥 西 大 野 村 津	日 松 出 下 尾 口	豊 田 孝 一	森 誠 一	濱 口 浩 一	尾 浦 浩 一																							
		教 室						セ ン タ						1 講 3 C 1 合 併																											
	電 子 情 報 工 学 科	機 科	電 子 機 器 学	日 本 文 学	線 形 代 数 Ⅱ	英 語 Ⅲ	回 路 設 計	ア プ リ ケ ー シ ョ ン 構 造 と 実 装	微 分 積 分 Ⅱ	電 気 回 路 論	保 健 体 育	電 気 磁 気 学 井 瀬	特 別 活 動	英 語 特 講 Ⅰ	オ ペ レ ー ティ ン グ シ ス テ ム Ⅰ 箕 浦	電 子 工 学 伊 藤 浩 昭	応 用 物 理 Ⅰ 三 田 浦 村	微 分 積 分 Ⅱ 伊 藤 浩 昭	工 学 実 情 報 浦 野 浩 一																						
		目 教 員	柴 田 浩 一	狩 野 浩 一	伊 藤 浩 昭	出 口 浩 一	桑 原 浩 一	田 添 浩 一	伊 藤 浩 昭	森 育 浩 一	森 誠 一	井 瀬 浩 一	青 山 浩 一	日 松 出 下 尾 口	箕 浦 浩 一	伊 藤 浩 昭	三 田 浦 村 浩 一	伊 藤 浩 昭	浦 野 浩 一	伊 藤 浩 昭																					
		教 室						実 験 室						1 講 3 C 1 合 併					実 験 室																						
	生 物 応 用 化 学 科	機 科	英 語 Ⅲ	無 機 化 学	日 本 文 学		有 機 化 学	機 器 分 析 化 学	生 物 化 学	保 健 体 育	物 理 化 学 Ⅰ	微 分 積 分 Ⅱ	特 別 活 動	微 分 積 分 Ⅱ	英 語 特 講 Ⅰ	実 生 物 応 用 化 学 験 学	線 形 代 数 Ⅱ	応 用 物 理 Ⅰ	細 胞 生 物 学	工 業 英 語																					
		目 教 員	出 口 浩 一	下 野 浩 一	熊 澤 南 部 社 長		高 倉 浩 一	安 井 浩 一	小 川 浩 一	森 誠 一	平 井 孝 一	豊 田 孝 一	和 崎 浩 一	豊 田 孝 一	日 松 中 下 尾 井	内 甲 小 藤 藤 彦 川	伊 藤 浩 昭	丹 波 村 浩 一	山 口 浩 一	平 井 孝 一																					
		教 室													1 講 3 C 3 M	17 講 第 3 合 併 実 習 ・ 27 講 基 礎 化 学 実 習																									
	材 料 工 学 科	機 科	線 形 代 数 Ⅱ	英 語 Ⅲ	設 計 製 図 Ⅲ	日 本 文 学	微 分 積 分 Ⅱ	材 料 組 織 学	熱 力 学		有 機 化 学	材 料 強 度 学	特 別 活 動	英 語 特 講 Ⅰ	応 用 物 理 Ⅰ	材 料 工 学 実 験	保 健 体 育	基 礎 電 気 Ⅰ 学	微 分 積 分 Ⅱ																						
		目 教 員	伊 藤 浩 昭	出 口 浩 一	万 谷 浩 一	熊 澤 南 部 社 長	大 貫 浩 一	小 林 浩 一	宗 内 浩 一		下 古 谷 浩 一	井 上 浩 一	黒 田 孝 一	日 松 出 下 尾 口	仲 田 孝 一	南 部 社 長	森 誠 一	松 岡 浩 一	大 貫 浩 一																						
		教 室			製 図 室									1 講 3 C 1 合 併																											

		平成 24 年度 後 期 授 業 時 間 割 表																																							
		月 曜 日								火 曜 日								水 曜 日								木 曜 日								金 曜 日							
曜日 時限		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8								
第 3 学 年	機 械 工 学 科	機 目	応 用	日 本	機 械 設 計 製 図				基 礎 ・ 流 体 工 学	英 語 特 講 Ⅱ	合 実	機 械 運 動 学				数 学 講 義	特 別 活 動	演 習 Ⅰ	保 健 体 育	微 分 積 分 Ⅱ	応 用 物 理 Ⅰ	ニ メ カ ク ト	英 語	材 料 力 学 Ⅰ	微 分 積 分 Ⅱ																
		教 員	南 部 雄 志	熊 澤	民 秋				藤 松	中 井	白 井	佐 堀				完 堀	動 民 秋	Ⅰ 学 鬼 頭	Ⅱ 森 誠	Ⅲ ス ロ	Ⅳ 白 井	Ⅴ 田 村	Ⅵ 濱 口	Ⅶ 末 次	Ⅷ 伊 藤 清																
		教 室	製 図 室 ・ セ ン タ								セ ン タ ・ 実 習 セ ン タ																														
	電 気 電 子 工 学 科	機 目	電 気 磁 気 学	日 本 文 学	微 分 積 分 Ⅱ	電 気 回 路	英 語 特 講 Ⅱ	電 子 回 路	工 学 電 気 実 電	電 子 物 性 基 礎	保 健 体 育	特 別 活 動	応 用 物 理 Ⅰ	電 氣 機 器	数 学 講 義	電 氣 電 子 計 測	英 語	電 子 回 路 設 計	演 習 Ⅱ	微 分 積 分 Ⅱ																					
		教 員	花 井	学 狩 野	Ⅱ 豊 田	Ⅲ 路 北 村	Ⅳ 出 口	奥 西 大 野 村 津				Ⅴ 柴 垣	Ⅵ 森 誠	Ⅶ 三 浦	Ⅷ 奥 田	Ⅸ 堀 江	Ⅹ 西 村	Ⅺ 濱 口	Ⅻ 辻 田	Ⅼ 山 田	Ⅽ 伊 藤 田																				
		教 室																									セ ン タ ・ 創 造														
	電 子 情 報 工 学 科	機 目	日 本 文 学	電 子 回 路	英 語	微 分 積 分 Ⅱ	回 路 設 計	デ ィ ジ タ ル	英 語 特 講 Ⅱ	電 気 回 路 論	数 学 講 義	電 氣 磁 気 学	特 別 活 動	ン グ オ ー レ ー シ ュ	応 用 物 理 Ⅰ	電 子 工 学	保 健 体 育	微 分 積 分 Ⅱ	工 学 実 情																						
		教 員	狩 野	学 狩 野	Ⅲ 出 口	Ⅳ 伊 藤 清	Ⅴ 桑 原	Ⅵ 田 添	Ⅶ 林 森 育	Ⅷ 奥 西 大 野 村 津	Ⅸ 柴 垣	Ⅹ 森 誠	Ⅺ 三 浦	Ⅻ 奥 田	Ⅼ 堀 江	Ⅽ 西 村	Ⅾ 濱 口	Ⅿ 辻 田	ⅰ 山 田	ⅱ 伊 藤 田																					
		教 室									実 験 室																実 験 室														
	生 物 応 用 化 学 科	機 目	微 生 物 学 Ⅰ	機 器 分 析 化 学	実 生 物 応 用 化 学	物 理 化 学 Ⅰ	無 機 化 学	保 健 体 育	数 学 講 義	化 学 工 学 Ⅰ	英 語	特 別 活 動	応 用 物 理 Ⅰ	英 語 特 講 Ⅱ	日 本 文 学	微 分 積 分 Ⅱ	生 物 化 学	有 機 化 学 Ⅱ	微 分 積 分 Ⅱ																						
		教 員	小 川	山 本	下 野	平 井	下 野	森 誠	伊 藤 清	和 結 純	出 口	和 結 純	田 村	日 下 大 人	熊 澤	小 川	高 倉	豊 田																							
		教 室	2F 基 礎 化 学 実 験 室																L 1																						
	材 料 工 学 科	機 目	英 語	材 料 強 度 学	日 本 文 学	材 料 組 織 学	保 健 体 育	微 分 積 分 Ⅱ	熱 力 学	無 機 化 学	特 別 活 動	英 語 特 講 Ⅱ	数 学 講 義	材 料 工 学 実 験	応 用 物 理 Ⅰ	有 機 化 学	微 分 積 分 Ⅱ																								
		教 員	Ⅲ 出 口	井 上	熊 澤	小 林	森 誠	大 貫	宗 内	和 結 純	黒 田	Ⅳ 松 尾	伊 藤 清	黒 田 上	井 上	田 村	下 古 谷	大 貫																							
		教 室																	L 1																						

(出典 学生課資料)

平成 24 年度 前期 授業時間割表

[illegible]

– 218 –

資料 5-1-①-25

[illegible][illegible]

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学習・教育目標に示す実践的技術者を育成するために、授業科目を配置している。教育の目標に照らして、準学士課程の授業科目を学年ごとに適切に配置するとともに、教育課程を体系的に編成している。また、授業内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点 5－1－②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校では学生の多様なニーズに応えるため、他学科の授業科目を履修し単位を修得したり、大学等の授業等を本校における授業科目の履修とみなし、単位を修得したりできるようになっている（資料 5－1－②－1～3）。また、インターンシップも単位認定を行っている（資料 5－1－②－4，5）。補充教育としては、留学生に対して日本語教育（資料 5－1－②－6～8）を行っている。また、「コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材」を養成するため、ネイティブスピーカーによる少人数英語教育（資料 5－1－②－9）を行っている。さらに、社会の情勢を考慮して、平成 17 年度より著作権制度や特許制度等を取り入れた「法学Ⅱ」を開設した（資料 5－1－②－10）。また、電気電子工学実験においては第 2 種電気工事士の模擬単位作業試験を体験させ資格取得のための技能を習得させている（資料 5－1－②－11）。その他、課題研究（資料 5－1－②－12，13）や創造工学演習（資料 5－1－②－14）により創造力と実践力を養っている。それぞれの授業科目における履修者数を資料 5－1－②－15～19 に示す。また、環境教育の充実を図るために創造工学，卒業研究及び学生実験に環境に関連したテーマを導入している（資料 5－1－②－20～22）。

資料 5-1-②-1

授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則

(趣旨)

第1条 本校における授業科目の履修、単位の修得及び課程修了の認定は、この規則の定めるところによる。

(授業科目の履修・単位の修得の特例)

第2条 第4学年及び第5学年の学生は、別に定めるところにより、他学科の授業科目を履修し単位を修得することができる。

第3条 第5学年の学生は、当該学科の開設する第4学年の授業科目中履修しなかった科目又は修得できなかった科目を5単位まで修得できる。

(大学等における学修申請等)

第4条 学則第29条の規定により、大学等の授業等を本校における授業科目の履修とみなし、単位の認定を受けようとする者は、他大学等の授業を履修する前に別紙様式に定める大学等における学修申請書を学生課教務係に提出し、単位修得後は別紙様式に定める大学等における学修単位認定申請書を同係に提出しなければならない。

(出典 H24年度学生便覧抜粋p. 127)

資料 5-1-②-2

他学科の授業科目の履修及び単位の修得に関する規則

(趣旨)

第1条 授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則第2条の規定に基づき、第4～5 学年生が他学科の授業科目を履修し単位を修得する場合は、この規則の定めるところによる。

(他学科の授業科目の履修及び単位の修得)

第2条 第4～5 学年生は、他学科の開設する授業科目を次のとおり履修することができるものとする。

(1) 他学科の専門科目(選択科目に限る。)

ただし、同一科目が学生の所属する学科において開設されている場合は他学科の当該科目は履修できない。

(2) 当該学年の科目及び下位と上位の学年の科目

(3) 前期又は後期に開設される科目(通年開設科目は対象外)

(4) 各年度5単位まで

(他学科の授業科目の申請)

第3条 他学科の科目の履修を希望する学生は、各学期ごとに、別に定める様式の書類によって申請するものとする。この場合において、実験・演習を伴う科目では、設備・機器の数量等から履修を認めない場合がありうるものとする。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 H24年度学生便覧p. 131)

鈴鹿工業高等専門学校と放送大学との
間における単位互換に関する協定書

鈴鹿工業高等専門学校及び放送大学（以下「大学等」という。）は、双方の大学等の規則に定めるところにより、両大学等の学生が、それぞれ相手大学等の授業科目を履修し、単位を修得することを認めることとし、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

（受入れ）

第1条 放送大学に在学する学生が、鈴鹿工業高等専門学校の第4学年、第5学年及び専攻科で開講している授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、鈴鹿工業高等専門学校長は当該学生を受け入れることができる。

2 鈴鹿工業高等専門学校に在学する第4学年、第5学年及び専攻科の学生が、放送大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、放送大学長は当該学生を受け入れることができる。

（特別聴講学生）

第3条 両大学等は、前条により受け入れた学生を「特別聴講学生」として取り扱う。

（履修期間）

第3条 特別聴講学生の履修期間は、鈴鹿工業高等専門学校においては1か年ごととし、放送大学においては1学期間ごととする。

（授業科目の範囲及び単位数）

第4条 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、別に定める。

（学生数）

第5条 両大学等の受け入れる学生数は、別に定める。

（受入れ手続）

第6条 特別聴講学生の受入れ手続は、別に定める。

（単位の授与等）

第7条 特別聴講学生の履修方法、単位の授与等については、受入れ大学等の学生の場合と同様とする。

（授業料等）

第8条 鈴鹿工業高等専門学校においては、特別聴講学生の授業料は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則に定める聴講生の額とする。ただし、検定料及び入学料は徴収しない。

2 放送大学においては、特別聴講学生の授業料は、放送大学学則に定める額とし、入学料は徴収しない。

平成19年1月16日

鈴鹿工業高等専門学校長

放 送 大 学 長

中根孝司

丹保憲仁



（出典 学生課資料）

インターンシップの履修に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、インターンシップの履修に関し必要な事項を定める。

(実習機関の選出)

第2条 学生の指導が担当可能な企業又は公共団体の機関(以下「実習機関」という。)は、教務委員会の議を経て校長が選定して委嘱する。

(インターンシップ学生調書の提出)

第3条 インターンシップを履修する学生は、所定の様式によるインターンシップ学生調書を校長を経て実習機関に提出しなければならない。

(インターンシップの履修)

第4条 学生は、実習機関の定める諸規則及び実習指導責任者の指示に従ってインターンシップを履修しなければならない。

(インターンシップ報告書の提出)

第5条 学生は、インターンシップ報告書を実習指導責任者の検印を受けて学科にあつては学級担任に、専攻科にあつては専攻主任又は専攻副主任に、それぞれ提出しなければならない。

(インターンシップの時間)

第6条 インターンシップの時間は、実習機関において定めるものとする。

(インターンシップ期間中の休日の取扱い)

第7条 インターンシップ期間中の休日は、実習機関において定める休日とする。

附 則

この規則は、平成19年9月10日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

(出典 H24年度学生便覧p.136)

インターンシップ実施要項

1 目的

学科にあつては社会との密接な接触を通じて、技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し、専攻科にあつては技術者が経験する実務上の問題点と課題を体験することを目的とする。

2 実施時期及び期間

原則として、学科にあつては第 4 学年及び第 5 学年の夏季休業中の 1 週間から 3 週間(実働 5 日以上)、専攻科にあつては第 1 年次及び第 2 年次の夏季休業中又は授業に支障のない期間の 2 週間以上とする。

3 修得単位

学科にあつては第 4 学年及び第 5 学年それぞれ 1 単位とする。専攻科にあつては、2 週間以上の期間実施した場合において実働 10 日以上 19 日以下にあつては 2 単位、20 日以上 29 日以下にあつては 4 単位、実働 30 日以上にあつては 6 単位とする。

4 インターンシップの内容

第 4 学年、第 5 学年及び専攻科学生が従事できる実務のうち、インターンシップの目的にふさわしい業務とする。

5 インターンシップ機関

学生の指導が担当可能な企業又は公共団体の機関(以下「実習機関」という)で教務委員会又は専攻科分科会の推薦により校長が選定して委嘱する。

ただし、第 5 学年又は専攻科 2 年の就職内定者については、内定先企業等への実習とする。

6 実施のための組織

インターンシップに必要な具体的事項は、教務委員会又は専攻科分科会が取り扱う。

7 指導

- (1) 第 4 学年又は第 5 学年の学級担任、専攻主任又は専攻副主任は、実習機関との連絡に当たるとともに、学生の実習状況を調査し、その結果をインターンシップ調査書にまとめ校長に報告する。
- (2) 校長は、実習機関に対し、あらかじめ指導項目を定めその指導を委嘱する。
- (3) 各学科担当教員及び専攻科授業担当教員は、実習期間中分担を定めて巡回指導を行う。
- (4) 学生は、インターンシップ報告書を作成し実習指導責任者の検印を受けて、学科にあつては学級担任に、専攻科にあつては専攻主任又は専攻副主任に提出する。

8 成績の評価

成績の評価は、インターンシップ評定書及びインターンシップ報告書に基づき各学科担当教員又は専攻科担当教員が協議して行い、インターンシップ調査書により校長に報告する。

附 記

この要項は、平成17年 6 月 6 日から実施し、平成17年 4 月 1 日から適用する。

(出典 H24年度学生便覧p. 137)

資料 5－1－②－6

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育ⅠA	平成24年度	熊澤 美弓	3 留学生	通年	履修単位 2	選

〔授業のねらい〕

本授業の受講生である外国人留学生はすでに基本的な日常会話を習得している。しかし、実際の高専生活においてはまだまだ「言葉」や日本における生活習慣の違いに戸惑わざるを得ない状態である。社会生活及び高専生活の中では自分の意思を伝達するために、説得力のある表現技術が要求される。そこで本科目では彼らが習得してきた内容を復習、定着させ、さらに日本語で「文章を書く」、「本を読む」、「話を聞く」、「自ら話す」能力を高めることを目的とする。

〔授業の内容〕

前期

すべての内容は学習・教育目標（A）の＜視野＞＜意欲＞、及び（C）の＜発表＞に対応する。

- 第1週 「日本語教育ⅠA」授業の概要および学習方法
- 第2週 初級段階の総復習
- 第3週 初級段階の総復習（1）「話す」
- 第4週 初級段階の総復習（2）「読む—漢字」
- 第5週 初級段階の総復習（3）「読む—漢字・語彙」
- 第6週 初級段階の総復習（4）「書く—文法・文型の確認」
- 第7週 初級段階の総復習のまとめ
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 中級段階の学習（1）「聞く」
- 第10週 中級段階の学習（2）「聞く」
- 第11週 中級段階の学習（3）「聞く」
- 第12週 中級段階の学習（4）「聞く」
- 第13週 中級段階の学習（5）「聞く」
- 第14週 中級段階の学習（6）「友達と会話する」
- 第15週 中級段階の学習（7）「目上の人と会話する」

後期

第1週～15週までの内容は、すべて JABEE1, (1), (f) に相当する。

- 第1週 「日本語を学ぶ意義」の再確認。
- 第2週 中級段階の学習（8）「読む—文章の読解」
- 第3週 中級段階の学習（9）「読む—文章の読解」
- 第4週 中級段階の学習（10）「読む—文章の読解」
- 第5週 中級段階の学習（11）「書く」
- 第6週 中級段階の学習（12）「書く」
- 第7週 中級段階の学習（13）「書く」
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 「文法・文型」の学習（1）
- 第10週 「文法・文型」の学習（2）
- 第11週 「短文の作成」（1）
- 第12週 「短文の作成」（2）
- 第13週 「作文の作成」（1）
- 第14週 「作文の作成」（2）
- 第15週 授業の年間のまとめ

（出典 24年度シラバス）

資料 5－1－②－6 続き

[この授業で習得する「知識・能力」] (「表現のよこび」) 感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現し、日常会話への自信に繋げる。 (「初級段階の総復習」) 1. 「文章を書く」、「人と話す」、「本を読む」、「話を聞く」の初級段階のすべての項目について総復習する。 2. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。 (「聴解力を養う」「会話の練習」) 音声教材や実際の話者による聴解練習を通し、日本語の通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。会話を聞いて理解する。	(「本を読む」「文章を書く」) 1. 日本語のテキストの文章を読み、新しく学ぶ漢字・語彙について学習し身につける。 2. 日本語の独特の表現方法を学び、正しく使う。質問された内容に正しく答える。 (「文法・文型」の学習) 1. 日本語の現代文の文章の中から、基本的な文法や文型を学び、正しく使う。 (「作文の作成」) 1. 「作文」の作成技術の基本を学び、身近なテーマについて作文を書く。読んだ人がわかりやすい文が書けるように練習する。 (「行動別の言語表現」) それぞれの言葉の特性を知り、実際に使う時や場合を理解しつつ、コミュニケーション能力を養う。
[この授業の達成目標] 感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現する能力を身につけるとともに、他者と円滑にコミュニケーションをとる能力を養う。	[達成目標の評価方法と基準] 上記の「知識・能力」を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。
[注意事項] 学習の対象が日本語の全分野にわたるため、積極的な取り組みを期待する。授業中に疑問が生じたら直ちに質問すること。なお、本教科は、後に学習する「日本語教育ⅠB」「日本語教育Ⅱ」の基礎となる教科である。	
[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 配布するプリントについて予習すること。	
[レポート等] 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。	
教科書：プリント学習および聴解教材 参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典などを持参すること。	
[学業成績の評価方法および評価基準] 2回の中間試験・2回の定期試験により60%、レポート等の結果を40%として評価する。 [単位修得要件] 定期試験、レポート等により学業成績で60点以上を修得すること。	

(出典 24年度シラバス)

資料 5-1-②-7

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育ⅠB	平成24年度	熊澤 美弓	3留学生	後期	履修単位1	選

〔授業のねらい〕 本授業では先の「日本語教育ⅠA」の学習を受けて、中級段階の実用的な日本語の習得を主目標にする。また、「表現することのよこび」を学ぶことを柱に据え、具体的には「口頭表現力」・「聴解力」・「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」をより向上させる。また、日本語能力試験1級取得を視野に入れた学習も行う。

〔授業の内容〕

すべての内容は学習・教育目標（A）の＜視野＞及び（C）の＜発表＞に対応する。

第1週 「日本語教育ⅠB」授業の概要と学習方法

第2週 中級段階入門編の総復習（1）

第3週 中級段階入門編の総復習（2）

第4週 「話す・聞く」学習（「自己紹介」）

第5週 「話す・聞く」学習（「日常会話」の応用）

第6週 読解学習（1）

第7週 読解学習（2）

第8週 中間試験

第9週 実用用語（漢字・語彙）の学習（1）

第10週 実用用語（漢字・語彙）の学習（2）

第11週 実用用語（漢字・語彙）の学習（3）

第12週 文法・文型の学習

第13週 「生活作文」学習（1）

第14週 「生活作文」学習（2）

第15週 日本語教育ⅠBの学習のまとめ

〔この授業で習得する「知識・能力」〕

（「表現のよこび」）

1. 感じたこと、考えたことを、日本語で思う存分表現できることがすばらしいことであることを学ぶ。

2. 日本人特有の感情や考え方を知り、日常のコミュニケーションに役立てる。

（「口頭表現力・聴解力」の養成）

1. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。

2. 「自己紹介」や「日常会話」の学習を通して、「口頭表現力」の知識と能力を身につける。

3. 聴解練習を通し、通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。

（「文章読解力の養成」）

1. テキストの文章を読み、新しい漢字・語彙を学ぶ。

2. テキストの文章の書き手の意図を理解する。文章を速く的確に読む。

（「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」の養成）

1. 中級程度の漢字・単語・慣用句表現さらに三字熟語・四字熟語・擬態語など日本語特有の表現を習得する。

2. 作文についての基礎技術について習得する。

（「生活作文」の学習）

原稿用紙の使い方、段落の分け方を学び、身近な課題をもとに作文を発表し、書き言葉としての日本語を学ぶ。

（日本語教育ⅠBの学習のまとめ）

すべての学習を通して、日本語教育Ⅱの学習の基礎にする。

〔この授業の達成目標〕

感じたこと、考えたことを日本語で思う存分表現できる能力を身につけるとともに、日常のコミュニケーションを円滑に行う能力を養う。

〔達成目標の評価方法及び基準〕

上記の「知識・能力」を網羅した問題を1回の中間試験、1回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。

〔注意事項〕 日本における実際の日常生活の中において、何事にも「積極的」、「意欲的」に取り組むように努力する。なお、本教科は後に学習する「日本語教育Ⅱ」の基礎となる教科である。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 実際の日常生活において、分からない言葉やことなどをメモしておくこと。なお、本教科は「日本語教育ⅠA」の学習が基礎となる教科である。

〔レポート等〕 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。

教科書：プリント学習および聴解教材

参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典、その他、各自の自主教材。

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 中間試験・定期試験により60%、レポート等の結果を40%として評価する。

〔単位修得要件〕 学業成績で60点以上を取得すること。

（出典 24年度シラバス）

資料 5-1-②-8

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育Ⅱ	平成24年度	熊澤 美弓	4 留学生	後期	学修単位 1	選

[授業のねらい] 本科目では日本語教育ⅠA・ⅠB で学習した内容を更に発展させ、レポートや小論文の作成、口頭発表を通じて一層の日本語能力の充実を目指す。また、日本語能力試験1級取得を視野に入れた学習も行う。

[授業の内容] すべての内容は学習・教育目標（A）の＜視野＞及び（C）の＜発表＞に対応する。 第1週 中級段階の作文力の総復習 第2週 中級段階の口頭発表力の総復習 第3週 読解学習（1） 第4週 読解学習（2） 第5週 読解学習（3） 第6週 読解学習（4） 第7週 読解学習（5） 第8週 中間試験	第9週 文章の構成を学ぶ（1） 第10週 文章の構成を学ぶ（2） 第11週 文章の構成各論（書き出しと中身を考える）（1） 第12週 文章の構成各論（話題の発展と結びを考える）（2） 第13週 評論文の実践 第14週 口頭発表力の養成 第15週 メールや手紙の書き方
---	--

[この授業で習得する「知識・能力」] （「漢字・語彙・作文力・読解力」の応用力の養成） 1. 中級～上級程度の漢字・単語・慣用句表現を習得する。 2. 「書き言葉」としての人称語・接続詞・副詞などの日本語特有の言語表現を学び、実践する。 （「漢字・語彙・作文力・発表力」の発展） 1. 丁寧語・待遇表現、および「公な場」での「話し言葉」を学び、実際にそれを使って発表する。 2. 小論文としての文章の書き方の基本を学ぶ。	3. 授業内容全体を通して、「話し言葉」「書き言葉」や「私的な言葉」「公の言葉」の違いを知り、日本語の表現の多様性を学ぶ。 4. 様々な表現・語彙を使い、自分の考えを小論文や口頭発表として適切に表現する。 5. 発表する時のマナーを学ぶとともに、「聞く人」のマナーや意欲の大切さについて考える。 6. 日本語能力試験1級取得を目指し、「聴解」「文字・語彙」「文法」などを学ぶ。 7. メールや手紙の書き方を学ぶ。
---	---

[この授業の達成目標] 感じたこと、考えたことを日本語で思う存分表現できる能力を身につけるとともに、日常のコミュニケーションを円滑に行う能力を養う。	[達成目標の評価方法と基準] 上記の「知識・能力」を網羅した問題を1回の中間試験、1回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。
--	--

[注意事項] 授業だけではなく、日本における実際の日常生活の中において何ごとにも「積極的」、「意欲的」に取り組むように努力する。特に、後半の実践授業については、学習者主体の授業になるので、積極的に材料の収集や調査に努め、意欲的に発表を行うこと。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 実際の日常生活において、分からない言葉、ことがらなどをメモしておく。授業で取り扱ったプリント以外にも積極的に日本の小説や評論、新聞やニュース番組などに触れ、豊かな表現力を身につけることが望ましい。なお、本教科は、「日本語教育ⅠA」「日本語教育ⅠB」の学習が基礎となる教科である。

[自己学習] 授業で保証する学習時間と、予習・復習（中間試験、定期試験のための学習も含む）及び、レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が45時間に相当する学習内容である。

教科書：プリント学習および聴解教材

参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典、その他、各自の自主教材。

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間試験・定期試験により60%、レポート等の結果を40%として評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

（出典 24年度シラバス）

資料 5－1－②－9

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講Ⅱ	平成24年度	中井・出口・林・日下・松尾・ 外国人チューター	3	後期	履修単位 1	必修

[授業のねらい]

英語の多読および多聴を通してより多彩な英語に親しむとともに、英語のみで行われる会話形式の授業を通じて、様々な場面に対応できるコミュニケーションな英語運用能力を身につけることを目的とする。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標 (A) <視野> [JABEE 基準 1 (1) (a)] および (C) <英語> [JABEE 基準 1 (1) (f)] に対応する。

第1週 前半ガイダンス (授業の進め方)

第2週 【多読】 Episode1, 【多聴】 演習 1: News (1)

第3週 【多読】 Episode1, 【多聴】 演習 2: News (2)

第4週 【多読】 Episode2, 【多聴】 演習 3: Announcement

第5週 【多読】 Episode2, 【多聴】 演習 4: Story

第6週 【多読】 Episode3, 【多聴】 演習 5: Speech

第7週 【多読】 Episode3, 【多聴】 演習 6: Interview

第8週 中間試験

第9週 後半ガイダンス 【会話】 Unit 1 “Meeting People”

第10週 【会話】 Unit 2 “Talking About Your Daily Life”

第11週 【会話】 Unit 3 “Talking About Friends & Family”

第12週 【会話】 Unit 4 “Making Plans to Go Out”

第13週 【会話】 Unit 5 “Talking About the Weekend”

第14週 【会話】 Unit 6 “Talking About the Summer Vacation”

第15週 【会話】 Unit 7 “Making a Delicious Dish”

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. まとまった分量の英文 (物語) を読み、内容を理解できる。
2. 英語で行われる議論や討論の内容を理解できる。
3. 英語での問いに対して簡単な英語で答えることができる。

4. 学習した英語表現を応用し、適切に使用することができる。
5. 会話に出てくる文法事項が理解できる。
6. 日本と外国における社会的違いや文化的違いを認識することができる。

[この授業の達成目標]

英語Ⅰ・Ⅱで学習し身につけた英語の知識・技能を基礎とし、多読・多聴を通して英語に親しむとともに、会話形式の活動によって様々な場面に対応できるコミュニケーションな英語運用能力を身につけることができる。

[達成目標の評価方法と基準]

「知識・能力」1～6を網羅した事項を定期試験及び授業中に行われる様々な演習や口頭テスト等の結果、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等の結果で目標の達成度を評価する。1～6の重みは概ね均等である。後期中間までは、定期試験の結果を6割、授業中に行われる課題等を4割とし、学年末では、定期試験の結果を5割、授業中に行われる様々な演習や口頭テスト等や課題等を合わせた結果を5割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする。

[注意事項] 本教科は、実社会で役立つ実際の英語運用能力の基礎となる。授業時間はもちろん、それ以外の時間にも自ら進んで多くの英語に触れることが望ましい。その手助けとなるよう、授業に関連した課題を課すことがあるので、提出期限を守り、計画的に学習を進めること。

(出典 24年度シラバス)

資料 5 - 1 - ② - 10

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
法学Ⅱ	平成 23 年度	長峰 隆 神戸真澄	4	後期	学修単位 1	選択必修

〔授業のねらい〕

我が国の特許制度の基礎的知識を習得すること。

〔授業の内容〕

すべての内容は学習・教育目標(A)＜視野＞及び＜技術者倫理＞と JABEE 基準 1(1) (a) 及び(b)に対応する。

第 1 週 発明とは何か

第 2 週 特許要件, 職務発明

第 3 週 特許情報の活用について

第 4 週 特許情報の調査（特許）その 1

第 5 週 特許情報の調査（特許）その 2

第 6 週 特許出願の手続

第 7 週 審査手続

第 8 週 中間テスト

第 9 週 特許権の効力及びその制限

第 10 週 特許情報の調査（商標）その 3

第 11 週 特許情報の調査（外国）その 4

第 12 週 企業における特許戦略

第 13 週 実施権

第 14 週 外国での特許取得および特許以外の産業財産権制度

第 15 週 発明の把握と展開

〔この授業で習得する「知識・能力」〕

1. 特許法上の発明を説明できる。
2. 発明が特許を受けるために必要な要件を述べることができる。
3. 職務発明制度を説明できる。
4. 特許庁電子図書館を使用して先行調査できる。
5. 公開特許公報と特許公報の異同について説明できる。
6. 特許出願に必要な出願書類とその役割を述べることができる。

7. 出願審査請求制度を説明できる。
8. 特許権の効力及び効力の制限について説明できる。
9. 専用実施権と通常実施権を比較して説明できる。
10. 外国で特許を取得するための制度を説明できる。
11. 我が国の特許以外の産業財産権制度を説明できる。

〔この授業の達成目標〕

実体面, 手続面から特許制度の本質的部分を理解し, さらに特許等の知的財産権のリサーチシステムについて理解している。

〔達成目標の評価方法と基準〕

上記「知識・能力」1～11を網羅した問題を1回の中間試験, 1回の定期試験とレポートで出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で, 目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。

〔注意事項〕 その都度取り上げる参考文献は, 目を通しておくのが望ましい。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 特になし。

(出典 23年度シラバス)

資料 5 - 1 - ② - 11

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気電子工学実験	平成 24 年度	北村・花井・辻	2	通年	履修単位 4	必

[授業のねらい]

電気電子工学に関する基礎的な物理現象を実験によって理解し、講義では得られない具体的な基本的概念を習得する。特に 2 年の実験では、電気電子計測機器の使用に慣れ親しみ、基本的な測定法を学ぶことを主な目的とする。

[授業の内容]

前期

すべての内容は学習・教育目標 (B)〈基礎〉〈専門〉に対応する。前期では、実験に必要な知識を講義する。

第 1 週 オリエンテーション、オームの法則

第 2 週 直列回路、並列回路の計算

第 3 週 ブリッジ回路

第 4 週 キルヒホッフの法則

第 5 週 重ね合わせの理、第 1 回試験

第 6 週 導体の抵抗

第 7 週 電力と電力量

第 8 週 正弦波交流 1

第 9 週 正弦波交流 2

第 10 週 正弦波交流 3、第 2 回試験

第 11 週 測定値の取り扱い

第 12 週 電圧計と倍率器

第 13 週 電流計と分流器

第 14 週 各種電気計器

第 15 週 各種電気計器、第 3 回試験

後期

すべての内容は学習・教育目標 (B)〈専門〉および (C)〈発表〉に対応する。後期は実験を行う。

第 1～2 週 実験にあたっての安全教育および報告書の作成についての指導ならびに各実験についての講義

第 3～15 週 原則として 1 班 4 名の班に分け、下記テーマなどに関して班ごとに実験を実施する。

- テスターの校正と使用法：テスターなどの計器の校正の手法を習得するとともに、使用法を習得する。
- 電位降下法による抵抗測定：オームの法則を実験から理解し、抵抗の概念を習得する。
- オシロスコープの取り扱い方：交流波形の観測を行い、オシロスコープの使用法を学ぶとともに、交流について理解を深める。
- キルヒホッフの法則：キルヒホッフの法則を実験から体得し、応用ができるようにする。
- ホイートストンブリッジによる抵抗測定：ブリッジの原理を理解し、抵抗測定法を習得する。
- 電気工事実技実習：第 2 種電気工事士の模擬単位作業試験を体験し、資格取得のための技能を習得する。

(出典 24年度シラバス)

(別紙様式 1)

平成 23 年 4 月 14 日

平成 23 年度 課題研究 開講計画書

校 長 殿

学科等 電気電子工学科

氏 名 大津 孝佳 (代表者)

下記のテーマを課題研究として開講いたしますので、ご承認願います。

記

- 1 テーマ パテントコンテスト及び意匠コンテストに向けたアイデアの創生と育成活動
- 2 学修の内容、期間及び時間
 内容：学生が創作したアイデアを知的財産へと具体化していく過程、及び具体化された知的財産に基づいて、模擬的な出願書類を作成する過程等を通して、知的財産に関する創造力と実践力を養う。
 期間：1 年間 30 時間： 水曜日の放課後（90 分×20 回）
- 3 具体的な実施方法
 - ・産業財産権標準テキストを活用して、基礎知識を習得するとともに、特許電子図書館検索演習を行なう。
 - ・発明・意匠についてのアイデアを創作し、地域の専門家等に相談して、知的財産としての具体的アイデアにする。
 - ・具体化されたアイデアについて、模擬的な出願書類の作成、試作品の作成などを実施する。
- 4 開講場所
創造工学演習室、情報処理センター演習室
- 5 受講可能人数
20 人程度
- 6 その他
知的財産分科会委員長のほか分科会委員が活動をサポートする。

(出典 学生課資料)

(別紙様式 1)

平成 23 年 4 月 15 日

平成 23 年度 課題研究 開講計画書

校 長 殿

学科等 教養教育科

氏 名 伊藤 清

下記のテーマを課題研究として開講いたしますので、ご承認願います。

記

1 テーマ

安定した小規模木質ガス発電の実現

2 学修の内容、期間及び時間

一昨年度に制作し昨年度に行った小規模木質ガス発電の実験でわかってきた問題点を洗い出し、それらを克服するための工夫を調べたり考え出し、発電を安定したものとする。

3 具体的な実施方法

使用している米国のキット販売団体の Web 情報や、同じ使用者達との協議、また類似の施設での成功例や問題点を検討しその技術を取り入れることができるか検討する。

4 開講場所

伊藤 清研究室か、山崎 賢二教員研究室、実習工場

5 受講可能人数

数人まで

6 その他

(出典 学生課資料)

創造工学演習の取扱いについて

1 創造工学演習の授業設計は、次のとおりとする。

- (1) 演習課題は、独自性のある工作、実験、調査等であること。
- (2) 演習内容は、新規機能、新データ解析、手法、考察等を含むこと。

2 創造工学演習の履修手続は、次のとおりとする。

- (1) 履修を希望する学生は、別記様式第 1 の申請書を当該学生の所属する学級担任に提出すること。
- (2) 学級担任は、指導教員を選定し、別記様式第 1 により指導教員の下承を得て、学生に指導教員の氏名を周知すること。
- (3) 指導教員は、別記様式第 1 の申請書に記名押印し、学生課教務係へ提出すること。

3 創造工学演習の成績評価及び単位認定は、次のとおりとする。

- (1) 学生は、所定の期日までに成果報告書を提出するとともに、成果発表会において口頭により発表を行うものとする。
- (2) 成果発表会は、教務主事又は教務主事補を座長とし、指導教員及び教務委員会委員で構成すること。
- (3) 成果発表会の出席者は、成績評価と単位の認定を行うこと。
- (4) 座長は、別記様式第 2 の成績評価・単位認定報告書を学級担任及び学生課教務係へ提出すること。
- (5) 成績評価は、学業成績評価基準第 12 条による評価とする。

4 その他創造工学演習の実施に必要な事項は、校長が別に定める。

附記

この取扱いは、平成 19 年 5 月 7 日から実施し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

(出典 平成24年度学生便覧p. 136)

資料 5 - 1 - ② - 15

他学科・他大学科目の単位履修状況

年度	期	所属クラス	科目	単位修得者数	該当機関
23	前期	1D	海外実務研修	1	茨城高専
23	前期	2D	海外実務研修	1	茨城高専
22	前期	4S	フランス語入門Ⅰ	1	放送大学
20	前期	5C	ロシア語入門Ⅰ	1	放送大学
20	前期	5C	ドイツ語入門Ⅰ	1	放送大学
19	前期	4M	スペイン語入門Ⅰ	3	放送大学
19	前期	4I	ドイツ語入門Ⅰ	1	放送大学

(出典 学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 16

インターンシップ履修状況

年度	H19	H20	H21	H22	H23
学生数(A) (人)	242	220	245	241	243
履修者数(B) (人)	179	188	172	191	186
履修者の割合(B/A) (%)	74	85	70	79	77
履修者内訳					
機械工学科	36	37	31	33	33
電気電子工学科	32	24	38	42	33
電子情報工学科	34	35	28	31	35
生物応用化学科	39	39	39	34	34
材料工学科	27	33	30	40	39
専攻科	11	20	6	11	12

(出典 学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 17

創造工学演習及び課題研究における履修状況

テーマ	指導教員	学籍番号	履修申請者	成績評価	単位認定
ロボコン	富岡			優	
ロボコン	富岡			優	
ロボコン	富岡			—	
ロボコン	近藤(邦)			優	
ロボコン	近藤(邦)			優	
ロボコン	白井			優	
ロボコン	白井			優	
ロボコン	白木原			優	
ロボコン	白木原			優	
ロボコン	打田			優	
ロボコン	打田			優	
ロボコン	大津			優	
ロボコン	大津			優	
ロボコン	平野			優	
ロボコン	平野			優	
ロボコン	平野			—	
ロボコン	平野			優	

テーマ	指導教員	学籍番号	履修申請者	成績評価	単位認定
ブロン	青山			優	✓
ブロン	青山			優	✓
ブロン	青山			優	✓
ブロン	青山			—	
ブロン	青山			優	✓
ブロン	渥美			—	

テーマ	指導教員	学籍番号	履修申請者	成績評価	単位認定
ソーラーカー	江崎			優	
ソーラーカー	江崎			—	
ソーラーカー	江崎			優	
ソーラーカー	江崎			優	
ソーラーカー	江崎			—	
ソーラーカー	江崎			優	
ソーラーカー	江崎			優	
ソーラーカー	江崎			優	
ソーラーカー	江崎			—	

テーマ	指導教員	学籍番号	履修申請者	成績評価	単位認定
エコラン	埜			—	
エコラン	埜			—	
エコラン	埜			優	
エコラン	埜			優	
エコラン	埜			優	
エコラン	埜			—	
エコラン	埜			—	

テーマ	指導教員	学籍番号	履修申請者	成績評価	単位認定
木質ガス発電	伊藤(清)			優	
木質ガス発電	伊藤(清)			—	

平成22年度 課題研究 単位認定一覧

テーマ	指導教員	NO	学籍番号	履修申請者	指導教員の評価	認定
ラテン語入門	奥	1			良	
		2			良	
		3			可	
		4			可	
		5			優	
		6			良	
		7			可	
		8			良	
		9			優	
		10			可	

(出典 学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 18

創造工学演習・留学生演習・日本語教育の履修状況(履修者数:人)

年 度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
創造工学演習	54	42	45	41	26
留学生演習	4	6	4	6	5
日本語教育	7	10	11	10	11

(出典 学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 19

ネイティブスピーカーの教員による少人数教育の履修状況)

年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
履修人数(人)	238	246	265	252	271

(出典 学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 20

環境に関連した創造工学のテーマ

H23 創造工学最終発表会

9.9(金)・視聴覚教室 8:50(発表に関する確認事項説明:下野)、8:55から発表、発表終了

発表時間:2分×人数 + 質疑応答3分

発表時間(質疑含まず)終了1分前:鈴1、終了時間:2鈴、質疑応答終了時間:3鈴

指導教員	テ ー マ	発表者		発表時間	発表時刻
		出席番号	氏 名		
澤田 淀谷 船越	バイオディーゼル燃料を 作ってみようIII			19分	8:55~9:14
内藤	セルロースの糖化			9分	9:52~10:01
甲斐	納豆の凝集沈殿効果の 検証			9分	10:35~10:44

(出典 H23年度生物応用化学科創造工学テーマ 抜粋)

資料 5 - 1 - ② - 21

環境に関連した卒業研究のテーマ

研究室	学籍番号	氏 名	研究題目
澤田			グリセリン分離法を用いたBDFの作製
			共溶媒を用いたBDFの作製
			イオン交換樹脂を用いたBDFの作製
長原			クマリン誘導体とアルケン類との光交差付加環化に関する研究
			クマリン誘導体と α, β -不飽和カルボニル化合物との光交差付加環化に関する研究
			<i>trans</i> -ケイ皮酸エステルの光異性化を経由する合成反応の開発
			<i>trans</i> -ケイ皮アミド誘導体の光異性化を経由する合成反応の開発
			共役ジエン酸エステルの光異性化を経由する合成反応の開発
富澤			環境汚染物質DDTの分解-1,1-ジフェニルエタンからベンゾフェノンへの酸化的変換-
			環境汚染物質DDTの分解-DDEを経る1,1-ジフェニルエチレンへの変換の試み-
生貝			シャクヤクのベンタガロイルグルコース含量を高める生育条件の検討
下野			細菌のバイオフィーム形成に与える鉄イオンの影響
			電子レンジルツボを用いた都市鉱山からの金の回収法の検討
			アマルガム法を応用した都市鉱山からの金の回収法の検討
小川			銀粉末電極を用いた都市鉱山からの金の回収法の検討
			スラグが細胞に及ぼす影響
			抗体生産廃液から作製した再生培地添加剤の利用法
淀谷			ラッキョウフルクタンを用いた動物細胞の凍結保存
			BDFの保存安定性の評価
			BDF合成時における不純物の分析

(出典 H23年度生物応用化学科卒業研究要旨集もくじ 抜粋)

実験10 化学物質等の生体影響評価試験

[はじめに]

我々の身の回りにある化学物質等は、快適に生活する上で必要不可欠である。その上で、化学物質等の我々人間を始めとする生体への影響を調査し（リスク評価を行い）、それらの安全性を示すことが必要である。その一つの方法として、現在では、メダカやゼブラフィッシュなどの魚類による化学物質等の生物学的毒性試験（バイオアッセイ）が実施され、その結果から化学物質等の安全や安心が評価されている。バイオアッセイには、原生生物から哺乳類まで、様々な生物が使用されているが、これらの小型魚類は飼育が簡単であり、実験に供する胚を大量に得ることができるため、バイオアッセイのための優れた系である。本実験では、小型魚類であるメダカ（*Oryzias latipes*）を用いて、化学物質の生体影響評価試験の方法と、その結果を利用した環境リスク評価について学ぶ。

実験3 酸化還元滴定（3週テーマ）

3-3 河川水のCODの測定

実験4 沈殿滴定（2週テーマ）

4-2 水道水中、海水中の塩化物イオンの定量

（出典 生物応用化学科3年生及び2年生実験テキスト 抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

他学科、他大学での授業科目を履修できるよう配慮している。また、補充教育において留学生の日本語教育、ネイティブスピーカーによる英語教育、法学Ⅱ、電気電子工学実験による著作権制度や特許制度の教授や資格取得のための技術の習得、課題研究等による創造力と実践力の養成を行うことができる教育課程の編成を配慮していることに加え、環境教育の充実も図っている。以上より、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮している。

観点 5－2－①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

授業形態には、講義中心のものと、実験、実習、製図等があり、これらの単位数と割合を示す表（資料 5－2－①－1）から分かるように、実験実習は 5 年間連続して学習し、高学年に進むとともに増えている。また、演習は、理解を深めるために講義の中に適宜採り入れている（資料 5－2－①－2，3）。実験、実習は教育効果を高めるために少人数のグループ実験、あるいは個人実験の方式をとり講義で学習した内容について実体験させることで、知識と実験技術を体得させている。（資料 5－2－①－4，5）。また、各教員は授業アンケートの結果等を受け、担当科目の目標と改善方針をまとめ、ウェブサイトを通じて学生に周知している（資料 5－2－①－6）。学力不足の学生に対する補講や再試験のタイムテーブルがウェブサイトを通じて閲覧でき円滑に遂行できるようになっている（資料 5－2－①－7）ことに加え、ティーチングアシスタントによる補習も行っている（資料 5－2－①－8）。この他、情報センターでの講義においては、電子ホワイトボード及び中間モニターを用いた講義を行い、moodleを介した課題提出や問題集の提供も行っている。（資料 5－2－①－9，10）

資料 5－2－①－1

各学科・学年での授業時間における講義，実験・実習の割合（％）

学科	機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科	
	講義	実験・実習	講義	実験・実習	講義	実験・実習
1	94	6	94	6	94	6
2	91	9	88	12	89	11
3	89	11	89	11	88	12
4	89	11	86	14	84	16
5	63	37	61	39	61	39

学科	生物応用化学科		材料工学科	
	講義	実験・実習	講義	実験・実習
1	94	6	94	6
2	88	12	91	9
3	88	12	87	13
4	84	16	83	17
5	58	42	70	30

（出典 教育課程表より集計）

資料 5－2－①－2

演習を採り入れた授業のシラバスの例

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理化学 I	平成 2 4 年度	平井	3	通年	履修単位 2	必
[授業の内容]						
前期			後期			
第 1 週 物質の構造			第 1 週 熱力学第 2 法則			
第 2 週 気体の性質			第 2 週 種々のエントロピー			
第 3 週 実在気体の状態方程式			第 3 週 自由エネルギー			
第 4 週 実在気体の $P-V$ 曲線と臨界点の関係			第 4 週 反応自由エネルギー			
第 5 週 相応状態の法則			第 5 週 マックスウェル式の誘導とその応用			
第 6 週 物質の構造と状態の 演習			第 6 週 マックスウェル式的应用			
第 7 週 物質の構造と状態の 演習			第 7 週 第 3 章章末問題の 演習			
第 8 週 前期中間試験			第 8 週 後期中間試験			
第 9 週 熱力学第 1 法則			第 9 週 純物質の相平衡			
第 1 0 週 気体の膨張と圧縮			第 1 0 週 熱力学第 3 法則			
第 1 1 週 熱容量とエンタルピー			第 1 1 週 純物質の相平衡の 演習			
第 1 2 週 熱力学第 1 法則の 演算			第 1 2 週 反応熱と熱化学			
第 1 3 週 理想気体の代表的な過程			第 1 3 週 反応熱の温度変化			
第 1 4 週 カルノーサイクル			第 1 4 週 種々のエンタルピーと 演習解説			
第 1 5 週 熱力学第 1 法則の 演習			第 1 5 週 Born-Haber Cycle と格子エネルギーと 演習解説			

(出典 平成24年度 3 年生物応用化学科物理化学Iシラバス 抜粋)

資料 5－2－①－3

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
無機工業化学	平成 2 4 年度	下野 晃	5	通年	学修単位 2	コース 選択必修
[授業の内容]						
前期			後期			
◆セラミックスの構造と基礎的物性			第 1 週 総論 無機工業化学の定義, 特色, 歴史, 資源論			
第 1 週 セラミックスとは?			第 2 週 エネルギー論, 環境論			
第 2 週 ブラヴエ格子結晶系, 単結晶と多結晶の微細構造, 演習			第 3 週 水素の製造 (水蒸気改質, 部分酸化, 電気分解)			
第 3 週 ブラヴエ格子結晶系, 単結晶と多結晶の微細構造, 演習			第 4 週 アンモニアの製造 (速度, 平衡)			
第 4 週 不定比化合物, 酸素欠陥			第 5 週 硝酸の製造 (酸化, 還元)			
第 5 週 不定比化合物, 酸素欠陥, 演習			第 6 週 単体硫黄と硫酸の製造			
第 6 週 結晶歪み, 結晶場			第 7 週 塩素と水酸化ナトリウムの製造, 総合演習			
第 7 週 結晶場, 演習			第 8 週 中間試験			
第 8 週 中間試験			第 9 週 鉄の製造 (銑鉄, 鋼)			
◆セラミックスの合成法			第 10 週 銅の製造 (粗銅, 電気銅)			
第 9 週 セラミックスの合成過程における原料調整法, 演習			第 11 週 アルミニウムの製造 (電気分解)			
第 10 週 セラミックスの合成過程における成形法, 焼結法			第 12 週 ケイ素の製造 (ジーマンス法) (次ページにつづく)			
◆代表的なセラミックスの材料特性と用途			第 13 週 炭素物質の製造 (ダイヤモンド, 黒鉛)			
第 11 週 アルミナ, ジルコニア			第 14 週 ナノカーボン (フラーレン)			
第 12 週 チタニア, チタン酸バリウム, チタン酸ストロンチウム			第 15 週 ナノカーボン (カーボンナノチューブ)			
第 13 週 P Z T セラミックス, SnO_2 , ZnO , SiO_2 , 演習						
第 14 週 フェライト, 酸化鉄セラミックスの材料特性, 用途						
第 15 週 バイオセラミックス, セラミックスの展望						

(出典 平成24年度 5 年生物応用化学科無機工業化学シラバス 抜粋)

資料5-2-①-4

4人程度の少人数による実験テーマ別実施予定表

平成24年度 物理化学実験実施予定表

火曜日 5～8時限

No.	実験テーマ	担当教員	ページ
1	液体の蒸気圧	淀谷	1
2	融解熱と活量係数の測定	淀谷	3
3	電量分析	淀谷	5
4	溶解熱の測定	淀谷	6
5*	コンピューターを用いたシュミレーション1	高倉	8
6*	コンピューターを用いたシュミレーション2	高倉	15
7	ガスクロマトグラフィーによる分子間相互作用の測定	平井	18
8	ローダミンBの平衡定数の測定	平井	21
9	アセトンの一般塩基触媒エノール化	平井	24
10	アセチルアセトンエノールの異性化	平井	27

*: 実験5, 6は2週で行うテーマです。

学籍番号 \ 実験日	4月		5月				6月			7月			9月		
	17	24	8	15	22	29	5	19	26	3	10	17	4	11	18
1,13,25,37	ガイ ダンス ・ 実 験 準 備		1	2	3	4	5	5	6	6	7	8	9	10	予 備 日
2,14,26,38			2	3	4	5	5	6	6	7	8	9	10	1	
3,15,27,39			3	4	5	5	6	6	7	8	9	10	1	2	
4,16,28,40			4	5	5	6	6	7	8	9	10	1	2	3	
5,17,29,41			5	5	6	6	7	8	9	10	1	2	3	4	
6,18,30,42			5	6	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	
7,19,31,43			6	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	5	
8,20,32,44			6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	5	6	
9,21,33,46			7	8	9	10	1	2	3	4	5	5	6	6	
10,22,34,49			8	9	10	1	2	3	4	5	5	6	6	7	
11,23,35,52			9	10	1	2	3	4	5	5	6	6	7	8	
12,24,36,54			10	1	2	3	4	5	5	6	6	7	8	9	

注意

4月24日のガイダンスまでに平井先生担当の実験テーマ(英文)を訳しておくこと。

レポートの提出日は翌週の月曜日の17時です。

(出典 平成23年度4年生物応用化学科物理化学実験テキスト 抜粋)

個人実験の方式を採り入れた授業のシラバス例

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子回路設計	平成 24 年度	近藤, 奥田, 辻	3	後期	履修単位 1	必

[授業のねらい]

トランジスタやマイコンなどの電子素子は、優れた性能を有していることから様々な電子機器に組み込まれている。本授業では、これまで学習してきた電子回路の動作原理や P I C マイコン制御の理論をもとにして、これらの素子を使った基本的な電子回路およびマイコン制御回路を設計・製作する上で必要となる技術と知識を習得する。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(B)＜専門＞および JABEE 基準 1(1)(d)(2)a)に対応する。

◆電子回路の基礎

第 1 週 小信号増幅回路の設計法 1

第 2 週 小信号増幅回路の設計法 2

第 3 週 小信号増幅回路の製作と特性測定 1

第 4 週 小信号増幅回路の製作と特性測定 2

◆P I C マイコン制御の基礎

第 5 週 M P L A B の使い方 1

第 6 週 M P L A B の使い方 2

第 7 週 L E D 点灯制御

第 8 週 L E D 点滅制御 1

第 9 週 L E D 点滅制御 2

第 10 週 L E D 点滅制御 3

第 11 週 スイッチ入力による L E D 点灯制御

第 12 週 D C モータの制御 1

第 13 週 D C モータの制御 2

第 14 週 割り込み制御 1

第 15 週 割り込み制御 2

[この授業で習得する「知識・能力」]

◆電子回路の基礎

1. 小信号増幅回路の動作原理を理解し、設計できる。
2. 電子回路で必要となる測定装置を使うことができる。

◆P I C マイコン制御の基礎

3. M P L A B を使って P I C にプログラムを書き込める。
4. アセンブラで P I C を制御するプログラムを作成できる。
5. 回路図に基づいて P I C 制御回路の結線ができる。

6. P I C を使ってデータの入出力制御ができる。
7. P I C を使って L E D の点灯・点滅制御ができる。
8. P I C を使ってリレーの制御ができる。
9. P I C を使って D C モータの制御ができる。
10. P I C を使って簡単な割り込み処理ができる。

H24年度授業目標・改善方針抜粋

生物応用化学学科			
教員氏名	科目名	学年・クラス	24年度に向けての目標・改善方針
生貝 初	微生物学Ⅱ	4C生物化学コース(通年)	多岐にわたる内容であるため分かりやすい授業を心がける。今年度はパワーポイント資料をそのまま提示するだけでなく、文章や図を適宜パワーポイント資料の中に追加し板書のような形態を取り入れ、分かりやすくする。
	タンパク質化学	5C生物化学コース(通年)	最新のタンパク質化学の成果を適宜解説し、生体高分子の働きや構造に興味を持たせるようにする。パワーポイント資料をそのまま提示するだけでなく、文章や図を適宜パワーポイント資料の中に追加し板書のような形態を取り入れ、分かりやすくする。
	生体材料工学	5C生物化学コース(前期)	今年度から始まった科目であるので学生の理解度をみながら、分かりやすい授業をすることを心がける。また、パワーポイント資料をそのまま提示するだけでなく、文章や図を適宜パワーポイント資料の中に追加し板書のような形態を取り入れ、分かりやすくする。
	生物応用化学実験(培養工学実験)	5C生物化学コース(後期)	各実験のキーポイントを説明し微生物実験に興味を持たせる。微生物の取り扱いに慣れるように実験指導する。またできるだけ一人ひとりが実験できるように実験装置や器具の拡充に努めていきたい。
	生体機能工学	2B(前期)	化学・生物・材料出身の学生が受講しているので、専門用語や技術が全員に分かるように平易に解説する。また、毎回、先端の生物工学の話題をNatureやScienceなどから1つ抜粋して解説し、世界では今何が行われているのかを学生に説明する。
澤田 善秋	情報処理応用	4C(通年)	評価点数は、例年とほぼ同等であった。後期はVBAを用いるため毎年、前期より評価が下がっている。後期もポイントを絞って分かりやすい説明に努めたい。
	化学工学Ⅱ	5C(前期)	昨年度より評価点数の改善が見られた。その中でも、教え方などを工夫し、分かりやすく説明しているかの点数が低かったため、今後は、特にプロセス設計の内容を分かりやすく伝えるため、式だけではなく図表を織り込む工夫をしたい。
	化学設計製図	5C(通年)	これまでの評価に比べて向上がみられたが、5年の授業で後期は更に志気が下がると予想されるため内容及び取り進め速度にも気を付けたい。
	応用化学コース実験	5C(前期)	評価は過去、最高点となった。これまでに比べて実験の目的・実験(実習)方法の指示等は適切であったとの評価が上がっている。第1回実験後の報告会および第1回目実験者の次回指導の成果が現れてきていると考えられる。来年度以降も継続したい。
	技術者倫理	1DB(後期)	中部技術士会から5名の技術士に来ていただいて、自分を含め6名で各々の得意分野を講義している。内容、取り進め方にばらつきがあるかとは、思うが事例を中心に取り進めていきたい。
	生産設計工学	2DB(後期)	昨年度よりBコースも対象として開講された。企業で実際に用いられている内容を題材として、取り進めていきたい。

(出典 学生課資料)

再試験・補習予定表

	実施教科(教員)	実施場所	実施時間帯	対象学生のクラス(人数)									
				1M	1E	1I	1C	1S	2M	2E	2I	2C	2S
2011/1/16(月)	化学再試(山崎)	1ICR	16:40～	19	9	4		14					
2011/1/17(火)	基礎数学A	未定	16:40～	19			11	21					

(出典 学生課資料)

ティーチングアシスタントによる補習

上級生によるサポートをしています

上級生が先生の補助(TA)として下級生の質問に応じたり補習を行っています。

対象教科は数学などで毎週1回程度実施しています。参加者からは"分かりやすい"という評価を得ています。



(出典 入学案内リーフレット 抜粋)

資料 5-2-①-9

情報センター演習室を用いた講義の利用時間帯

		演習室 1	演習室 2
月	1	メンテナンスのため閉館	メンテナンスのため閉館
	2		
	3	応用情報工学	材料環境科学
	4	1DB	(5S)
	昼		
	5		機械設計製図
	6		
	7		
	8		3M
	放	閉館	
火	1	化学設計製図	データ処理システム
	2	(5C)	(2D)
	3	電子回路設計	
	4	(3E)	
	昼		
	5		機械設計製図/総合実習
	6		
	7		4M/3M
	8		
	放	閉館	
水	1	情報処理I	設計製図IV
	2	(1S)	(5S)
	3	情報処理I	法学II
	4	(1E)	(4選)
	昼		
	5	情報処理応用	(特活)
	6	(4C)	
	放	閉館	
木	1	メカトロニクス工学特論	計算機援用工学
	2	2D	(5M)
	3		生物情報工学
	4		5C
	昼		
	5	情報処理I	機械工作実習/計測工学
	6	(1C)	
	7	情報処理I	
	8	(1M)	2M/(5M)
	放	閉館	
金	1	生産設計工学	
	2	2DB	機械設計製図
	3		5M
	4		
	昼		

(出典 情報処理センター資料)

資料 5 - 2 - ① - 10

moodleを介した課題の提出や問題集の提供を行っている科目（抜粋）

現代科学II	3M メカトロニクス
基礎数学B	5M機械設計製図
微分積分 1	4M機械力学
微分積分 1	4E電気電子材料
微分積分2	3E電子回路設計
微分積分 2	2Iマイクロコンピュータ基礎
応用数学	4I計算機アーキテクチャ
応用物理	4I基礎制御工学
技術英語IA	5I画像処理工学
技術英語 I	1Iプログラミング基礎
数学特論 1	1I工学実験
数学特論 2	1I情報処理
数学特講I	2Iプログラム設計
数学編入学試験対策	2I工学実験
物理	3Iデータ構造とアルゴリズム
物理	3I工学実験
現代科学III	3I電子工学
総合基礎数学要約	3I電気回路論
総合基礎英語A	4I創造工学
線形代数	4I工学実験
線形代数 1	4I情報理論 I
線形代数 2	4I情報通信ネットワーク
英語IA	4I電子回路
英語IA	4I電気回路論
英語IB	5I人工知能
英語IIB	4C情報処理応用
英語IVA	5C応用化学コース実験
英語IV	5C化学工学II
英語V	化学設計製図
英語問題集	有機化学
英語特講	3S電気工学基礎
英語特講IA	4S機械工学基礎
英語特講II	5S材料プロセス工学
英語特講 I	5S生産工学
	5S電気化学

(出典 情報処理センター資料)

(分析結果とその根拠理由)

各科目の授業内容に応じて適切な授業形態をとっており、少人数グループによる実験、実習、講義への演習の導入等、より教育効果の上がる授業形態を工夫している。また、授業担当教員により各授業の改善も活発に行っていることに加え、ティーチングアシスタントによる学力不足の学生へのサポート体制も整っている。以上のことから、本校の準学士課程では、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を十分に行っている。

観点 5－2－②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）

教務主事策定のシラバスの作成要領（資料 5－2－②－1）に従い各教員が作成したシラバスの内容を各学科の教務主事補が確認した後、ホームページにアップする。シラバス（資料 5－2－②－2, 3）には「授業のねらい」「授業の内容」「この授業で習得する知識・能力」「あらかじめ要求される基礎知識の範囲」「注意事項」「教科書・参考書」「学業成績の評価方法」「単位修得要件」の各項目を記載しており、その授業について様々なことがよく分かるように配慮している。「あらかじめ要求される基礎知識の範囲」, 「注意事項」には科目間の連携等についても示している。「授業の内容」については週毎の学習内容を記載しており, 「この授業で習得する知識・能力」ではその科目で学習するポイントが分かるようになっており, この観点から試験問題も出題している（資料 5－2－②－4）。このシラバスは初回の授業で各担当教員から学生に配布し, 解説する他, ウェブページでも公開し, その閲覧回数（資料 5－2－②－5）及び授業アンケート結果（資料 5－2－②－6）より学生が活用していることがわかるが, シラバスの記載内容を参考に授業の予習復習及び試験勉強に活用したかについては, 今後, 明示の仕方等の改善が必要であると思われる。また, クラスルームには印刷したものを常備している。一方, 教員側は, 教育・研究活動報告書でシラバス達成状況を校長に報告するとともに実施した授業内容を記録し学生課に報告している。（資料 5－2－②－7, 8）

資料 5 - 2 - ② - 1

平成 23 年 11 月

教 務 主 事

平成 24 年度学修単位制実施要領及びシラバス作成要領

1. 学修単位制実施要領

1. 1 学修単位制下における授業のあり方及び自己学習時間についての考え方

平成 24 年度は 95 分×15 回の授業とします。

・ 学修単位制下では、学校での学習時間と自己学習時間の合計が 45 時間をもって 1 単位となります。本校では、学校での学習時間は半期 23.75 時間になりますので、学科学生を対象とした各科目では、残り 21.25 時間を自己学習で保証できる授業内容としなければなりません。ここで、自己学習時間とは予習・復習（小試験のための勉強、中間試験や定期試験のための準備勉強も含む）に費やす学習時間、あるいは課題や宿題に費やす学習時間の総計を意味します。

・ このような学修単位制を実施するにあたり、授業開始から前期末試験までの期間を対象として 4, 5 学年に対して行ったアンケート調査結果を基として、以下の要領で、平成 24 年度の授業内容と進め方を構築し直して下さい。

・ 科目ごとの自己学習時間の設定（現時点でどの程度自己学習をしているかの見積もり）に際しては、授業の内容や水準（難易度）が同じであっても、内容の理解や課題の実施のために要する自己学習時間には学生の間に大きな開きがあることが判明しています。そのため、平成 24 年度においても、より多くの自己学習時間を必要とする学生のことを考慮して、アンケートで得られた平均自己学習時間よりも多めの時間を設定することとします。そして、それが 20 時間を超えるか、ほぼ 20 時間か、あるいは 20 時間を下回るかで、平成 24 年度の授業の内容と進め方を構成し直して下さい。

例 1 アンケートで得た前期末試験までの平均自己学習時間が 16～20 時間の場合

ほぼ半期 20 時間に相当すると考える。

例 2 アンケートで得た前期末試験までの平均自己学習時間が例えば 10 時間の場合

半期 20 時間を下回っているので、6～10 時間分の予習・復習・課題作成、小試験等を行わせるようにする。

※ 各科目の自己学習時間アンケート結果については、下記の学内サーバをご確認下さい（¥¥aspen¥all¥share¥事務書類¥教務係¥自己学習時間）。また、シラバスの「記入例」を学内サーバ上（ ¥¥Aspen¥all¥temp¥シラバス）に掲載します。

1. 2 授業内容・方法の組立て方について

（１）自己学習時間がほぼ 20 時間（16～22 時間程度）の場合及び 20 時間を大きく超えない場合・・・授業内容、学習量、難易度等を大きく変更する必要はありませんが、自己学習が行われているか否かを説明できるよう授業の進め方やシラバスの記入方法を工夫して下さい。

（２）ほぼ 20 時間を下回る場合（およそ 16 時間以下）・・・不足時間分の予習・復習・課題作成、小試験等を行わせるように工夫して下さい。

（３）20 時間を大きく超える場合・・・他の科目の自己学習時間に影響が出るため、時間を減らすよう授業の構成を変更して下さい。具体的な計画については各学科で協議の上、適切な上限等を決めて下さい。

（４）自己学習の形態として、予習・復習のほか、毎週行う課題や小テスト、半期で終了する課題作成などが考えられますが、科目ごとに自由に設定して下さい。ただし、多くの科目で毎週提出物等が課せられると学生にとって過大負担となる場合がありますので、土・日曜日、祝日、長期休暇などを活用した課題等も考えて下さい。（例えば、文系の科目については長期休暇中に文庫本や新書等を読ませて、それに関するレポートを提出させるなど）

資料 5－2－②－1 続き

2. シラバス作成要領

2. 1 様式は必ず、学内サーバー(¥¥Aspen¥all¥temp¥シラバス)に掲載のフォルダにある平成 23 年度シラバスをコピーし、加筆修正して平成 24 年度用を作成して下さい。参考に「記入例」も掲載しています。

記入例 1：学修単位 1 単位(半期)授業の場合

記入例 2：学修単位 2 単位(通年)授業の場合(1)

記入例 3：学修単位 2 単位(通年)授業の場合(2)

記入例 4：工学実験の場合

記入例 5：履修単位授業の場合

(1～3 学年の全授業、保健体育、創造工学、卒業研究など)

記入例 6：専攻科の授業の場合

・半期科目は原則として 1 ページとしますが、やむをえず超過する場合は 2 ページ以内にとどめてください。通年科目は 2 ページとします。いずれの場合も、2 ページ以上のときは、ページ下部に(次ページにつづく)と括弧書きで記してください。

・字 体 MS 明朝

・フォント数 8 ポイント

・シラバスの記載内容については、上記「記入例」を参考にし、以下の諸点に留意して記述してください。

・句読点「、」「。」は用いず、カンマ、ピリオド「,」「.」を用いて下さい。

2. 2 執筆上の注意点

(1) [単位数]欄について

4, 5 学年の「学修単位」科目及び専攻科の科目は、学修単位○(○は単位数)として下さい。それ以外の科目は履修単位○(○は単位数)として下さい。

学修単位科目：教室での学習時間と自宅学習を併せ、45 時間の学習で 1 単位とする科目。4, 5 学年の大部分の科目が該当します。(教育課程表 4, 5 年の*印の科目)

履修単位科目：教室での 30 単位時間の学習で 1 単位とする科目。4, 5 学年の一部の科目(インターンシップ、創造工学、創造工学演習、保健体育、卒業研究)と 3 学年以下の科目が該当します。

(2) [授業のねらい]欄について

科目の背景及び目標を、記入例に倣い、丁寧に書いて下さい。

(3) [授業の内容]欄について

・週ごとに、学習する内容が学生によく分かるように記載して下さい。

次のような例は不適切です。

第 1 週 Lesson 1

第 2 週 Lesson 2

これを例えば次のように書いてください。

第 1 週 Lesson 1 日本の文化、特に礼儀に関する英文例

：

・4 学年以上の科目では、「複合型生産システム工学プログラム」学習・教育目標のどの項目に対応するかを記載して下さい。また、3 学年以下の科目では、学科の学習・教育目標のどの項目に対応するかを記載して下さい。

(「複合型生産システム工学」学習・教育目標)は学生便覧 170 頁に掲載

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/information/jabee/mokuhyo.htm> にも掲載

(各学科の学習・教育目標)は学生便覧 34 頁に掲載

学内サーバ上(¥¥Aspen¥all¥temp¥シラバス)にも掲載

(授業内容と学習・教育目標との対応が明記された科目系統図)は学生便覧 102 頁に掲載

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/education/index.htm> にも掲載

これらの系統図は、認証評価及び JABEE の自己点検評価書に用いています。この系統図との対応に矛盾がないか、確認して下さい。

・3 学年以上においては、JABEE 基準の対応項目も記載して下さい。各週同じ項目に対応する場合はまとめて記載しても構いません。

(JABEE との対応)は下記に掲載

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/information/jabee/mootaio.pkuydf>

資料 5－2－②－1 続き

(4) [この授業で習得する「知識・能力」] 欄について

あまりにも抽象的で範囲が広すぎる表現を避け、具体的にどのような「知識・能力」を身につければよいかが学生に分かるように記述するのは従来どおりです。記入例に倣い、「…できる。」「…を理解している。」等、能力がついた後の状態を示す表現にしてください。

後述のように、この欄に記載した「知識・能力」の各項目の成績評価に対する重みを明記する必要があります。このことが試験問題の配点を制約することに注意してください。あまりに「知識・能力」の項目数が多いと、そのすべてをシラバスで宣言した重みにしたがって試験等に出題するのが難しくなります。また、「知識・能力」があまりにも具体的すぎる場合、例えば「三角関数の倍角公式を導くことができる」という項目を設けた場合、「三角関数の倍角公式を導きなさい」という試験問題を必ず出題し、シラバスに記載した重みにしたがった配点をせねばなりませんので、シラバスに試験問題と配点がかかれていることになってしまいます。したがって、「知識・能力」の各項目は、試験問題と配点にある程度の自由度を確保できるように書いて下さい。

(5) [この授業の達成目標] 欄について

① 例を参考に達成目標を書いて下さい。JABEE 審査に必要な項目ですので、シラバスに明記する必要があります。JABEE の「達成目標」には、「達成された」か「達成されなかった」か という使い方しかなく、「60%達成」という表現はありません。したがって、「達成目標」が達成されたか達成されなかったかを評価するための「評価方法」と、目標が達成されたとするレベルを定める「基準」が必ず必要となります。この「達成目標の評価方法と基準」の具体的な書き方は後述します。

② 「達成目標」は 1 センテンスとしてください。これは、下記の理由により「達成目標」を一つにするためです。

（解説）「達成目標」がすべて達成された場合にのみ、その科目が合格となります。したがって、複数の「達成目標」を設けた場合、その一つでも達成されないと平均点が 60 点を越えていてもその科目は不合格としなければならない、従来の本校の成績評価法（平均点が 60 点以上で合格）より学生にとって厳しい評価法となります。達成目標を一つにして、「試験等で平均 60 点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする」という評価基準を設定すれば、「平均点が 60 点以上で合格」という本校の単位認定基準と整合しており、学生の負担が急に増すことを避けられます。また、「達成目標」を複数設けた場合、教員は目標ごとに成績評価せねばなりません、目標が一つであればそのような煩雑さも生じません。

③ ここで問題となるのは、JABEE が「科目ごとの達成目標」として「何がどの程度できるようになるかが具体的にわかるような記述」を要求していることです。達成目標を一つにした場合、その目標は必然的に抽象的な表現となり、具体性に欠けます。そこで、「何がどの程度できるようになるか」は、これまでどおり「知識・能力」欄で示すこととし、ここに掲げた内容と密接に関係する「達成目標の評価方法」を示すことにより、JABEE の要求する達成目標の具体性を担保することとします。

④ 3 学年以下の科目も、4, 5 学年の科目に準じて、例を参考に記入してください。

6) [達成目標の評価方法と基準] 欄について

① [この授業で習得する「知識・能力」] 欄に書いた内容と密接に関係する評価方法・評価基準として下さい。評価方法の具体的内容（定期試験、小テスト、レポート、口頭試問等）と「知識・能力」の各項目の重みを明記して下さい。試験のレベルを示す方法として、適当な外部試験がある場合にはそのレベルを引用する方法も考えられます。

例：エネルギー管理士試験（他に、第 1 種電気主任技術者 1 次試験、公害防止管理者大気 1 種試験…等）に出題される問題と同等のレベルの試験を課し、60%の得点で目標の達成を確認する。

② 3 学年以下の科目も、4, 5 学年の科目に準じて、例を参考に記入してください。

[この授業の達成目標] と [達成目標の評価方法と基準] の例は学内サーバ上(¥¥Aspen¥all¥temp¥シラバス)に掲載します。

(出典 学生課資料)

資料 5 - 2 - ② - 2

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
有機化学	平成 24 年度	長原 滋	2	通年	履修単位 2	必

〔授業のねらい〕

有機化学は、応用化学および生物化学に関する専門科目を習得するために必要な基礎科目である。第 2 学年では、有機化合物の構造および結合に関する基礎知識、脂脂肪族・芳香族炭化水素、アルコール、エーテルおよびエポキシドに関する基本的な反応および命名法について学ぶ。

〔授業の内容〕

すべての内容は、学習・教育目標（B）＜基礎＞に対応する。

前期

- 第 1 週 有機化合物の構造と結合： 古典的原子軌道，量子論的原子軌道，電子配置，ルイス構造式，オクテット則，形式電荷，イオン結合
- 第 2 週 有機化合物の構造と結合： 原子価殻電子対反発法，原子価結合法，分子軌道法， σ 結合， π 結合，混成軌道
- 第 3 週 有機化合物の構造と結合： 電気陰性度，極性共有結合，酸と塩基，水素不足指数，異性体
- 第 4 週 有機化合物の分類： 基本的な有機化合物，官能基
- 第 5 週 アルカン： 命名法，物理的性質，立体化学
- 第 6 週 アルカン： 接触水素添加および Grignard 試薬の加水分解によるアルカンの合成
- 第 7 週 アルカン： ハロゲン化，収量および収率
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 アルケン： 命名法，物理的性質，幾何異性体
- 第 10 週 アルケン： 合成法（アルコールの脱水），アルケンの安定性，Saytzeff 則
- 第 11 週 アルケン： 合成法（ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素など）
- 第 12 週 アルケン： E1 および E2 脱離，カルボカチオンの安定性
- 第 13 週 アルケン： アルケンの求電子付加反応
- 第 14 週 アルケン： 求電子付加反応の機構，Markovnikov 則
- 第 15 週 アルケン： アルケンに対するその他の反応

後期

- 第 1 週 ジエンとポリエン： 命名法，共役ジエンの反応および反応機構
- 第 2 週 アルキン： 命名法，置換反応および脱離反応によるアルキンの合成
- 第 3 週 アルキン： アルキンの求電子付加反応および反応機構
- 第 4 週 芳香族化合物： 命名法，共鳴理論，分子軌道，芳香族性
- 第 5 週 芳香族化合物： 芳香族化合物の求電子置換反応
- 第 6 週 芳香族化合物： 配向効果，活性化効果
- 第 7 週 芳香族化合物： 芳香族化合物に対するその他の反応，多段階合成
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 アルコール： 命名法，物理的性質
- 第 10 週 アルコール： 合成法
- 第 11 週 アルコール： S_N1 および S_N2 置換
- 第 12 週 アルコール： 反応
- 第 13 週 フェノール： 合成法，化学的性質
- 第 14 週 エーテルとエポキシド： 命名法，物理的性質，合成法
- 第 15 週 エーテルとエポキシド： 反応

（出典 平成 24 年度シラバス 抜粋）

資料 5－2－②－2 続き

〔この授業で習得する「知識・能力」〕 前期 1. 原子軌道および電子配置，パウリの排他律とフントの規則，ルイス構造式，オクテット則，イオン結合と共有結合，電気陰性度，酸と塩基，原子価殻電子対反発法と立体配置，水素不足指数と構造上の特徴，異性体，有機化合物の総称および官能基の名称について説明できる。 2. アルカン，アルケン，アルキンなどの有機化合物の分子軌道を混成軌道（sp^3，sp^2，sp 混成軌道），σ 軌道および π 軌道を用いて表わすことができる。 3. アルカンの物理的性質および立体化学について説明できる。 4. アルカンの合成法および反応について説明できる。 5. アルカンの命名ができる。 6. アルケンの合成法について説明できる。 7. アルケンの反応について説明できる。 8. アルケンの合成法の機構について説明できる。 9. アルケンの反応の機構について説明できる。 10. アルケンの命名ができる。	後期 11. 共役ジエンの反応および機構について説明できる。 12. アルキンの合成法，反応およびそれらの機構について説明できる。 13. 芳香族化合物の反応（求電子置換反応，官能基変換反応，多段階合成）およびそれらの機構について説明できる。 14. 芳香族炭化水素の共鳴寄与構造，芳香族性，置換ベンゼンに対する求電子置換反応における配向効果および活性化効果について説明できる。 15. 共役ジエン，アルキンおよび芳香族炭化水素の命名ができる。 16. アルコール，フェノール，エーテルおよびエポキシドの性質について説明できる。 17. アルコール，エーテルおよびエポキシドの合成法について説明できる。 18. アルコール，エーテルおよびエポキシドの反応について説明できる。 19. アルコール，エーテルおよびエポキシドの合成および反応の機構について説明できる。 20. アルコール，フェノール類，エーテルおよびエポキシドの命名ができる。
〔この授業の達成目標〕 有機化合物の構造および結合に関する基礎知識，脂肪族・芳香族炭化水素，アルコール，エーテルおよびエポキシドに関する基本的な反応および命名法について理解している。	〔達成目標の評価方法と基準〕 「知識・能力」1～20 の確認を小テスト，課題レポート，前期中間試験，前期末試験，後期中間試験および学年末試験で行う。「知識・能力」1～20 に関する重みは同じである。合計点の 60% の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。
〔注意事項〕 本教科は，第 3 学年以降で学ぶ有機化学系科目の「有機化学」，「精密合成化学」，「高分子化学」，「有機工業化学」，「有機化学特論」（専攻科），「高分子化学特論」（専攻科）等の基礎となるため，各授業内容を確実に習得する。	
〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 本教科では第 1 学年の「化学」における有機化学分野の学習が基礎となる。	
〔レポート等〕 内容毎に小テストあるいは課題レポートの提出を実施する。	
教科書： 「マクマリー有機化学概説」 J. McMurry, E. Simanek 著 伊東，児玉訳（東京化学同人） 参考書： 「マクマリー有機化学」伊東，児玉ほか訳（東京化学同人），「ボルハルトショアー現代有機化学」古賀，野依，村橋監訳（化学同人） その他関連の参考書は図書館に多数ある。	
〔学業成績の評価方法および評価基準〕 前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を 80%，小テストおよび課題レポートの結果を 20% として，それぞれの期間毎に評価し，これらの平均値を最終評価とする。ただし，学年末試験を除く 3 回の試験のうち 60 点に達していない試験については，再試験を実施して 60 点を上限として評価することがある。 〔単位修得要件〕 学業成績で 60 点以上を取得すること。	

（出典 平成 24 年度シラバス 抜粋）

資料 5 - 2 - ② - 3

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
有機工業化学	平成 2 4 年度	長原 滋・山本智代	5	通年	学修単位 2	必

〔授業のねらい〕

有機工業化学は、基礎産業である有機化学工業に関する基礎的事項を習得する科目である。各種の製造原料および工業製品の性質・機能、製造原料から工業製品に至る化学反応および変換・製造プロセスの基本原理解について学ぶ。

〔授業の内容〕

すべての内容は、学習・教育目標（B）＜専門＞および JABEE 基準 1 (1) の (d) (2) a) に対応する。

前期

- 第 1 週 有機化学工業： 有機化学工業の原料資源、石油代替資源・エネルギー、環境保全
- 第 2 週 石油精製： 石油関連工業、石油の成因と埋蔵量、石油の組成と性状、石油製品、蒸留、接触改質
- 第 3 週 石油精製： 接触分解、熱分解
- 第 4 週 石油精製： その他の転化法、水素化精製法、潤滑油・ロウの製造、環境対策
- 第 5 週 石油化学： 石油化学工業、ナフサの分解による合成基礎原料の製造
- 第 6 週 石油化学： エチレンからの誘導体の製造
- 第 7 週 石油化学： プロピレンからの誘導体の製造
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 石油化学： C_4 以上のオレフィン、パラフィンおよび芳香族炭化水素からの誘導体の製造
- 第 10 週 石油化学： 天然ガス、各種石油系ガスおよび C_1 化学
- 第 11 週 石炭： 石炭の生成・構造・分類、石炭の乾留とコールタール、石炭のガス化および液化
- 第 12 週 医薬： 基本的性格、薬事法、開発および製造プロセス、各種の医薬品、新薬の開発法
- 第 13 週 医薬： 薬物-受容体相互作用、医薬品の物理化学的性質と生物活性、有機化学的手法による創薬
- 第 14 週 農薬： 農薬取締法、用途別・有効成分による分類、有効成分・原体・製剤・剤型、薬剤抵抗性、残効性
- 第 15 週 農薬： 殺虫剤・殺菌剤・除草剤の作用メカニズム、農薬の選択性発現のメカニズム

後期

- 第 1 週 染料： 天然染料と合成染料、染料の条件、染料の化学構造と色、染料-繊維間の相互作用
- 第 2 週 染料： アゾ染料、アントラキノ染料、インジゴ染料、染色性による分類
- 第 3 週 香料・テルペン： 天然香料、合成香料、化粧品香料、食品香料
- 第 4 週 香料・テルペン： 合成香料の使用規制、香料の安全性、香料の分析、においと化学構造、香料の製造
- 第 5 週 油脂： 分類、化学的特性、採油・精製法、油脂の加工、脂肪酸誘導体の製造
- 第 6 週 界面活性剤： 分類・性質、臨界ミセル濃度、HLB、各種の界面活性剤、工業的用途
- 第 7 週 化粧品： 薬事法での定義、品質基本特性、原料素材
- 第 8 週 中間試験
- 第 9 週 高分子： 合成高分子の重合反応・製造プロセス、構造と物性、
- 第 10 週 高分子： 熱可塑性樹脂（五大汎用樹脂、五大汎用エンジニアリングプラスチック）、熱硬化性樹脂、ゴム・エラストマー、三大合成繊維、紙、接着剤
- 第 11 週 高分子： 高性能材料（スーパーエンジニアリングプラスチック、耐熱性高分子、高強度高分子、高吸水性高分子）
- 第 12 週 高分子： 機能性樹脂（プラスチック光ファイバー、導電性高分子、感光性樹脂、高機能分離膜）
- 第 13 週 高分子： 生体関連材料、高分子系複合材料
- 第 14 週 塗料： 塗膜形成成分、添加剤、溶剤、顔料
- 第 15 週 塗料： 各種の塗料、塗料の乾燥、塗装方法

（出典 平成24年度シラバス 抜粋）

資料 5 - 2 - ② - 3 続き

【この授業で習得する「知識・能力」】 前期 1. 石油代替原料資源, 石油代替エネルギー資源, 原油の蒸留で得られる石油留分および石油製品について説明できる. 2. 石油留分の接触改質, 接触・熱分解, その他の転化法および水素化精製法について説明できる. 3. ナフサの分解による合成基礎原料の製造について説明できる. 4. エチレンからの誘導体の製造について説明できる. 5. プロピレンからの誘導体の製造について説明できる. 6. C₄以上のオレフィン, パラフィンおよび誘導体の製造について説明できる. 7. 芳香族炭化水素および誘導体の製造について説明できる. 8. 天然ガス, 各種石油系ガスおよび合成ガスからの誘導体の製造, 石炭の乾留, ガス化および液化反応について説明できる. 9. 医薬品の基本的性格, 薬事法での定義, 医薬品開発・製造のプロセスおよび法規制, 医薬品の代表例, 新薬の開発方法, 薬物-受容体相互作用について説明できる. 10. 農薬取締法および農薬の定義, 農薬の分類および代表例, 有効成分・原体・製剤・剤型, 薬剤抵抗性, 残効性, 農薬の作用メカニズムについて説明できる.	後期 11. 染料の条件, 染料となるための化学構造, 染料-繊維間の相互作用, 代表的な合成染料および染色法について説明できる. 12. 天然香料の種類・製法, 合成香料の種類, 香粧品・食品香料の役割・分類・形態, 香料の法規制・安全性・分析法について説明できる. 13. 油脂の分類・化学的特性, 採油・精製法, 油脂の加工, 脂肪酸誘導体の製造について説明できる. 14. 界面活性剤の分類, 物性および各種界面活性剤の代表例について説明できる. 15. 化粧品の薬事法での定義, 化粧品の持つ品質基本特性, 化粧品の種類, 原料素材について説明できる. 16. 合成高分子の重合反応・製造プロセス, 熱可塑性樹脂, 合成繊維, 熱硬化性樹脂, ゴム・エラストマー, および接着剤の代表例について説明できる. 17. 高性能材料の代表例について説明できる. 18. 機能性樹脂の代表例について説明できる. 19. 生体関連材料および高分子系複合材料の代表例について説明できる. 20. 塗料の成分, 主原料による塗料の分類および代表例, 塗料の乾燥, 塗装方法について説明できる.
【この授業の達成目標】 有機化学工業における各種の製造原料および工業製品の性質・機能, 製造原料から工業製品に至る化学反応および変換・製造プロセスの基本原理解について習得し, 有機化学工業の現状を把握できる.	【達成目標の評価方法と基準】 「知識・能力」1～20の確認を小テスト, 課題レポート, 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験および学年末試験で行う. 「知識・能力」1～20に関する重みは同じである. 合計点の60%の得点で, 目標の達成を確認できるレベルの試験を課す.
【注意事項】 技術者として有機化学工業に関する理解を深めるために必要な専門知識を学んでいることを自覚すること. また, 本教科は有機化学系科目の「有機化学特論」(専攻科), 「高分子化学特論」(専攻科)等の基礎となるため, 授業内容を確実に習得する.	
【あらかじめ要求される基礎知識の範囲】 本教科では第2学年, 第3学年の「有機化学」における学習が基礎となる.	
【自己学習】 授業で保証する学習時間と, 予習・復習(中間試験, 定期試験, 小テストおよび課題レポート作成のための学習も含む)に必要な標準的な学習時間の総計が, 90時間に相当する学習内容である.	
教科書: 「有機工業化学」園田, 亀岡 編(化学同人)および配布プリント 参考書: 高純度化技術大系 第3巻 高純度物質製造プロセス(フジ・テクノシステム)	
【学業成績の評価方法および評価基準】 前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を80%, 小テストおよび課題レポートの結果を20%として, それぞれの期間毎に評価し, これらの平均値を最終評価とする. ただし, 学年末試験を除く3回の試験のうち60点に達していない試験については, 再試験を実施して60点を上限として評価することがある. 【単位修得要件】 学業成績で60点以上を取得すること.	

(出典 平成24年度シラバス 抜粋)

1C 生物応用化学序論前期中間テスト

H23. 6. 14

番号 _____ 氏名 _____ 点 _____

1. 次の数値を () 内に指定された単位で表しなさい。(各 3 点) 「知識・能力 2」

1) 1000g (kg) 2) 1m (cm) 3) 27°C (K) 4) $2.5 \times 10^{-3} \mu\text{m}$ (nm) 5) 1.25g/ml (kg/l)

1) _____ 2) _____ 3) _____ 4) _____ 5) _____ /15

2. 1) 次の陽イオンと陰イオンで出来る化合物の組成式を示しなさい。(各 3 点) 「知識・能力 3」

1) Na^+ と Cl^- 2) Ba^{2+} と O^{2-} 3) Fe^{3+} と Cl^- 4) Al^{3+} と O^{2-} 5) K^+ 2 個と Cr^{6+} 2 個と O^{2-} ? 個で $\text{K}_2\text{Cr}_2\text{O}_7$ の ? を求める。

1) _____ 2) _____ 3) _____ 4) _____ 5) _____ /15

3. 次の原子および分子の電子式を示しなさい。(各 3 点) 「知識・能力 3」

1) H 2) N 3) H_2O 4) CH_4 5) C_2H_2

1) _____ 2) _____ 3) _____ 4) _____ 5) _____ /15

4. 次の各問に答えなさい(各 5 点) 「知識・能力 1, 4」

1) 電子殻の M 殻に収容できる最大の電子数と軌道を答えなさい。(例: 例えば、K 殻は電子数 2 個、1S 軌道)

2) 水銀の密度は 13.6g/cm^3 である。 今、瓶の中の水銀の重さを測定したら(瓶の重さは差し引き済み)、 170.0g であった。この水銀の体積を有効数字 3 ケタで求めなさい。3) 水分子 (H_2O) 1mol の重さは、 18g である。水分子 1 個の重さを有効数字 3 ケタで求めなさい。4) 水 320g に食塩が 18g 溶解している。重量%を有効数字 3 ケタで求めなさい。5) 10N の力が 4.2cm^2 の平面に加わっている。この圧力を有効数字 3 ケタ, Pa 単位で求めなさい。

1) _____ 2) _____

3) _____ 4) _____ 5) _____ /25

資料 5－2－②－5

戻る

進む

リロード

http://www.suzuka-ct.ac.jp/education/index.htm

ページ(P)

セーフティ(S)

ツール(Q)

?

N

寮生活

授業料等免除

奨学制度

卒業生の皆様へ

SHTN

同窓会

各種証明書申請

検索

キーワード

鈴鹿高専サイト

ウェブ全体

検索

powered by Google

シラバス

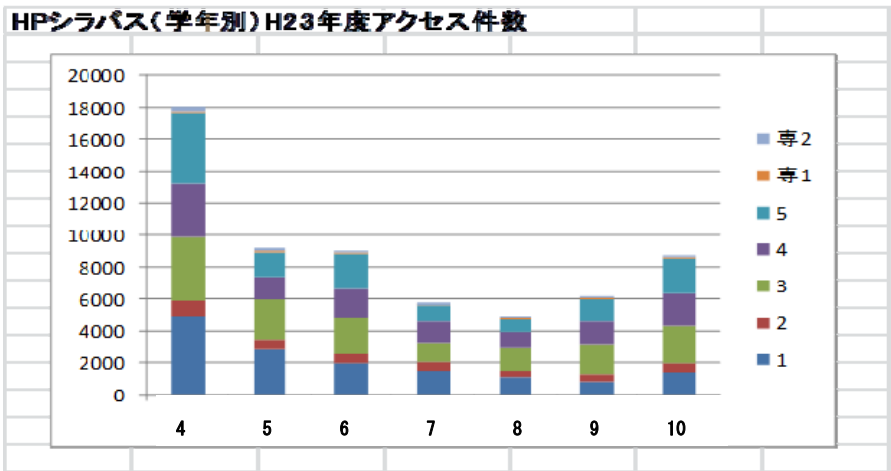
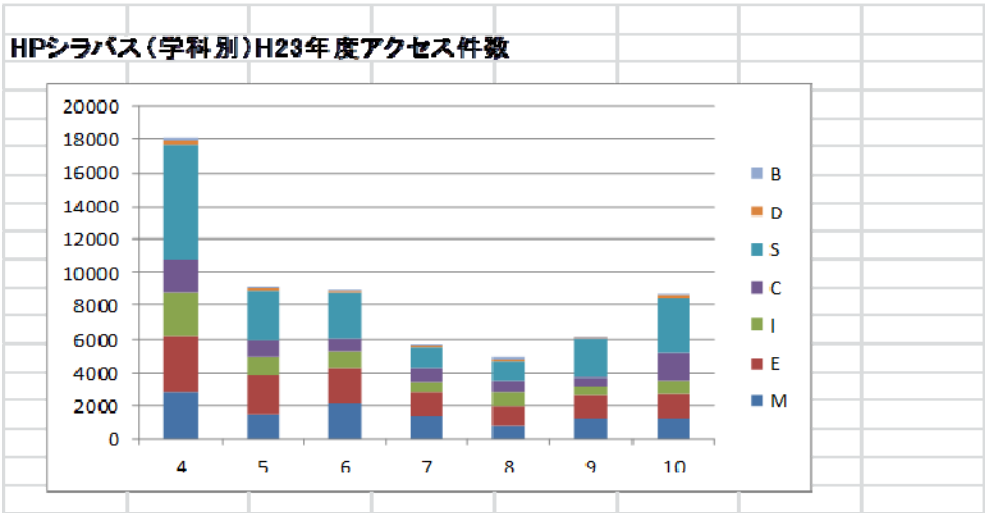
学科

学 科	1年		2年		3年		4年		5年	
	一般	専門	一般	専門	一般	専門	一般	専門	一般	専門
機械工学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電気電子工学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電子情報工学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生物応用化学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
材料工学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

専攻科

専 攻	1年	2年
電子機械工学専攻	○	○
応用物質工学専攻	○	○

過去のシラバス・科目系統図



(出典 本校ウェブサイト, 情報処理センター集計)

資料 5 - 2 - ② - 6

23年度後期授業アンケート

	講義 学科生・専攻科生 全体	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	5 の段 階 平 均 評 価
1	先生は、よく聞こえる言葉で授業を行っていましたか？	6208	3440	1326	433	273	4.3
2	先生は、見やすい板書（またはOHP）で授業を行っていましたか？	4159	3292	2401	1115	712	3.8
3	先生は、学生の理解の程度に留意しながら授業を行っていましたか？	3631	3761	2838	898	544	3.8
4	先生は、教え方などを工夫しわかりやすく授業を行っていましたか？	3621	3731	2878	901	545	3.8
5	授業中は、質問しやすかったですか？	3178	3472	3538	955	536	3.7
6	授業は、興味や関心を持たせるものでしたか？魅力的な授業でしたか？	3078	3861	3193	929	615	3.7
7	授業で出された成績は、シラバスの評価方法および評価基準に沿うものでしたか？	4565	3081	3561	241	188	4.0
8	前期アンケート結果を受けて授業が改善されましたか？（通年科目のみ）	2143	2338	4833	444	487	3.5

		した	ややした	どちらでもない	あまりしなかつた	しなかつた
9	あなたは、シラバスの記載内容（「知識・能力」「参考書・教材」「成績評価方法」など）を参考にして、授業の予習・復習、試験勉強などを行いましたか？	2060	2408	3789	1128	2244
10	あなたは、授業に対し真剣に取り組みましたか？	4697	4234	2091	418	213
11	あなたは、授業によってこの分野の理解が深まりましたか？	3708	4802	2332	425	375

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

(様式)

平成23年度教育・研究活動報告書

学科等・職名	氏名
C科・教授	下野 晃

1. 授業評価について (必須)

過去1年間の授業評価で、(1)①最も点数の高かった項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、(2)①最も点数の低かった項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、(3)①前の評価より最も高い伸びを示した項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、を簡潔に記述してください。

	項目※	点数	授業科目	理由
(1) 最高点	1	4.9	1C生物応用化学序論	大きな声でゆっくりと、また、理解度確かめながら講義をおこなったから
(2) 最低点	2	3.0	3C無機化学	重要な項目のみを重点的に板書し、説明する時間にあて、ノートを書き写すような講義形式をあまりしなかったため
(3) 上昇点	6	4.7	1C生物応用化学序論	以前よりさらに演示実験を増やし、理解度を高めたり、興味を引くように努めたから

※項目は、アンケートの番号を記入。1.言葉、2.板書、3.進行、4.工夫、5.質問、6.魅力、7.成績、8.理解度

2. 学科対象の教育研究指導について (必須)

授業や卒業研究について、年度当初目標としたこと（例：シラバスの実施、授業アンケートの向上、その他）、その達成状況、

来年度の抱負、今後の課題その他の特記事項について簡潔に記述してください。

前期で終了した2C化学及び1C基礎化学実験の担当分はシラバスに記載した内容を全て実施する事ができた。1Cの生物応用化学序論に関しては理解度が低いと見られた項目に時間をかけて解説したため、知識・能力10、11に関する項目について十分に解説することができなかった。通年の科目に関しては、シラバスに記載した進行予定にほぼ沿って進める事ができている。

(出典 H23年度教育・研究活動報告書 抜粋)

資料 5 - 2 - ② - 8

平成23年度 授業実施記録

氏名 下野晃 クラス 1C 科目名 生物応用化学序論

月日	授業の内容
4/8	ガイダンス, 原子, 分子の大きさ, 化学で用いる代表的な単位
4/15	化学で用いる代表的な単位, 物質量, 濃度
5/6	濃度, 原子の構造
5/13	電子配置, イオン, イオン結合, 共有結合
5/20	金属結合, 配位結合, ファンデルワールス力, 水素結合, 固体の溶解度
5/26	固体の溶解度, 気体の溶解度
5/14	中間試験
6/17	試験返しと解説, 気体の性質
6/24	気体の性質
7/8	酸と塩基
7/11	酸と塩基
9/2	酸化と還元
9/9	反応速度, 化学平衡, ルシャトリエの法則
9/16	生物応用化学科で学ぶ専門科目と代表的な科目の解説

(出典 平成23年度授業実施記録 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、授業を受ける学生の学習を支援する立場から、シラバスにその内容を必要にして、具体的かつ詳細に記載している。また、ウェブページでの閲覧回数からも学生はシラバスを利用していることが分かるが、シラバスの記載内容を参考に授業の予習復習及び試験勉強に活用したかについては、今後、学生がもっとシラバスを活用する様にさせる方策を講じる等の改善が必要であると思う。

以上のことから、本校の準学士課程では、教育課程の編成の趣旨に沿って、優れたシラバスを作成し、利用されているが授業の予習復習や試験勉強に活用させるよう今後改善すべき点も有している。

観点 5－2－③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

4 年生前期金曜日 1 ～ 4 時限目に各学科一斉に創造工学の授業を設けており（資料 5－2－③－1），それぞれのチームで外部講師の指導も仰ぎながら（資料 5－2－③－2），一つのテーマに取り組み、その成果の発表を行っている（資料 5－2－③－3～6）。また、創造工学演習（資料 5－1－②－14）、創造プロジェクト（資料 5－2－③－7）においては学生の所属学科に縛られることなく実施する、ソーラーカーレース、プログラミングコンテスト、ロボットコンテスト、エコマイレージチャレンジ（資料 5－2－③－8～11）などへの参加も創造力の増進に効果を上げている。

インターンシップは 4，5 年生で履修することになっているが，就職決定時期の関係から主に 4 年生を対象に実施し，4 年生全体の過半数の学生が履修している（資料 5－1－②－15）。参加学生に配られる「インターンシップのてびき（資料 5－2－③－12，13）には，実施要項，履修規則，心得等が記載されている。インターンシップの受け入れ先状況（資料 5－2－③－14）は HP 及び教室に提示し，学生が最新の情報を得て計画することができる。受け入れ先では，日誌に加え報告書（資料 5－2－③－15）の作成を行う。また，実習期間中，担当教員が巡回を行う（資料 5－2－③－16）。インターンシップが終了すると受け入れ先より評価書（資料 5－2－③－17）が届き，この評価と発表会（資料 5－2－③－18）の評価によりインターンシップ調査書が完成する（資料 5－2－③－19）。多くの学生が高い評価を得ており，また，インターンシップを終えた後，学校では得られない貴重な体験ができたこと，働くことに対する意識の向上があったという声が多々寄せられる。

資料 5 - 2 - ③ - 1

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
創造工学	平成 2 4 年度	井上, 江崎, 宗内, 兼松, 幸後	4	前期	履修単位 2	必

〔授業のねらい〕 教員が提示したテーマあるいは自ら設定したテーマに取り組み、その実現のために解決すべき課題の発見とその解決法のデザインを体験する。この過程を通して、技術者としてのモチベーション（意欲、情熱、チャレンジ精神など）を涵養し、高めるとともに、これまで学んできた学問・技術の応用能力、課題設定力、創造力、継続的・自律的に学習できる能力、プレゼンテーション能力および報告書作成能力を培う。

〔授業の内容〕 下記の 5 つの課題とプロジェクトについて、1 5 週の計画に沿って行う。一部のテーマにおいては、ベテランの企業技術者（エキスパート）の協力により、学生の自主的創作活動にエキスパートのスキルと感性を導入する。 課題： いろいろな金属材料を利用した楽器の製作（井上） レーザー加工を利用した地域伝統産業「伊勢型紙」の応用展開（江崎） 燃料電池の製作と発電試験（宗内） サイエンスフェアー（兼松） 身近な材料で作る太陽電池（幸後） エコカーPJ, ロボコンPJ, プロコンPJ, 学外エキスパートのテーマも選択できる。 第 1 週 課題の説明と選択 学習・教育目標(A)＜技術者倫理＞および(A)＜視野＞, JABEE 基準 1(1) (a) 及び 1(1) (b)	第 2 週 課題別による説明と実験実習計画の作成 学習・教育目標(A)＜技術者倫理＞, (A)＜意欲＞および(B)＜展開＞, JABEE 基準 1(1) (b), 1(1) (c), 1(1) (d) (2) c, 1(1) (e), 1(1) (g) 及び 1(1) (h) 第 3 週 実験実習計画の作成 学習・教育目標(A)＜意欲＞および(B)＜展開＞, JABEE 基準 1(1) (c), 1(1) (d) (2) c, 1(1) (e), 1(1) (g) 及び 1(1) (h) 第 4 ～ 1 3 週 ものづくり, データの解析と整理およびレポートの作成 学習・教育目標(B)＜専門＞及び(B)＜展開＞, JABEE 基準 1(1) (c), 1(1) (d) (1), 1(1) (d) (2) c, 1(1) (e), 1(1) (g) 及び 1(1) (h) 第 1 4 ～ 1 5 週 プレゼンテーション資料の作成と練習 学習・教育目標(B)＜展開＞及び(C)＜発表＞, JABEE 基準 1(1) (c), 1(1) (d) (1), 1(1) (d) (2) c, 1(1) (e), 1(1) (f) 及び 1(1) (h)
--	---

〔この授業で習得する「知識・能力」〕 1. テーマを進める上で準備すべき事柄を認識し、継続的に学習することができる。 2. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し、その解決に向けて自律的に学習することができる。	3. テーマのゴールを意識し計画的に課題を進めることができる。 4. テーマを進める過程で自ら創意・工夫することができる。 5. 中間審査と最終発表において、理解しやすく工夫した発表をすることができ、的確な討論をすることができる。 6. 報告書を論理的に記述することができる。
---	--

〔この授業の達成目標〕 習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し、習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進め、成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論することができる。 〔達成目標の評価方法と基準〕 中間審査(30%), 最終報告書(30%), 最終発表(40%)により評価し、100 点満点で60 点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように、それぞれの報告書および発表の評価レベルを設定する。	中間審査・最終発表・最終報告書は次の点を評価する。 中間審査：展開（テーマを解決すべき具体的な項目を設定する能力・工夫する能力）、専門（意思伝達能力）、意欲（準備・問題対処能力） 最終発表：発表（プレゼンテーション能力）、展開（工夫する能力、計画性）、意欲（問題対処能力） 最終報告書：意欲（準備・問題対処能力、継続的に学習する姿勢）、発表（報告書作成能力）、展開（計画性）
--	---

〔注意事項〕 高温、高熱に注意し、安全第一で実験実習を行う。作業に適した服装で、必要に応じて保護具を着用する。本教科は後に行う卒業研究の基礎となる科目である。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 課題に対して文献を調査できること。本教科は材料工学実験の知識が基礎となる。

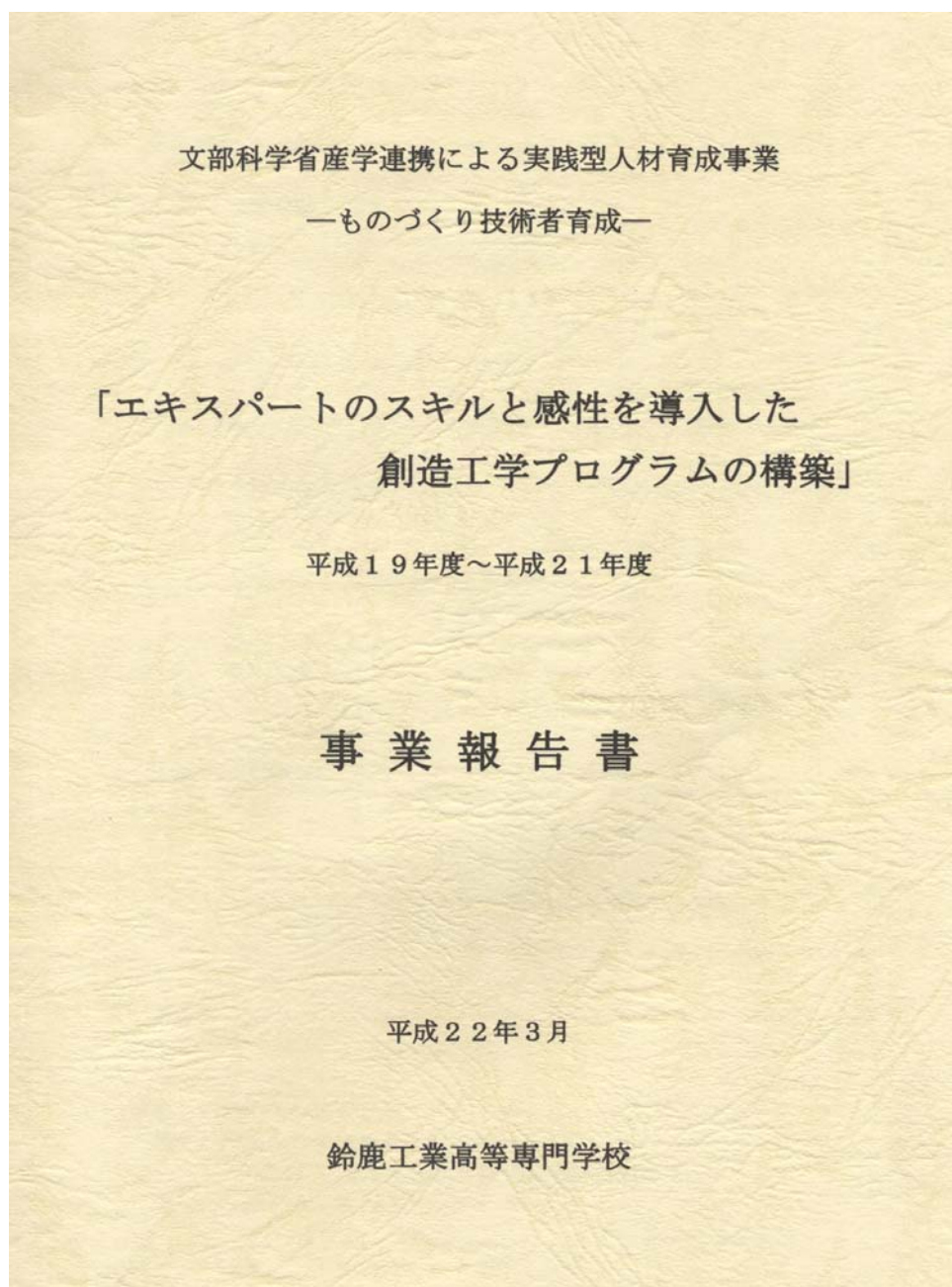
〔レポート等〕 実験実習計画書、プレゼンテーション用資料、レポートおよび作製物の提出

教科書：なし 参考書：図書館等にある課題に関連した書籍

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 創造工学評価表にしたがって、中間審査(30%)、最終報告書(30%)、最終発表(40%)として 100 点満点で評価する。ただし、未提出のレポートおよび作製物がある場合、最終評価を59 点以下とする。

〔単位修得要件〕 学業成績で 60 点以上を習得すること。

(出典 平成23年度4年材料工学科創造工学シラバス)



(出典 エキスパートのスキルと感性を導入した創造工学プログラムの構築事業報告書表紙)

創造工学チーム別最終発表会について

1. 日時 平成 23 年 11 月 17 日 (木) 15:00～
2. 場所 第 3 合併講義室
3. 発表時間 質疑応答も含め、1 チームあたり 10 分程度 (発表 7 分, 質疑 3 分)
次の発表チームは前に待機するなど交代をスムーズに行うこと
4. 発表者 (4 E) 発表者: 各チームの代表者 (複数可)。但し、各チームの全員がテーマ発表会 (4 / 15 (金)) と中間発表会 (9 / 9 (金)) と今回の最終発表会 (11 / 17 (木)) のいずれかで発表ができるように代表者を決定すること。

発表順: テーマ (チーム名)
 1. リニアモーターカー (リニアトーマス)
 2. センサ応用 (かーとれす)
 3. クリーンエネルギーを使った発電 (水力) (水力組)
 4. ラジコンヘリ (ECO ラジ)
 5. エネルギー変換 (CHICHEeeeeeeN)
 6. 電子制御の応用 (電子竜)
 7. プラズマ (サンダーSNOW)
 8. シーケンサを利用したプラネタリウム (LSD)
5. 発表方法 パワーポイントによる発表
尚、発表当日はパワーポイントファイルを保存した USB メモリを持参すること。ファイル名は「リニアトーマス. ppt」のようにチーム名などがわかるものとし、2003 互換モードで保存しておく。持参のノートパソコンによる発表でも可。
発表ファイルは、11 月 16 日 (水) 17:00 までに、鈴木さん、山田さんのところに行って保管しておくこと。自分のパソコンを使用する場合はその旨連絡しておくこと。事前に動作確認をしておくこと。
6. 主な発表内容
 - (1) テーマ, チーム名, メンバー
 - (2) テーマの選定理由, 背景, セールスポイント等
 - (3) テーマの内容と成果
 - ① 何をしたのか (概略図, 構成図, 設計図, 製作物等を用いて, より具体的に)
 - ② 特徴, アイデア, オリジナリティ等
 - (4) 今後課題や来年度実施する 3 E 学生に向けてのアドバイスなど
7. 公聴者 (3 E)
来年の 1 月下旬から 2 月頃までに、来年度の創造工学担当教員から事前アンケートを実施予定。それまでに、創造工学でどんなことをやりたいか、チームなど考えておくこと!
8. その他
 - (1) 発表者は分かりやすいプレゼンテーションになるように努力・工夫すること。
 - (2) 発表中は静粛に、質疑応答は活発に、を心掛けること。
 - (3) 発表者は、学生服またはスーツを着用して発表すること。

以 上

(出典 平成 23 年度 4 年電気電子工学科創造工学最終発表会通知)

H23 創造工学最終発表会

日時・場所：H23.9.9(金)・視聴覚教室 8:50(発表に関する確認事項説明:下野), 8:55から発表,
発表終了後総評(木村様)

発表時間:2分×人数 + 質疑応答3分

発表時間(質疑含まず)終了1分前:鈴1, 終了時間:2鈴, 質疑応答終了時間:3鈴

		発表者				評 価 (点)	
指導教員	テ ー マ	出席番号	氏 名	発表時間	発表時刻	発表15	意欲15
澤田 淀谷 船越	バイオディーゼル燃料を 作ってみようIII			19分	8:55～9:14		
長原	液晶と偏光			9分	9:15～9:24		
下野	金平糖・カルメ焼きの作 製法の検討			9分	9:25～9:34		
小川 生貝 山本	植物からの染料の抽出			17分	9:35～9:52		
内藤	セルロースの糖化			9分	9:52～10:01		
富澤	化学発光の改良	9分	10:02～10: 11				
高倉	実際に食べられる化学 マジックの開発	9分	10:12～10: 21				
10:35まで休憩							
甲斐	納豆の凝集沈殿効果の 検証			9分	10:35～10: 44		
山口	少数細胞からの遺伝子 発現検出法の改良			9分	10:45～10: 54		

(出典 平成23年度4年生物応用化学科最終発表会タイムスケジュール)

4年機械工学科創造工学概要

10月に開催される高専祭の学科展示に向けて、「体感ゲーム機」あるいは「大道芸ロボット」（連続的に動作する仕掛け）を企画・設計・製作する。

チームは3名以上5名以下を原則とする。来場者の満足度を最優先し、対象者の年齢を考慮して娯楽性と安全性も加味した上で企画・設計を行う。

高専祭の二日間の期間中、故障により展示が中断することが無いように耐久性とメンテナンス性を考慮した設計と、スペア部品の製作も必要である。

アイデア発表会，中間発表会，高専祭実演，最終発表会に加えて最終レポートの提出を行う。

2011年度の展示物は以下の通りである。

- 1) リアル野球盤
- 2) 俺の永久機関
- 3) ボールマシン
- 4) 対戦型ピンボール
- 5) 連射型シューティングゲーム
- 6) ゴム銃
- 7) サッカーゲーム
- 8) 鈴鹿鉄道
- 9) F1 in School

(出典 平成23年度機械工学科4年創造工学概要 抜粋)

4年電子情報工学科創造工学評価シート

		コミュニケーション能力(15/100)	意欲(15/100)	課題作品(10/100)
チーム	メンバー	100点満点で評価	100点満点で評価	100点満点で評価
speed available music				
Sound Visualize Coordinator				
Touch de DOYA				
Air2ホッケー				
ぼけっときんぎょ				
電子ミュージシャン				
Image LynX				
空絵～sorapic～				
コミュニケーション能力：プレゼンテーション能力（説明能力，交渉力は評価しないとあるが，デモ審査なので評価した方がいいと思います。），プレゼン能力は中間発表で，報告書作成能力は最終報告書で評価すればよいでしょう。				
意欲：真面目に取り組んだか，目標に達成しているかなどを評価すればよいのではないのでしょうか。				
課題作品：作品自体を評価して，制約条件下で解を見いだす能力，継続的に計画し実施する能力を評価して下さい				

(出典 平成23年度電子情報工学科4年創造工学評価シート)

独創性を養う創造プロジェクト

Project

授業で学んだ専門的知識を応用し実際に「ものづくり」を行うことで独創性を養う取組を進めています。この取組では、高専ロボコン、全国高専プログラミングコンテスト、ソーラーカーレース、低燃費自動車競技会、燃料電池自動車開発、環境にやさしいエネルギーの発生等のプロジェクトにそれぞれ数十人の学生が放課後を中心に活動をしています。本校が目指す「世界で活躍できる実践的で創造的な技術者の育成」には、このような取組が重要で効果的と考え、指導体制を充実させて活動を支援しています



ロボコンプロジェクト

高専ロボコンに出場するロボットを製作し、東海北陸地区大会、さらに全国大会への出場を目指します。

これまでに全国大会へ6回出場し、アイデア賞、アイデア倒れ賞などを受賞しています。アイデアを創造し、ものづくりを通じて、未来のエンジニアの育成活動が、企業からも高く評価されています。



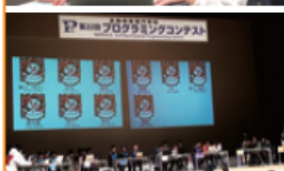
エコカープロジェクト

自動車は生活の中で必ずみなさんが関わる乗り物です。近年はエネルギー問題を解消するため、低燃費や代替エネルギー源で走行する、エコカーの重要性がますます高まっています。本プロジェクトではその仕組みを楽しく学びつつ、鈴鹿サーキット等のレースで好成績をおさめています。



プロコンプロジェクト

世界レベルや全国レベルで催されるプログラミング技術を競うコンテストへの参加・入賞を目指し、コンピュータ関連技術の向上と創造力・実践力を磨く取組として頑張っています。昨年度の情報オリンピック日本代表選考まで勝ち残った学生もいます。現在は60名ものメンバーが活躍しています。



小水力発電プロジェクト

昨年度、「小水力発電アイデアコンテスト」へ出場し、準優勝しました。4月から始まり、夏季合宿、設計・製作を行い、3月にコンテストという1年間の取り組みです。鈴鹿のコンセプトは、必要な時に必要なところへ設置できる「可搬型」の水車です。今年は三重県いなべ市で開催です。



(出典 平成24年度入試リーフレット 抜粋)

2011 年ソーラーカーレース結果

SOLAR CAR RACE

2011

FIA ALTERNATIVE ENERGIES CUP

SOLAR CAR RACE SUZUKA 2011

OLY/DRE/CHA Free Practice(OLYMPIA/DREAM/CHALLENGE)

DATE:2011-08-05 WEATHER : Cloudy COURSE : Dry 5.807km

Pos.	No.	Cls.	Team	Type	1st Driver	2nd Driver	3rd Driver	Time	Delay
1	5	DREAM	1 芦屋大学ソーラーカープロジェクト(A)	Sky Ace TIGA	K.NOMURA	T.MISE	A.NIWA	3'38.667	95.60km/h
2	1	DREAM	2 OSU 大阪産業大学	OSU model S'	A.MIURA	T.SUDO		3'41.460	2.793
3	27	CHALLENGE	1 堺市立堺高等学校 科学部	SCIENCE 711	K.OTA	F.YAMAOKA		4'32.340	53.673
4	21	CHALLENGE	2 Team MAXSPEED	Flat Out	M.FURUKAWA	Y.SHONO		4'34.752	56.085
5	26	CHALLENGE	3 紀北工業高等学校 生産技術部	KIHOKU SOLAR	M.YAMAMOTO	S.NAKAOKA		4'35.281	56.614
6	8	DREAM	3 大森学園高校 自動車部	OGHS Sunrise	K.TAKAHASHI	M.SAITO	K.MOMOSE	4'36.781	58.114
7	2	DREAM	4 アステカ・レーシングチーム	TABRADI-R	K.KOBAYASHI	T.NISHIDA	Y.OZAWA	4'38.257	59.590
8	6	DREAM	5 呉武田学園 呉港高等学校	MUSOUSHIN	N.TAKEDA	M.KUSUMOTO		4'39.389	1'00.722
9	23	CHALLENGE	4 TEAM SUNLAKE	SUNLAKE EVO	F.HIRASAWA	K.TAKAHASHI		4'39.561	1'00.894
10	4	DREAM	6 ポリテクカレッジ滋賀・SPD	SPD-PRO II kai	S.NAKATA	S.SAITO	K.TSUKAMOTO	4'43.241	1'04.574
11	001	OLYMPIA	1 芦屋大学ソーラーカープロジェクト(B)	Sky Ace QUAD	K.TANI	M.KAIURA		4'46.255	1'07.588
12	25	CHALLENGE	5 バンダサンチーム	STINGRAY	A.TOMITAKA	H.IZAWA		4'50.352	1'11.685
13	29	CHALLENGE	6 立命館大学 EV-Racing	R111	H.KITAMURA	Y.SUGII	Y.KUROSE	4'58.140	1'19.473
14	003	OLYMPIA	2 ENEMAX-χ	ENEMAX-KAI	H.TASAI	K.OHOKA	A.ODAWARA	5'06.723	1'28.056
15	3	DREAM	7 JTEKT SOLAR CAR TEAM	Tekton 262s	S.KAWAHARA	K.MATSUMOTO	T.KOJIMA	5'08.872	1'30.205
16	28	CHALLENGE	7 柏会	MUSASHI	T.KIKUMOTO	T.SEKI		5'11.986	1'33.319
17	9	DREAM	8 飛龍高等学校 自動車部	HIRYU Shining	T.MATSUI	Y.ITAGAKI		5'16.326	1'37.659
18	005	OLYMPIA	3 金沢工業大学 夢考房	KIT GoldenEagle	T.TAKEDA	T.SUETSUNE	F.YOSHIMURA	5'18.415	1'39.748
19	004	OLYMPIA	4 ロッキー & SAT'S	Rokey's	Y.YAGI	K.HIRAI		5'25.115	1'46.448
20	7	DREAM	9 大阪工業大学 Team REGALIA	Iris Type-R	Y.MURAKAMI	T.KAWAKUBO	K.ISHIOKA	5'31.623	1'52.956
21	007	OLYMPIA	5 静岡ソーラーカークラブ	ELA	K.SHINOZUKA	K.OSHIMA		5'31.813	1'53.146
22	24	CHALLENGE	8 team 宮工 (宮崎工業高校)	miyakou MT-09	H.ETO	T.KANEMARU	K.SHIGAKI	5'37.779	1'59.112
23	010	OLYMPIA	6 鈴鹿工業高等専門学校	DEVeL-2011	R.NAKAMORI	S.IWASA	M.KADOWAKI	5'47.469	2'08.802

(出典 鈴鹿サーキットウェブページレースリザルト 抜粋)

資料 5 - 2 - ③ - 9

資料 10

全国高等専門学校第22回プログラミングコンテストについて(案)

1. 募集期間 平成23年6月24日(金)～7月1日(金)
2. 予選(書類審査) 平成23年7月30日(土)
3. 予選結果 平成23年8月1日(月)までにプロコンサイトにて公表予定
4. 本選 期 日: 平成23年12月22日(木)～12月23日(金)
会 場: 舞鶴市総合文化会館(京都府舞鶴市浜2021)
主管校: 舞鶴工業高等専門学校

5. 応募作品

課題部門

タ イ ト ル	指 導 教 員	応 募 学 生
Image LynX	青山 俊弘	

課題部門

タ イ ト ル	指 導 教 員	応 募 学 生
ぼけっときんぎょ	田添 文博	

自由部門

タ イ ト ル	指 導 教 員	応 募 学 生
Air2 Hockey	箕浦 弘人	

自由部門

タ イ ト ル	指 導 教 員	応 募 学 生
TOUCH de DOYA!!—ふれる!新感覚ミュージック—	浦尾 彰	

競技部門

タ イ ト ル	指 導 教 員	応 募 学 生
スタンプボンボンボボボボン押～し～	田添 文博	

(出典 教職員会議資料)

資料 5 - 2 - ③ - 10



アイデア対決・高専ロボコン2011 東海北陸地区大会トーナメント表

全国大会出場校

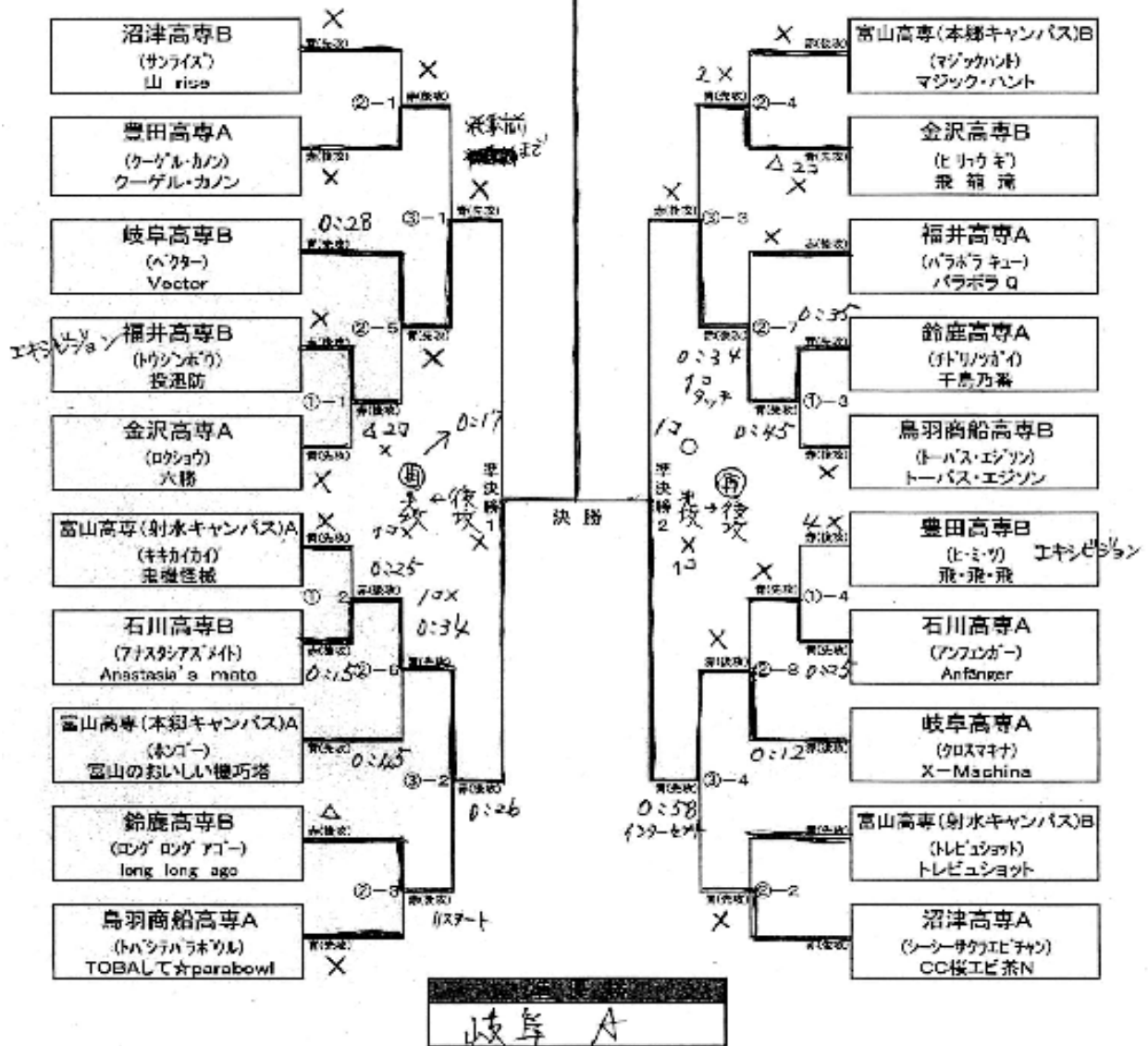
岐阜 A

豊田 B

金沢 B

石川高専 B

+



豊田 B	鈴鹿 A	福井 B	金沢 B
------	------	------	------

本田技研工業株式会社 富山(射水) A	マフテレーター株式会社 鈴鹿 B	株式会社 安川電機 豊田 B	東京エレクトロン FE株式会社 福井 B
------------------------	---------------------	-------------------	-------------------------

(出典 学生課資料)

Honda エコ マイレージ チャレンジ 2011 第25回 鈴鹿大会

開催日: 2011/06/18 走行距離: 10.887 [m] 規定速度: 25 [Km/h]
 密度: 0.739 [15.0°C] 周回数: 5周 競技時間: 26分07秒730

【正式結果 / 市販車クラス】

No. 2

順位	No.	チーム名	燃費	平均速度	周回	初期値	計測値	消費量	ST時刻	GL時刻	走行時間	判定結果
			[Km/l]	[Km/h]		[g]	[g]	[cc]	[hh:mm:ss]	[hh:mm:ss]	[hh:mm:ss]	
1	503	Team Yz Network	C	217.858	27.328	5	280.40	243.47	49.970	12:42:15.766	13:06:09.935	23:54.169 OK
2	502	Little Cubs	EP	199.492	28.373	5	275.86	235.53	54.570	12:41:25.936	13:04:27.297	23:01.361 OK
3	511	中央農業グリーン専門学校・群馬	C	174.409	26.016	5	276.15	230.02	62.420	12:47:03.184	13:12:09.663	25:06.479 OK
4	510	静岡工科自動車学校ERO-II	C	167.580	25.289	5	279.34	231.33	64.970	12:52:22.498	13:18:12.282	25:49.784 OK
5	506	赤カブ先生奮闘中	C	151.916	27.718	5	283.36	230.40	71.660	12:44:56.036	13:08:30.024	23:33.988 OK
6	514	ACTれーしんぐ	C	149.267	26.341	5	278.32	224.42	72.940	12:51:03.264	13:15:51.183	24:47.919 OK
7	508	走れ！二輪車	C	141.223	26.450	5	281.45	224.48	77.090	12:46:16.857	13:10:58.622	24:41.765 OK
8	509	team KAZE	C	134.946	26.603	5	280.39	220.77	80.680	13:04:40.325	13:29:13.596	24:33.271 OK
9	518	鈴鹿高専エコカープロジェクト	EP	121.938	27.028	5	278.82	212.84	89.280	12:48:40.633	13:12:50.719	24:10.086 OK
10	504	ちーむ PALE	C	114.657	27.431	5	280.65	210.48	94.950	12:43:23.794	13:07:12.609	23:48.815 OK
11	505	ちーむ SCARLET	C	103.413	26.725	5	278.68	200.88	105.280	12:43:58.602	13:08:25.147	24:26.545 OK
12	501	TEAM SVE moto	C	95.190	26.276	5	279.54	195.02	114.370	12:40:31.673	13:05:23.280	24:51.607 OK
13	516	benyasse	C	83.089	27.729	5	277.67	180.84	131.030	12:49:23.702	13:12:57.153	23:33.451 OK
14	507	ぶかしこーこ	C	82.841	28.395	5	279.24	182.12	131.420	12:45:30.231	13:08:30.518	23:00.287 OK
15	512	岡山県玉野市立玉野備南高等学校	C	65.389	30.745	5	283.24	160.20	166.500	12:47:59.383	13:09:14.146	21:14.763 OK
16	515	西野がライディング	C ●	60.547	27.866	5	269.87	136.99	179.810	12:54:34.132	13:18:00.621	23:26.489 OK
	513	舞鶴高専OB会	C	72.803	23.005	5	278.50	167.99	149.540	12:59:57.717	13:28:21.381	28:23.664 タイムオーバー
	517	team BACCANO	C ●	0.000	0	0	0.00	0.00	0.000	00.000	00.000	未出走

※ 燃料噴射装置: キャブレター式=(C)、EFI燃料タンク加圧式=(E)、EFI燃料ポンプ加圧式=(EP) / 燃料計測方法: 全重量計測=(●)

(出典 学生課資料)

目 次

1. インターンシップ関係日程・・・・・・・・・・	1
2. インターンシップの流れ・・・・・・・・・・	2
3. インターンシップの履修に関する規則・・・・・・・・	6
4. インターンシップ実施要項・・・・・・・・・・	7
5. インターンシップの心得・・・・・・・・・・	8
6. インターンシップ学生調書（様式1）・・・・・・・・	9
7. インターンシップ誓約書（様式2）・・・・・・・・	10
8. インターンシップ評定書（様式3）・・・・・・・・	11
9. インターンシップ報告書（様式4）・・・・・・・・	12
10. インターンシップにおける傷害保険等について・・・・・・・・	13

インターンシップ学内HP

<http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/jim/gakusei/internship/>
Moodle コース 「インターンシップ」

（出典 平成24年度インターンシップのてびき目次）

インターンシップ関係日程

日程	行事	事 項	備 考
4 月 下 旬 ～ 6 月 末	前期中間試験<学>	引受書・募集要項の教室配布 ・学内HP掲載 希望の申し出 受入定員がある企業 ・大学について人数調整 応募書類（学生調書・誓約書）の提出 受入決定	企業・大学→教務係 →教室・HP→学生 学生→担任→教務係 →担任 ・学生 学生→担任→教務係 →企業・大学 企業・大学→教務係 ・担任 →学生
7 月 上 旬 7 月 中 旬	夏季休業開始<学>	インターンシップ日報」準備 インターンシップ開始<学>	学生は各自売店で購入 (@180 円)
8 月 上 旬 8 月 末	前期末試験<専> 夏季休業開始<専> 夏季休業終了<学>	インターンシップ開始<専> 巡回指導 インターンシップ終了<学>	各学科関係教員
9 月 下 旬 9 月 末	授業再開<学> 前期末試験<学> 夏季休業終了<専>	評定書提出<学> 日報・報告書提出<学> インターンシップ終了<専>	実習先→学生→担任 学生→担任
1 0 月 ～ 年 度 末	後期授業開始	評定書提出<専> 日報・報告書提出<専> 報告会<学><専> インターンシップの成績提出<学><専>	実習先→学生→担任 学生→担任 担任→教務係

<学>学科生 <専>専攻科生

(出典 平成24年度インターンシップのてびきp.1)

平成24年度 インターンシップ一覧

※3日以内に更新があった部分はオレンジ色がついています。

6月14日 10:00 更新

6月14日 10:00 更新									受入定員(○印は指定なし)									
更新日	NO	名称 (受入可能な連絡があった企業には色がついています)	受入可否	募集要項	備考 【定】:定員内なら選考なしで受入可能な企業等 【選】:企業にて選考あり	希望 期限	調整 日	学内 応募 期限	M	E	I	C	S	学科 共通	D	B	専攻 共通	最大 計
6/11	1	㈱アイ・エイチ・アイ マリノユナイテッド	可	◎	【選】様式有	6/18	6/20	6/25	1	1	1				1			1
6/13	2	アイシン精機㈱	可	◎	【選】HPから自分で応募										○	○	○	○
6/11	3	愛知製鋼(株)	可	◎	【定】	6/18	6/20	6/25	1	1					1			1
5/14	4	㈱赤福	可	◎	【定】応募者確定	5/14		5/21				2						2
6/5	5	旭化成㈱	可	◎	【選】様式有(封筒不要)			6/21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6/11	6	旭ダイヤモンド工業㈱三重工場	可	◎	【定】	6/18	6/20	6/25	2	2	2	2	2	2				2
6/11	7	旭電器工業㈱	可	◎	【定】	6/18	6/20	6/25	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	8	㈱アジル・ラボ																
	9	(株)アッソーリ																
6/4	10	㈱ADEKA三重工場	可	◎	【定】応募者確定	6/4		6/11				1						1
4/25	11	㈱アルバック	可		【選】単位は認められない(3日間のため)、詳細後日				?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
5/28	12	アレー㈱	可	◎	【定】応募者確定	5/28	5/30	6/4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
5/31	13	日立アロカメディカル(株)	不可		社名変更(旧:アロカ㈱)				×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6/4	14	(株)イーシーエス	可	◎	【選】	6/11		6/18			2							2
6/6	15	(株)インダ	可	◎	【定】	6/11	6/13	6/18	1	1	1							1
6/11	16	いすゞエンジニアリング㈱	可	◎	【選】期間切れ、様式有(担当教員よりFAXにて応募)	6/4	6/5	6/7	1						1			1
5/14	17	㈱イーテック	可	◎	【定】応募者確定	5/14		5/21				1						1
6/13	18	出光興産㈱愛知精油所	可	◎	【定】男子のみ、様式有(担当教員からFAXにて応募)	6/18	6/20	6/22	2	2	2	2	2	2				2

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ“平成24年度インターンシップ受け入れ企業一覧”抜粋)

様式 4

インターンシップ報告書

No. 1

実 習 生	生物応用化 学科・専攻	氏 名	
実 習 期 間	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 23 年 8 月 5 日 (実働 5 日)		
インターン シ ッ プ 機 関 名	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所		
○会社等概要 野菜茶業研究所は、消費者や生産者、食品産業に携わる人たちのニーズに応え、野菜や茶の高品質な品種の育成、環境にやさしい低コスト安定多収生産・供給技術の開発などを行っている。現在、三重県津市の本所と4つの拠点で連携して研究を行っている。 ○実習日程及び実習項目 1日目：ナスの収穫、ナスの種とり、イチゴの種とり見学 2日目：イチゴの葉のサイズを測り、成長を見る。 野菜茶業研究所の敷地見学。 3日目：イチゴの葉のサイズを測り、成長を見る。イチゴの種とり 4日目：実験室部屋の掃除、培地調製、ナスの種の袋詰め、PCRによるDNAの増幅を見る実験 5日目：実験つづき、移植の見学、ナスの種の袋詰め ○実習報告 「おいしくて、病気に強いトマト、ナスなどを作る」ということを目的とし、交配させて開発したり、遺伝子組み換えをして開発したりしている。 ・今回は、主に交配させて開発しているナスについての作業を行った。 ① おいしいナスと病気に強いナスを交配させる。 ↓ ② ナスを収穫する			

(出典 平成23年インターンシップ報告書 抜粋)

No. 2

○実習報告

③ 種をとる

④ DNA配列を見る。

※ 交配させてできたナスのDNA配列に、おいしいナスにあるDNA配列の一部、病気に強いナスにあるDNA配列の一部があるかどうかを見る。この配列があれば、おいしいという定義は、今のところわからないが。

この一連の流れの②、③の部分を見せてもらった。とれた種のうち、水を入れて浮いてきたものは、中を見てみると、空であり、種としての能力のないものである。種はずに白いものがある。浮いてきたものは流す。そして、種はストッキングに入れ、乾燥させて、種子袋へ入れる。研究者の人はこれを用いてDNA配列を見る。(DNA analyzerを用いる)

・遺伝子組み換えをして開発しているものに関しては、実習することはできないとのこと。見学した。何の植物かもわからなかったが、流れは次のようなものである。

① 葉を切り取る。→ ② 切り取った葉を遺伝子組換えしたアグロバクテリウムと培養する。→ ③ 選択培地(その成長を見えた培地)を使い、細菌からDNAを受け取り、生き残った植物細胞のみを増殖させる。→ ④ カルス(ヒトのようなかたのようなもの)が大きく育つまで、培地を2週間おき程度に新しくする。→ ⑤ カルスが大きくなったら、芽を誘導する培地に移植。→ ⑥ 次に根を誘導する培地へ移植。→ ⑦ 苗に成長し、遺伝子導入植物ができる。

このうち、④の部分を見学した。

・PCRによるDNAの増幅を見る実験に関しては、授業で習っていないことであった。

DNAは2本鎖からなり、この塩基配列を切り離し、それぞれ増幅したい領域にプライマーを結合させ、DNAを合成する。合成したそれぞれのDNAを再び同じように切り離し、それぞれにプライマーを結合させる。これをくり返すと、最初の鋳型の2つのプライマーではさまれた領域と同一配列のDNAがほとんどを占めるようになる。このようにして、例えば病気に強

○感想 い植物にあるDNA配列を増やして、病気に強い植物を開発する。この実験操作を教えてもらい、実際に配列が増幅していることが確認された。

今まで学校で行ってきた実験は化学系であり、いろんな試薬を混合して、結果を見るものが多かった。しかし今回、実際にビニールハウスへ出向き、ナスを収穫して、種をとる。DNA配列を見ることまではできなかったが、作業が普段の生活に身近に感じられた。今回行なわせてもらった作業のことばもちろん、その他さまざまな知識を職場の方々から得ることができた。例えば、いちごのおしべ、めしべがどのような配置になっているか？



めしべがたくさんあり、受粉して果実というバきものは種の部分であることを知った。また、野菜茶業研究所に就職するには、公務員試験を受ける必要があることも知った。

※ インターンシップ終了後、インターンシップ概要報告書をまとめ、学級担任・専攻副主任まで提出すること。

平成23年度 インターンシップ 巡回指導報告書

巡回指導者 C科 下野 晃

実習機関名	住鋁潤滑剤（株）	
実習生氏名		
実習期間	8月 1日～ 8月 12日	巡回日 8月 8日
実習指導 担 当 者	開発センター 開発第1グループ 氏, 氏 開発第2グループ , 氏	
実習内容 テーマ等	4C (担当：開発第1グループ 氏) テーマ名：①フッ素系界面活性剤のグリースへの添加効果 ②オイル・グリースの物性評価 ①は他の研究機関との共同研究の試作評価等の補助 ②は各開発テーマにおける試作評価等の補助 4C (担当：開発第2グループ 氏) テーマ名：ポリアミドイミド樹脂の物性評価 ドライフィルム(乾燥被膜潤滑剤)製品に当該樹脂を使用した場合の試作及び物性評価，各種台上試験機を用いて基礎物性及び塗膜特性を評価。 4S (担当：開発第2グループ 氏) テーマ名：ゴム用ドライフィルムの開発案件における各種物性評価 新規にゴム用ドライフィルムを開発するにあたり，各種物性評価を実施し，従来の製品との性能差を明確にすることを目的に検討を実施。	
所見・その他	それぞれの学生が与えられたテーマに関して，ほぼマンツーマンで担当者から指導していただける状況下で，熱心に取り組んでいた。なお，実習発表では，社外に報告できない項目があるために，一部報告できない場合があると担当者より説明があった。	

(出典 平成23年度インターンシップ巡回指導報告書 抜粋)

様式 3

(実習指導責任者記入)

本書にご記入のうえ、所定の封筒に入れ封印をして実習終了日に学生にお渡し下さい。

インターンシップ 評 定 書

平成 23 年 8 月 5 日

インターンシップ 機 関 名	株式会社 ミルボン ゆめが丘工場						
実 習 指 導 責 任 者	役職名 生産部 総務課 次長 氏 名 						
実 習 生	生物応用化 ^{4年} 学科・専攻	氏 名					
実 習 テーマ	①一般研修… ISO、5S、GMP、毛髪処理について ②工場見学… ゆめが丘工場、青木工場 ③現場実習… 調査、包装、品質管理、技術開発での実習						
実 習 期 間	平成 23 年 7 月 25 日 ~ 平成 23 年 8 月 5 日 (実働 10 日)						
評 定	勤務状況	出席 10 日	欠席 0 日	遅刻 0 日	早退 0 日		
	勤務態度	○		健康状態	○		
	所 見	説明した内容と良く理解し、社内ルールを守り 研修していただきました。 毎日、疑問点は日報に記し、回答を受けていました。 2週間お疲れ様でした。 小慣れない環境(会社)で疲れたと思いますが、この研修で 経験した事と今後の進路選択にお役立ていただければ 幸いです。 今後のご活躍をいよいよお祈りします。					
	技術者をを目指す学生 としての<姿勢>に 関する評価 (*)	視野の広さ	⑤	4	3	2	1
		倫理観	⑤	4	3	2	1
		向上心	⑤	4	3	2	1

(*) 5. 十分である。→→→1. 不足している。の該当する番号に○をつけて下さい。

(出典 平成23年インターンシップ評定書 抜粋)

インターンシップ発表会等について

1. 日時・場所：9/13(火)，13：30位～17：00位まで，場所は，第3合併か第2合併，3Cも聞きます。

2. 発表時間：発表3分，質疑＋交代で2分，発表開始2分で1鈴，3分で2鈴，5分で3鈴・・・司会を決めておいて下さい（順次交代でも可）

3. 発表順：基本的には出席番号順ですが，同じ場所に複数名行ったところは，一番出席番号の若い人の後にまとめて発表 ← 発表内容を話し合っ内容が重複しないようにしてください。

4. 発表内容に関して

あくまでも一例（時間配分も）ですが，

- 1) 会社（インターンシップ先）の概要：規模や何をしている会社（職場）なのか（30秒）
- 2) 自分がやらせてもらったインターンシップの内容（60秒）
- 3) 2) についての結果や考察（40秒）
- 4) 職場の雰囲気などについての感想，学校生活や学校の実験室などとの違い，職場の方々から得られた知識や雰囲気から得られた感想（30秒）
- 5) これからインターンシップを体験しようとする3Cの皆さんへのメッセージ（20秒）

発表のノウハウ

- 1) 発表PPの枚数：3枚～いくら多くても9枚くらいかな。
- 2) 文字や図，写真は大きく見やすく，あまり複雑にしない。
- 3) 話の内容にストーリー性を意識して作る → 理想的には口頭で述べなくてもPPの図を次から次へと指し示してゆくだけで伝えたい事がわかるようなPP原稿にする。そうすれば，わざわざ発表原稿を覚えなくても，自分でそのPP原稿をみながら言葉も出てくると思うし。

注意

- 1) PP原稿は発表前日昼過ぎから当日昼休みくらいまで事務室にパソコンを置いておきますので，デスクトップの23年インターンシップ報告会のファイルに入れておいて下さい。
- 2) 必ず，動作確認をしておいて下さい。
- 3) 発表の内容によってはインターンシップ先から制限もあると思います。事前に発表内容の了承をとっておいて下さい。

（出典 平成23年度インターンシップ発表会注意事項 抜粋）

資料5-2-③-19

平成23年度 インターンシップ調査書

平成 23 年 10月 3日

学科・学年 4C

学級担任(専攻主任・副主任)氏名 下野 晃 印

No	実 習 生		評 価					認定 単位数
	出席番号	氏 名	勤務状況	勤務態度	報告書	発表	総合評価	
			A B C	A B C	A B C	A B C	優 良 可 不 可	
1			A	A	A	A	優	1
2			A	A	A	A	優	1
3			A	A	A	A	優	1
4			A	A	A	A	優	1
5			A	A	A	A	優	1
6			A	A	A	A	優	1
7			A	A	A	A	優	1
8			A	A	A	A	優	1
9			A	A	A	A	優	1
10			A	A	A	A	優	1
11			A	A	A	A	優	1
12			A	A	A	A	優	1
13			A	A	A	A	優	1
14			A	A	A	A	優	1
15			A	A	A	A	優	1
16			A	A	A	A	優	1
17			A	A	A	A	優	1
18			A	A	A	A	優	1
19			A	A	A	A	優	1
20			A	A	A	A	優	1
21			A	A	A	A	優	1

欠勤, 遅刻, 早退のない者 A, 欠勤1/3以上はC

特記事項で判断

提出なしはC

発表なしはC全ての項目がA ... 優, 全ての項目がB ... 可, 評価項目に1つでもCがあれば不可

上記以外 ... 良

(出典 平成23年度インターンシップ調査書 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

創造工学，創造工学演習，創造プロジェクト等，創造性を育む教育方法を行っている。また，ソーラーカーレースやロボコン等に積極的に参加している。また，インターンシップも活発に行っており，支援体制も確立している。

以上のことから，本校の準学士課程では，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用を十分に行っている。

観点 5－3－①： 教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

本校では「学生への支援に関する目標」として、豊かな人間性の涵養を図るため、学生に対して修学上及び生活上の支援を行うことを掲げており（資料 5－3－①－1）、これを達成する取り組みとして、特別活動、学生指導、学校行事、クラブ活動及び学生会活動を行っている。

＜特別活動＞

通年で水曜日の第 5 時限、1～3 年生の教育課程に設置基準である特別活動を設けている（資料 5－1－①－21～23）。ここでは学級担任が学生生活や創造的活動の指導を行うが、特に環境教育に関する内容を実施することを推奨している。担任は、年度末に 1 年間に実施した特別活動の報告書を教務主事に提出する（資料 5－3－①－2，3）。また、環境美化の意識を持たせるための取り組みとして、特別活動の日を利用して月例大掃除やキャンパスクリーンデーを実施しており、クラスから選出した環境美化委員の主導により全学生による校内の清掃を実施している（資料 5－3－①－4，5）。また、特別活動の時間に教員や学外講師による講演会を実施し、対人関係の築き方や性の正しい理解について学生が学ぶ機会を設けている（資料 5－3－①－6～8）。また、技術者倫理教育に関しては、特活や卒業研究の授業時に e-learning 教材を用いて「自己診断テスト」を実施し、学生自身による学習・教育目標の達成度評価によっても自己評価を行っている（資料 5－3－①－9～12）。

＜学生指導＞

3～5 年生では各学級に 1 名の学級担任、1，2 年生では各学級に 1 名の学級担任と学年に 2 名の担任補佐が付き、学級の運営と指導にあたっている（資料 5－3－①－13）。学級担任は「学級担任心得」によりその業務に従事している（資料 5－3－①－14）。各学級では室長及びクラス役員を選定し、学生会委員長指示のもと、学校行事・委員会活動の運営を行っている（資料 5－3－①－15）。また、学生が持ち回りで日直を担当し、担当日の授業・清掃状況や学級内で気づいたことなどを担任に報告するようになっている（資料 5－3－①－16）。これらの取り組みで、学生の協調性・自主性・責任感を涵養できるように配慮している。また、法令順守の意識を育むための取り組みとして、年間を通して全教員が持ち回りで立哨指導を行い、自転車の二人乗り、傘差し運転などをしないよう注意を喚起している（資料 5－3－①－17～19）。

＜学校行事＞

見聞の拡大や良好な人間関係の構築を目的とする学校行事の一環として、1，2 年生に対しては 4 月と 11 月に学外での合宿研修並びに、研修旅行を実施している。4 年生では 12 月に工場見学旅行を実施している。特に 2 年生 11 月の研修旅行先は海外となっており、国際感覚の涵養をも図っている。特に H23 年からは研修先をマレーシアにし、3 年次にマレーシアから多くの留学生を受け入れている関係から円滑にクラスに馴染めるようにしている（資料 5－3－①－20～24）。その他で主要な学校行事として、高専祭実行委員、学科展示責任者等の主導で開催されている高専祭においては、毎年学生がテーマを決定し、それに沿ったイベント、学科展示などが催されるのみならずスポンサーの獲得も学生が行っており、連帯・自律意識の涵養や近隣住民との交流を図っている（資料 5－3－①－25～27）。

＜クラブ活動＞

本校では3年生までは必ず何らかのクラブに登録することとなっており、活動を楽しむとともに、チームワークや克己心の涵養を図っている。文化系・体育系併せて30のクラブと13の同好会が現在活動しており、一人あるいは複数の教員によりひとつのクラブを指導する体制となっている。各クラブの顧問はクラブ活動の実績報告書を提出し、指導時間及び内容を学生課に報告している（資料5－3－①－28～30）。また、主としてクラブの部長を務める教員により構成される課外活動部会を組織し、部活動を行う上での安全管理等を学生に説明している（資料5－3－①－31）。平成23年度東海地区国立高等専門学校体育大会に参加した学生は優秀な成績（資料5－3－①－32）を得て全国大会国立高等専門学校体育大会でも目覚ましい活躍（資料5－3－①－33）をし、この模様を鈴風（資料5－3－①－34）で報告している。

＜学生会活動＞

学生会は、その仕組み（資料5－3－①－35）に従い活動を行っている。平成23年度の学生会の役員（資料5－3－①－36）を示す。高学年の学生が中心となり、活発に活動している（資料5－3－①－37）

資料5－3－①－1

鈴鹿工業高等専門学校の教育目標抜粋

○学生への支援に関する目標

豊かな人間性、健全な心身及び確かな自己実現を図るため、学生の学習活動や課外活動等への参加を促進し、未来を自ら切り拓く力を引き出せるよう修学上及び生活上の支援を行う。

（出典 平成24年度 学生便覧抜粋 表紙より4ページ目）

資料5－3－①－2

日常的な担任活動（特別活動に関する部分を抜粋）

（1） 「特別教育活動（特活）」について

- ア． 特別教育活動の趣旨を確認し、学年間でも適宜話し合う。
- イ． 特別教育活動では、学級担任と学生との相互の働きかけや発意に基づいて相互止揚をめざす。基本的な生活指導とともに、創造的な活動をおおきく視野にいった指導に務める。いわゆる人間関係や心の問題、学生として望ましい生活のあり方などにも触れる。
- ウ． 創造的活動は担任と学生相互の創意による。学級単位の野外研修など、学生と担任の親睦を深めることもよい。
- エ． 前期末及び学年末などのオリエンテーションでは、当該期間について反省・評価を行い、各人の学習・生活態度を振り返らせる。
- オ． 年間数回の席替えを行う。学生の座席配置は学級運営を左右する。
- カ． 学生への伝達事項を周知徹底し、諸届など速やかに提出するよう指導する。

（出典 平成24年度学級担任心得 抜粋）

資料5-3-①-3

平成23年度 鈴鹿工業高等専門学校 特別活動実施の目的			
(1) 本校における特別活動の目的は、学生の豊かな人間性を育成するとともに技術者教育の根幹である「人間の素養」を涵養することにある。 (2) 本特別活動の教育を行うことにより、個々の学生の生活指導をより決め細やかに行い、また課外活動において培われるであろう「生きる力」、言うなれば、教育基本法にいう「人格の完成」を目指した知育・徳育・体育のバランスのとれた学生を育てることにある。最終的には、学生自らが「心身を鍛え、己を確立し、自ら未来をきり拓く力」を涵養することにある。			
平成23年度 特活実施報告書 (前期分)			
第3学年 機械工学科 担任 藤松 孝裕			
	定 例 行 事 抄		実 施 内 容 概 略
4 月	対面式、クラブ紹介等	4/6	諸事項の連絡
	身体測定・写真撮影	4/7	クラス役員の選出と
	内科検診	4/13	球技大会参加種目の決定
		4/20	球技大会
		4/27	諸事項の連絡、月例大掃除の分担と実施（特活終了後）
5 月		5/11	内科検診の結果および相談室の資料配布・説明
			自転車のステッカー確認
	キャンパスクリーンデー	5/18	自転車のステッカー確認、クラス内の緊急連絡網作成
			キャンパスクリーンデー（特活終了後）
	歯科検診（1.3年）	5/25	歯科検診、クラス内の緊急連絡網の配付
6 月	前期中間試験	6/1	埴先生による材料力学の補講
	性教育講演会（2年）		
	Q-U（1.3年）	6/8	埴先生による材料力学の補講、中間試験心得
		6/22	QU試験の実施
		6/29	体育祭の参加種目の決定
7 月	高専体育大会	7/6	高専祭バザーに関するクラス討議
	救急法講習会		
	夏季休業前ガイダンス	7/13	工場見学の実施について説明（行き先希望等）
	夏季休業		
		7/20	夏季休業前ガイダンス
9 月	防災訓練	9/7	諸事項の連絡、防災訓練
	前期末試験		
		9/14	埴先生による材料力学の補講、前期末試験心得

*学級担任の裁量により、前期・後期に環境学習(使用テキストは環境教育プロジェクト推進委員会編「地球環境とエネルギー環境志向型エンジニアを目指して」)を行うこと。

(出典 学生課資料)

資料 5－3－①－4

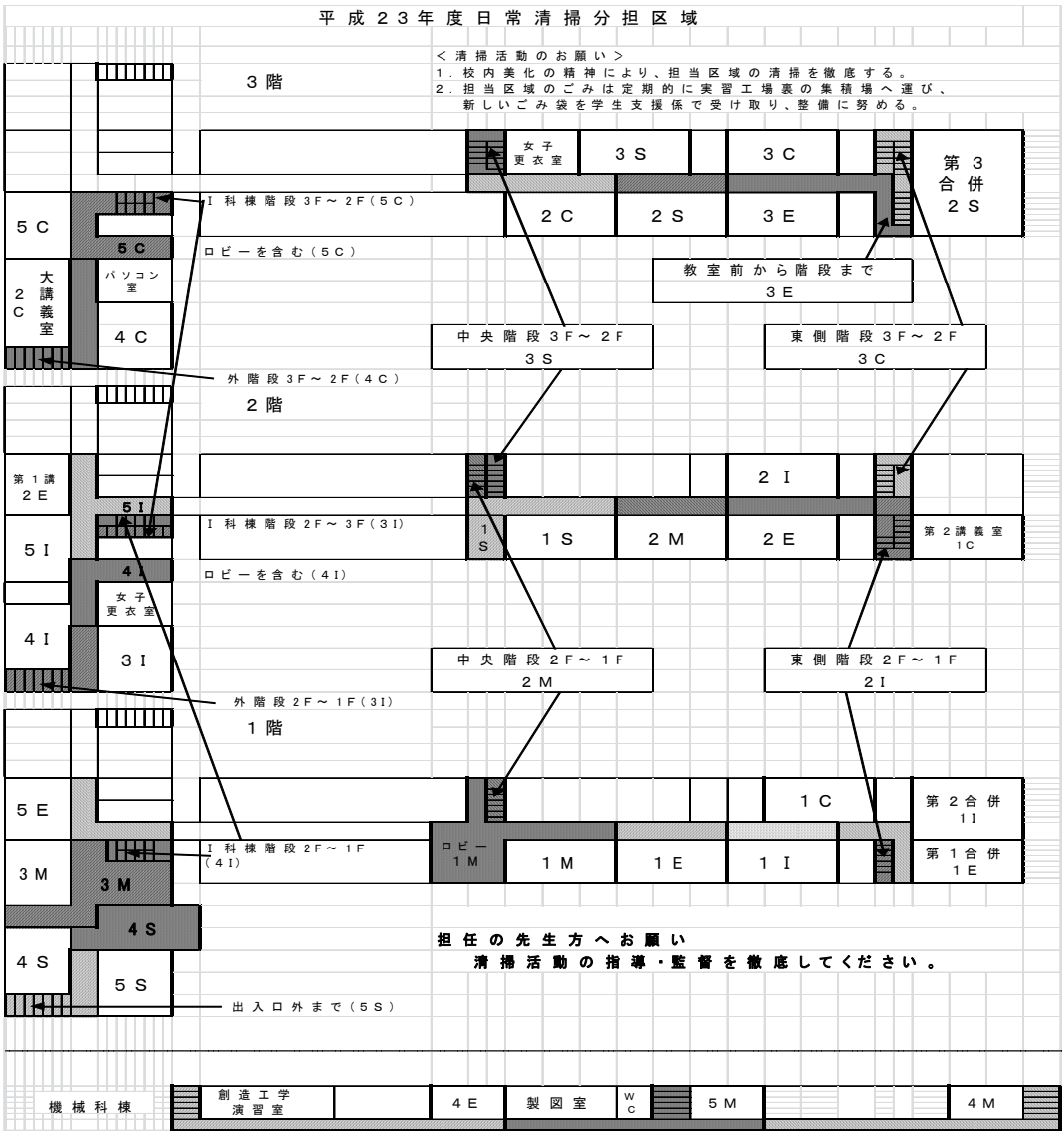
学生委員会基本方針抜粋

5. 環境美化と「節電」・「節水」意識の高揚について

学校生活そのものが共同生活の場であることを認識させるとともに、それに見合う学習環境を整備、保持させる。具体的には、「日常清掃」活動を基本にして、ごみの分別はもちろん、ごみのポイ捨て、落書き、器物破損等の他人への迷惑行為をさせない。近年の課題は、高学年教室の日常清掃の不備が挙げられる。よって、学級担任のみならず教科担当教員が日頃の授業から学生に注意喚起を起こさせるように協力する。

また、地球環境保全を目的とした「節電」・「節水」に対する学生の意識の高揚を促す。将来のエンジニアとしての必要最低限の心構えを諭す。

- (1) 日常掃除分担区域図 (資料別紙)
- (2) 月例掃除分担区域表 (資料別紙)



(出典 学生委員会基本方針 抜粋)

資料 5－3－①－4 続き

		平成 23 年度 月例大掃除特別区域分担表															H23. 4. 5				
学年	学科	1 年					2 年					3 年					5 年				
		M	E	I	C	S	M	E	I	C	S	M	E	I	C	S	M	E	I	C	S
	各専門学科実験室および付属階段											◎	◎	◎	◎	◎					
	各専門学科卒業研究使用実験室等																◎	◎	◎	◎	◎
	学校周辺路上側溝 1 (正門より第二体育館前あたり)	◎																			
	学校周辺路上側溝 2 (正門より東寮門まで)		◎																		
	学校周辺路上側溝 3 (東寮門からアビタ道路突き当たりまで)			◎																	
	第 2 体育館・部室・西門の各々の周辺				◎																
	ゴミ集積場およびその周辺					◎															
	製図室 (機械工学科棟 2 階)	◎																			
	創造工学演習室 (機械工学科棟 2 階)		◎																		
	共同研究推進センター周辺			◎																	
	視聴覚教室				◎																
	語学演習室 (L L 教室)					◎															
	外来駐車場、池の周辺						◎														
	正門・守衛所・二輪置場それぞれの周辺、青空広場							◎													
	一般教室棟周辺								◎												
	第 1 体育館周辺									◎											
	青峰会館・車庫・倉庫各々の周辺										◎										
	機械工学科棟・実習工場各々の周辺、北門周辺・アビタへの砂利道											◎									
	電気電子工学科棟周辺												◎								
	マルチメディア棟・用水路の周辺													◎							
	生物応用化学科棟・電子情報工学科棟周辺														◎						
	材料工学科棟周辺															◎					
		担当学生数は学級担任裁量とする																			

(出典 学生委員会基本方針 抜粋)

平成24年度 第1回キャンパス・クリーンデー実施要項

1 日 時 平成24年5月16日（水）（雨天の場合は5月23日（水））

14:45～16:00（開会式 14:50～15:00 / 閉会式 15:50～16:00）

2. 作業範囲 本校敷地内全域および周辺

3. 実 施 者 全学生・全教職員

4. 実施要領

集合時刻 14 : 45

集合場所 2号館前広場

渡り廊下側から「専攻科」、「5M」…、以下M、E、I、C、Sの順

開会式 14 : 50 開始

1) 挨拶 校長

2) 要領説明 環境美化委員長

3) 諸連絡・諸注意

清掃作業 50分間

閉会式 15 : 50 開始

1) 講 評 学生主事

2) 挨拶 環境美化委員長

3) 諸連絡・諸注意

5. 用 具 校舎内担当区域では教室等に備え付けの用具を使用して下さい。

校舎外の担当区域で使用するホウキ、サライ、金バサミ、スコップ、ビニール袋などは環境美化委員会で準備しておきます。

6. 点 呼 開会式および閉会式前に、各クラス環境美化委員が点呼（環境美化委員に配布の点呼表による）を行います。

7. そ の 他 1) 1～3年生は学校指定のジャージで、それ以外の学生は清掃に適した服装で参加してください。

2) 使用した清掃用具は、元の位置に返却してください。

3) 各クラスの環境美化委員は、当日の学生の点呼・整列、および担任の指示を受け、「清掃区域」の分担、作業方法などをクラスの学生に説明しておいて下さい。分担の際は次の委員会委員対して配慮（クラスの担当区域からはずす）をお願いします。

i) 各クラスの図書文化委員は図書館の清掃にあたります。

ii) 学寮の環境整備委員、総務委員は学寮の清掃にあたります。

（出典 平成24年度教職員会議資料）

資料 5 - 3 - ① - 6

平成 23 年度講演会・講習会実施計画					
名 称	日 時	対 象	講 師	場 所	目 的
安全運転講習会	前 期 4 月 日 (土) 9:00～13:00 後 期 未 定 9:00～13:00	二輪・四輪 通学許可者	中勢自動車学校 職員	中勢自動車学校	交通安全教育の推進を図り、交通社会の一員としての責任を自覚させ、交通安全意識と交通マナーの向上を図り、交通事故を防止するため。
リーダーシップセミナー	5 月 13 日 (金)	各クラブ代表 1～2 名程度	未定	未定	課外活動の振興と質的向上を図るとともに、リーダーとしての自覚を高めるため。
学生支援講演会	5 月 18 日 (水) 13:10～14:10	第 1 学年	未定	第 3 合併講義室	第 1 学年の学生が、本校の学校生活を健やかで且つ有意義に過ごすために、自分と他者との関係や具体的な友人関係について客観的に理解するため。
性を正しく理解するための講演会	6 月 29 日 (水)	第 2 学年	日本助産師会 三重県支部 鈴鹿分会助産師 グループ	第 3 合併講義室	思春期の学生一人一人が、性を正しく理解し健全な男女の人間関係を築き楽しく学校生活を過ごすため。

(出典 学生課資料)

資料 5 - 3 - ① - 7

平成 23 年度学生支援講演会実施要項

目的 第 1 学年の学生が、本校の学生生活を有意義に過ごすために、自分と他者との関係や具体的な友人関係について客観的に理解することを目的とする。

実施日時 平成 23 年 5 月 18 日 (水) 13:00～14:30

実施場所 第 3 合併講義室

対象者 第 1 学年学生

講師 カウンセリングルーム「悠」

本校心理カウンセラー

山本 道子 先生

演題 性格特徴を知り、自己理解を深めるための性格検査

その他、性格検査の結果の取り扱いについては、心理検査を取り扱う倫理基準と同等の扱いとする。

(出典 学生課資料)

資料 5－3－①－8

平成 23 年度性を正しく理解するための講演会実施要項

目 的	思春期の学生一人一人が，性を正しく理解して豊かな男女の人間関係を築き健全な学校生活を過ごすため
実 施 日 時	平成 23 年 6 月 29 日（水）13：00～14：30
実 施 場 所	第 3 合併講義室
対 象 者	第 2 学年学生
講 師	日本助産師会三重県支部 鈴鹿分会助産師 足立裕子氏，一見昌子氏，山中希和氏
演 題	いのちの出前講座 「高専生の性について考える」 守ろう自分の心と体，考えよう愛と性

（出典 学生課資料）

資料 5－3－①－9

学生自身による学習・教育目標の達成度評価 実施要領抜粋

⑧ ＜技術者倫理＞に関する教育は，第 1 学年は「特活」での環境教育，第 2 学年は「倫理・社会」及び「特活」での環境教育とする。第 3 学年は「特活」，第 4 学年の「創造工学」及び「生物応用化学実験（応用実験）」，第 5 学年の「卒業研究」の授業時に e-learning 教材（「事例に学ぶ技術者倫理コース」<http://weblearningplaza.jst.go.jp/>）を用いて各担任が実施して「自己診断テスト」にて評価し，評価結果をエビデンスとして残す。

「事例に学ぶ技術者倫理コース」
コース 1－3(3 年)，4－5(4 年)，7－9(5 年)とする。JABEE エビデンス用として付属問題を実施し記録を残す。

学習目標

企業等の研究開発やものづくりの現場で働く技術者が，技術者倫理とは何かを理解するため，国内外の科学技術に関連した事故・事件を事例として取り上げ，技術者倫理のケーススタディとして学習する。

構成

このコースは以下のレッスンで構成されている。

- 1 組織と技術者－スペースシャトル・チャレンジャー号事故－
2. 注意義務違反－JCO 東海事業所臨界事故－
3. 技術者の能力と倫理－N 鉄工所ソフトウェア持ち出し事件－
4. 技術者による設計不備の公表
5. ビル崩壊の危機回避
6. 環境と技術者－開発と保護との共存－
7. 治水事業におけるデ・レイケの功績
8. 「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故
9. 原子力発電所点検記録の不正な取扱い

（出典 学生課資料）

Webラーニングがわかる

技術者Web学習システム

Webラーニングがわかるを知りたい！

☐ Webラーニングがわかる詳細

☐ 基本マウス

☐ ヘルプ

☐ 操作チュートリアル(初心者向け)

学習履歴を照しなさい！

+1 ログイン

ログアウト

コース

レッスン

用語集

検索

全てをみる

いずれかを含む

教材を選ぶ！

分野・画像から選ぶ

教材マップから選ぶ

教材を探す！

コース

レッスン

用語集

検索

全てをみる

いずれかを含む

教材を選ぶ！

分野・画像から選ぶ

教材マップから選ぶ

事例に学ぶ技術者倫理コース

事例に学ぶ技術者倫理コース

事例に学ぶ技術者倫理コース

事例に学ぶ技術者倫理コース

学習目標
企業等の研究開発やものづくりの現場で働く技術者が、技術者倫理とは何かを理解するため、国内外の科学技術に関連した事故・事件を事例として取り上げ、技術者倫理のケーススタディとして学習する。

前提知識
前提知識は特に要しない。

構成

このコースは以下のレッスンで構成されている。

1. 組織と技術者－スペースシャトル・チャレンジャー号事故－
2. 注染藤染違反－JCO東海事業所臨界事故－
3. 技術者の能力と倫理－N球工所ソフトウェア持ち出し事件－
4. 技術者による虚偽不備の公表
5. ビル崩壊の危険回避
6. 環境と技術者－開発と保護との共存－
7. 治水事業におけるデ・レイクの功績
8. 「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故
9. 原子力発電所点検記録の不正な取扱い

科学技術振興機構

Science and Technology Promotion Agency

All Rights Reserved. Copyright (C) 2002-2011 JST

科学技術振興機構 知識基盤技術部

ご質問・ご意見・ご要望は、tech-edulist@stap.go.jp

03-4214-8466 / 03-4214-8472

(出典 技術者倫理Web学習システムホームページ)

- 294 -

平成 23 年 10 月 14 日

1/2

技術者倫理 e ラーニング自己診断テスト

番号 氏名

4/5

回答は適切な選択肢の丸の部分にチェックを入れてください。

問1. 技術者は、注意義務を負っている。以下に示す項目のうち過失でないものを1つ選びなさい。

- ☐ 設計が短期間のため、すべき検証を省いた。
- ☒ 設計中に欠陥が予見可能であったが、時間が限られていたので見落とした。
- ☒ 設計検証を実施したが、欠陥が発生し事故が起きた。
- ☐ 依頼者が指定する規準で設計した。その規準が設計に合致するか検証しなかった。
- ☐ 設計中に事故発生を回避可能であったが、不注意で回避しなかった。

問2. 技術者倫理にはいくつかの原則がある。次の項目のうちこの原則に当てはまらないものを1つ選びなさい。

- ☐ 公衆優先原則
- ☐ 真実性原則
- ☐ 信頼関係原則
- ☐ 有能性原則
- ☒ 依頼者経済性原則

問3. 設計者として建物等製品で施工の欠陥が発見された場合の処置として適切なものを選びなさい。

- ☒ 倒壊する可能性がある以上、すぐさま危険を公表する。
- ☒ 自分の設計ミスかもしれないので、設計検証を専門家に依頼する。
- ☐ 修理方法を考える。
- ☐ 施工した建設会社の責任であり、建設会社に問題を伝える。
- ☐ 建設会社の責任であり、自分に関係ないので気付かなかったことにする。

(出典 技術者倫理eラーニング自己判断テスト)

学生自身による生物応用化学科（対象学科卒業の専攻科含む）学習・教育目標の達成度評価
実施要項 抜粋

⑨ <技術者倫理>に関する教育は、第1学年は「特活」での環境教育、第2学年は「倫理・社会」および「特活」での環境教育とする。第3学年の「特活」、第4学年の「創造工学」および「生物応用化学実験（応用実験）」、第5学年の「卒業研究」の授業時に e-learning 教材（「事例に学ぶ技術者倫理コース」
<http://weblearningplaza.jst.go.jp/>）を用いて各担任が実施して「自己診断テスト」にて評価し、評価結果をエビデンスとして残す。

「事例に学ぶ技術者倫理コース」

コース 1-3(3年), 4-5(4年), 7-9(5年)とする。JABEE エビデンス用として付属問題を実施し記録を残す。

学習目標

企業等の研究開発やものづくりの現場で働く技術者が、技術者倫理とは何かを理解するため、国内外の科学技術に関連した事故・事件を事例として取り上げ、技術者倫理のケーススタディとして学習する。

構成

このコースは以下のレッスンで構成されている。

1. 組織と技術者 - スペースシャトル・チャレンジャー号事故 -
2. 注意義務違反 - JCO 東海事業所臨界事故 -
3. 技術者の能力と倫理 - N 鉄工所ソフトウェア持ち出し事件 -
4. 技術者による設計不備の公表
5. ビル崩壊の危機回避
6. 環境と技術者 - 開発と保護との共存 -
7. 治水事業におけるデ・レイケの功績
8. 「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故
9. 原子力発電所点検記録の不正な取扱い

（出典 学生自身による生物応用化学科（対象学科卒業の専攻科含む）学習・教育目標の達成度
実施要項 抜粋）

資料 5 - 3 - ① - 13

平成 24 年度校務分担表（抜粋）

学級担任（第 1 学年 M 科）	教養教育科	川 本 正 治
学級担任（第 1 学年 E 科）	教養教育科	堀 江 太 郎
学級担任（第 1 学年 I 科）	教養教育科	林 浩 士
学級担任（第 1 学年 C 科）	教養教育科	松 尾 江津子
学級担任（第 1 学年 S 科）	教養教育科	仲 本 朝 基
学級担任（第 2 学年 M 科）	教養教育科	大 貫 洋 介
学級担任（第 2 学年 E 科）	教養教育科	篠 原 雅 史
学級担任（第 2 学年 I 科）	教養教育科	久留原 昌 宏
学級担任（第 2 学年 C 科）	教養教育科	三 浦 陽 子
学級担任（第 2 学年 S 科）	教養教育科	日 下 隆 司
学級担任（第 3 学年 M 科）	機械工学科	民 秋 実
学級担任（第 3 学年 E 科）	電気電子工学科	辻 琢 人
学級担任（第 3 学年 I 科）	電子情報工学科	青 山 俊 弘
学級担任（第 3 学年 C 科）	生物応用化学科	船 越 邦 夫
学級担任（第 3 学年 S 科）	材料工学科	黒 田 大 介
学級担任（第 4 学年 M 科）	機械工学科	打 田 正 樹
学級担任（第 4 学年 E 科）	電気電子工学科	川 口 雅 司
学級担任（第 4 学年 I 科）	電子情報工学科	箕 浦 弘 人
学級担任（第 4 学年 C 科）	生物応用化学科	小 川 亜希子
学級担任（第 4 学年 S 科）	材料工学科	万 谷 義 和
学級担任（第 5 学年 M 科）	機械工学科	南 部 紘一郎
学級担任（第 5 学年 E 科）	電気電子工学科	奥 野 正 明
学級担任（第 5 学年 I 科）	電子情報工学科	田 添 丈 博
学級担任（第 5 学年 C 科）	生物応用化学科	下 野 晃
学級担任（第 5 学年 S 科）	材料工学科	宗 内 篤 夫
担任補佐（第 1 学年）	教養教育科	細 野 信 幸
担任補佐（第 1 学年）	教養教育科	豊 田 哲
担任補佐（第 2 学年）	教養教育科	伊 藤 清
担任補佐（第 2 学年）	教養教育科	山 崎 賢 二

（出典 総務課資料）

資料 5－3－①－14

平成 24 年度 学級担任心得 目次

実 務 目 次

「豊かな人間性を涵養させるための学級担任心得」まえがき	1
1. 平成 24 年度学生委員会基本方針	2
2. 平成 24 年度生活指導部会基本方針	7
3. 平成 24 年度交通指導部会基本方針	8
4. 平成 24 年度学科学生指導の要点	9
5. 平成 24 年度懲戒基準	12
6. 平成 24 年度学生の懲戒についての申し合わせ	13
7. 平成 24 年度特別活動実施の目的	14
8. 平成 24 年度学級役員の仕事内容	16
9. 平成 24 年度学級役員の選出について	17
10. 平成 24 年度学生会クラブ主将等の選出について	18
11. 平成 24 年度日常清掃分担区域	19
12. 平成 24 年度月例大掃除特別区域分担表	20
13. 平成 24 年度月例大掃除特別区域図	21
14. 平成 24 年度女子更衣室の利用の心得	22
15. 平成 24 年度通学許可学生駐輪場割当図	23
16. 平成 24 年度専攻科学生指導方針	25

(出典 学生課資料)

資料 5 - 3 - ① - 15

学級担任各位

校長補佐(学生主事)

9.平成24年度 学級役員の選出について

(5)学年 (生物応用化学)科 学級担任 氏名 (下野 晃)

●役員を選出し、学生支援係長にメールにて提出して下さい(締切厳守:4月13日、1年生は4月27日)

●記入に関しては、姓名を書いて下さい。

① 室長(全クラス1名) 

② 学生会役員候補(2年以下各クラス1名) _____

③ 評議会議員(評議員)(全クラス1名) 

④ 行事企画委員(1~3年各4名) _____

⑤ 行事企画委員(4年各3名、5年各2名)   _____

⑥ 広報委員(1~5年各クラス2名)  

⑦ 体育委員(全クラス2名)  

⑧ 会計監査委員(3年各クラス 1名) _____

⑨ 環境美化委員(全クラス3名)   

⑩ 交通通学委員(全クラス3名)   

⑪ 自転車管理委員(全クラス2名)  

⑫ アルバム委員(1年各クラス2名、2年以上は前年度登録委員  

⑬ 高専祭学科展示責任者(4年のみ1名) _____

⑭ 高専祭展示責任者(1~3年 1名) _____

⑮ 高専祭実行委員(1年各クラス12名、2年12名、3年5名、4年2名ずつ)

⑯ ボランティア活動委員(全クラス2名)  

⑰ 図書文化委員(全クラス2名)  

⑱ 女子更衣室管理委員(全クラス1名) 

(出典 学生課資料)

資料 5 - 3 - ① - 16

学級日誌フォーマット

検 印	月 日 曜日		天候		日直 氏名	
行事、 諸活動、 伝達、 その他						
授 業 の 記 録	時 限	区 分	科 目	担当教員	内 容	出 欠 状 況
						欠 席 欠 課 遅刻・早退
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
8						
清 掃 状 況						
日 直 所 感					学 級 担 任 所 感	

(出典 学級日誌)

立証指導実施要領

自転車通学安全運転推進運動として、昨年度に引き続き、登下校時の立哨指導のお願いをさせていただきます。

昨年度後半より変更があった点は、指導場所として鈴鹿高専宿舎（官舎）西の信号交差点ではなく、南側角の地点としたところです。「場所」をご確認願います。

指導を行った件数についても、昨年度と同様にチェックシートをご利用いただき、立哨が終わりましたら澤田までお知らせいただければ幸いです。

（目的）自転車通学問題は学生指導の重要課題の一つでありながら、現状の指導体制では必ずしも十分とは言えない。学生に交通ルールを遵守させることで、規範意識の向上を図りひいては社会人を身につけさせたい。そのために、全教職員の協力のもと、全学的に傘差し運転等をさせない「安全走行推進運動」を実施する。これらは、高専生の地域貢献（地域の住民から信頼される学生の育成）という立場から、「交通安全教育」は高専教育の大切な柱と認識する。

各班は、担当期間内に 2 回程度立哨指導する。

各班とも、全教員で実施する。（ただし、通学時の指導では 1 コマ目に授業のある教員は授業に間に合うよう早めに戻ってください。また、通学時、帰宅時ともに出張等により都合のつかない教員は除きます。）

時間 通学時（8:30～9:00）、帰宅時（16:00～17:00）

指導内容

傘差し運転、横列走行、携帯オーディオプレーヤー等の聞きながら運転、二人乗り、サンダル履き等の指導

日 付	月	日	曜日	教員名	場 所	
指導内容						合計件数
傘差し運転						
二人乗り運転						
携帯オーディオプレーヤー等を聞きながら運転						
携帯電話を使用しながら運転						
その他（ ）						

（出典 学生課資料）

資料 5 - 3 - ① - 18

立哨指導スケジュール表 (5月・生物応用化学科分)

C 科分担当表

	5月23日		5月24日		5月25日		5月26日		5月27日	
	月		火		水		木		金	
	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕
内藤			①	①					③	③
生貝			②	②					①	①
澤田					①	①	②	②		
長原			③	③					②	②
下野					②	②			③	③
山本	②	②			③	③				
高倉	③	③					①	①		
山口					②	②	③	③		
淀谷	②	②					③	③		
小川	③	③	②	②						
甲斐	①	①	③	③						
船越(邦)					③	③	②	②		
富澤									②	②

- ①福富大国大使館アパート交差点(T字) 1名
 ②旭が丘幼稚園交差点 2名
 ③官舎南側角 2名
 5名

時間 通学時(8:30~9:00), 帰宅時(16:00~17:00)

(出典 学生課資料)

鈴鹿高専における自転車安全運転指導の一例

○柴垣寛治・下古谷博司*・西岡将美**

(鈴鹿高専電気電子工学科・同材料工学科*・同教養教育科**)

1. はじめに

近年、自転車運転に関する規則（携帯電話や携帯オーディオプレーヤー（ヘッドホン）等の使用禁止、傘差し運転の禁止など）が強化され、自転車運転に対する社会的関心が高まってきた。特に、三重県では傘差し運転禁止については厳しくなっている。また、自転車運転中の事故の損害賠償額が 5000 万円以上の高額となった判例もあり、自転車安全教育の重要性が増してきた。他高専でも自転車関係の論文を高専教育に報告している^{1,2)}。

そこで、鈴鹿高専では平成 22 年度後期から教員による自転車立哨指導を追加し、学生に対する自転車安全教育を強化した。本学会では本校における自転車安全教育について紹介する。

2. 自転車安全教育

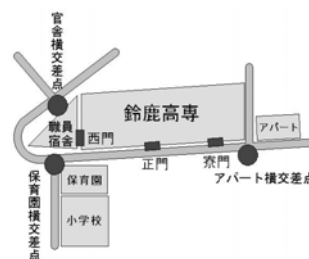
指導組織：本校では、自転車に関する事項は生活指導部会と交通指導部会が連携して指導している。

自転車通学生：自転車通学を希望する学生は、「自転車調書」を提出し、ステッカーを受領後、自転車後部の泥よけ部に貼付している。また、通学生と寮生とを区別するために寮生には白いシールも貼付している。一方、通学時の自転車安全教育は、4 月当初の学生全体オリエンテーション時に学生主事が、また、クラス別オリエンテーション時に各担任教員が実施している。さらに、4 月当初は学生主事補による近隣道路での実地安全教育も行っている。

放置自転車への対応：学内にある卒業生等による放置自転車は、学生会の通学交通委員会が定期的に回収している。また、近鉄白子駅に隣接する駐輪場に放置されている卒業生等の自転車は年度末に学生主事補が回収している。

自転車立哨指導：立哨指導は、教養教育科 2 班と専門学科 5 班の計 7 班に分類し、2 週間程度を 1 期

間とし各班で順番に立哨指導している。期間中は、午前 8 時 30 分から半時間程度、指導場所で立哨指導を実施した。その際、違反学生には注意をする程度にとどめ、まず教員側が自転車安全教育に力を入れてきたという指導姿勢を示すこととした。前半の立哨指導場所は、西門、正門、寮門の 3 カ所で、後半は学内から一步踏み出し職員宿舍横、保育園横、アパート横各交差点の 3 カ所で実施した（図 1）。



前半：西門、正門、寮門
後半：職員宿舍横、保育園横、アパート横各交差点

図 1 自転車立哨指導場所

3. 自転車安全教育の現状

本校ではこれまで担任教員による自転車点検や通学交通委員による学内放置自転車の回収などを実施してきた。また、平成 22 年 1 月からは自転車盗難被害減少モデル校に鈴鹿警察署から選定されたことを契機に、自転車盗難被害に対する規範意識の醸成や鍵掛け・ツーロックの徹底などに努めている（図 2）。



図 2 鍵掛けを促す看板の設置

資料 5 - 3 - ① - 19 続き

さらに、平成 22 年度後期からは、立哨指導も導入した。立哨指導の結果、自転車通学の実情が見えてきた。そこで、まず本校の自転車通学事情について紹介する。本校は、通学生が 6 割強を占めており、そのほとんどが自転車通学であることから、600 名以上の学生が毎日自転車で通学していることになる。また、自転車通学生の 7 割強が西門から、2 割程度が正門から、1 割弱が寮門から入校している（図 1 参照）。そのため、立哨指導では西門付近が重要ポイントとなっていた。

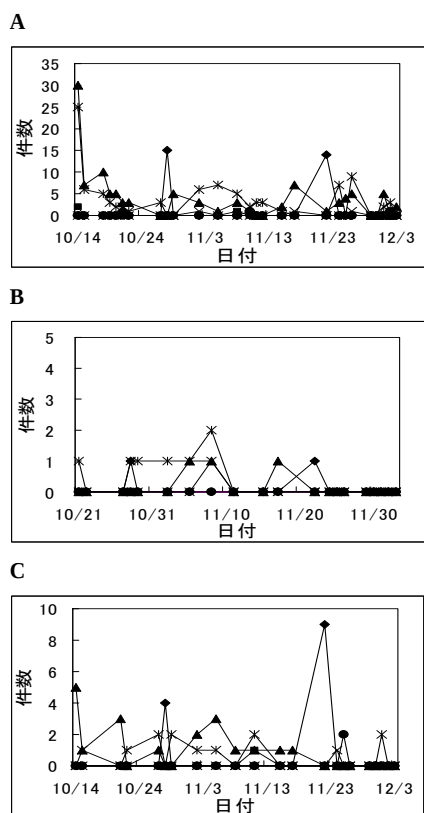


図 3 立哨指導結果 A:西門, B:正門, C:寮門
◆:傘差し運転, ■:二人乗り, ▲:携帯オーディオプレーヤー, ×:携帯電話, *:ステッカーなし, ●:その他

実際の立哨指導を行った結果を図 3 に示す。主な違反行為は携帯オーディオプレーヤーの聞きながら運転とステッカーなしの自転車運転であった。立哨指導初日には、携帯オーディオプレーヤーを聞きながら通学してくる学生が西門で 30 名、寮門で 5 名ほどいた（図 3）。また、ステッカーを貼付せずに登校

してくる学生が西門で 25 名ほど見られた。これらの違反行為はその後減少したが無くなることはなかった。一方、雨の日の傘差し運転については、立哨指導期間中に降雨日が 3 日しかなかったものの、西門で 30 件、寮門で 13 件、正門で 2 件程度指導した。傘差し運転は前方不注意かつ不安定な運転となり非常に危険であるが、雨合羽の着用を嫌う学生が多いのが現状である。その理由を学生に尋ねると、本校には雨合羽を脱ぐ場所と保管場所が無い点を挙げており、屋根付き自転車置き場の整備を早急に行う必要があると感じた。

最後に、立哨指導の結果新たな問題点が見えてきた。それは、携帯オーディオプレーヤーの聞きながら運転や傘差し運転などの違反行為を繰り返す学生は、学校付近まで違反行為で自転車を運転し、立哨指導の教員を見るやいなやヘッドフォンを外したり傘を閉じたりして注意・指導から逃れようとするものであった。その対応策も課題の一つとなった。

4. まとめ

学生の多くは自転車運転の違反行為に対して軽視する傾向にあり、自転車安全教育に対する啓蒙が必要であると考えている。また、三重県で厳しい傘差し運転違反をなくすためには雨合羽を脱ぎ保管できる屋根付き自転車置き場の整備が重要となる。

本校では四輪無許可通学指導³⁾も重要な指導課題であるが、自転車安全教育も同様に重要な課題と言えよう。今後も立哨指導を継続・改善し自転車安全教育のモデル校的存在に展開できれば幸いである。

参考文献

- 1) 宮崎耕輔, 三國千秋, 三國成子:「自転車交通安全テスト結果からみた自転車交通安全教育のあり方に関する一考察」, 高専教育, 第 33 号, pp.691-696(2010)
- 2) 笹健児, 松島勇雄, 松木雅文, 平井剛和:「校門指導・交通指導の導入による学生指導の取り組みについて」, 高専教育, 第 28 号, pp625-630 (2005)
- 3) 下古谷博司, 川口雅司, 西岡将美:「鈴鹿高専における四輪無許可通学への対応とその評価」, 高専教育, 第 33 号, pp.649-654(2010)

(出典 日本高専学会第17回年会講演論文集p. 97-98)

H24年度行事予定（抜粋）

4月			
日	曜	学 科	専攻科
1	日	春季休業(5日まで)	春季休業(5日まで)
2	月		
3	火		
4	水		
5	木	新入生入寮式及びオリエンテーション 第2～5学年入寮オリエンテーション 新入寮生歓迎夕食会	
6	金	入学式、写真撮影<1年>	入学式、写真撮影<1年>
7	土		
8	日		
9	月	対面式・教員紹介・オリエンテーション<全> クラブ紹介	オリエンテーション<全>
10	火	身体測定、心電図、写真撮影<2～5年> 学力テスト<1年>、尿検査	身体測定、写真撮影<2年>
11	水	前期授業開始 内科検診(3～5年)	前期授業開始 内科検診(全)
12	木	前期寮役員辞令交付式 及び校長と寮役員との懇談会	
13	金		
14	土		
15	日		
16	月		
17	火		
18	水	第1回TOEIC IP試験、歯科検診<1年> 月例大掃除	第1回TOEIC IP試験
19	木		
20	金		
21	土		
22	日	新入生合宿研修(若狭湾:24日まで)	
23	月		
24	火		
25	水	1年生臨時休業、学外研修<2年> 球技大会<3～5年>	
26	木		
27	金	クラブ・同好会登録期限<1年>	
28	土	開校記念日	開校記念日
29	日	昭和の日	昭和の日
30	月	振替休日	振替休日
31			

11月			
日	曜	学 科	専攻科
1	木		
2	金		
3	土	文化の日 創立50周年記念式典(鈴鹿市民会館)	文化の日 創立50周年記念式典(鈴鹿市民会館)
4	日	東海地区高専体育大会(ラグビー) (鳥羽商船)	
5	月	第2学年研修旅行(9日まで)	
6	火	第1学年学外研修	
7	水	月例大掃除<1・3～5年>	
8	木		
9	金	後期 校長と学生会役員との懇談会 寮役員・指導班長合同合宿研修会(10日まで)	

(出典 H24年度学生便覧p. 1-6 抜粋)

平成 24 年度 新入生合宿研修実施要項

1. 目 的 新入生が、入学後早期に、自然体験を伴う合宿形式の集団活動と交流活動を体験し、また本校の教育理念・教育目標の理解と効果的な学習方法の修得等を目的とした研修を受けることにより、早期に学校生活に慣れ、より良い学習姿勢・習慣を身につけるとともに、良好な学生相互間並びに学生－教員間の関係の構築と学生個々の人格形成に資する。
2. 日 時 平成 24 年 4 月 22 日（日）～ 24 日（火）
3. 場 所 国立若狭湾青少年自然の家
(福井県小浜市田島区大浜 tel. 0770-54-3100)
4. 参加者 第 1 学年約 220 名（予定）
5. 引率者 教務主事、学生主事、第 1 学年主任、学級担任、担任補佐 10 名
6. 日 程 別紙のとおり
7. 使用車 借上げバス 5 台、公用車 1 台
8. 経 費 新入生合宿研修費、学生教育支援経費等

別紙（抜粋）

○ 4 月 23 日（月）

時間	事 項	備 考
6:30	起床、清掃	(雨天時) 近隣施設見学及び施設内での活動
7:00	朝の集い	
7:30	朝食	
9:20	野外活動（カッター訓練他）	
12:00	昼食	
13:30	野外活動（カッター訓練他）	
17:30	夕食、入浴	
19:00	全体研修、レクリエーション	
～21:30		
22:00	消灯、就寝	

(出典 教職員会議資料抜粋)

学外研修

若狭研修

4月20日 9:00 学校出発 14:00 少年自然の家到着 14:30 全体研修(2時間)
17:15 夕食、入浴 19:30 クラス別対談 22:00 消灯就寝
4月21日 6:30 起床 7:00 朝の集い、7:30 朝食
9:20 野外活動(カッター訓練、リングゴルフなど)
13:30 野外活動(カッター訓練など) 19:00 全体研修、レクリエーション
22:00 消灯就寝
4月22日 6:30 起床 7:00 朝の集い 7:30 朝食 9:30 宿舍点検
10:00 終わりの集い 10:30 自然の家出発 11:50 昼食
13:00 彦根城見学(1時間) 17:00 高専帰着

新たな出会い、新しい船出

1年電子情報工学科 担任 三浦 陽子

今年度の新入生213名と引率教員10名は4月20日(水)～22日(金)、国立若狭湾青少年自然の家で2泊3日の合宿研修を行いました。入学直後のこの時期に若狭湾の豊かな自然の中で寝食を共にすることで、学生たちは5年間を共に過ごす仲間たちとのきずなを深め、鈴鹿高専生としての自覚を高めることができたと思います。昨年度本校に赴任した私にとっても初めての合宿研修でしたが、けじめを保ちつつも積極的に楽しむ鈴鹿高専生のよさを存分に感じる事ができました。

この合宿研修の一番の行事は、なんといっても2日目のカッター訓練です。24人乗りという大きなカッターをうまく漕げるのだろうかと不安を抱いたのは私だけではないでしょう。実際、櫂は重く、漕ぐのはなかなか難しかったのですが、指導して下さる曹長さんの掛け声に合わせて体全体で櫂を漕ぐと、徐々になめらかに進むようになりました。皆で声を合わせ、息を合わせる事が大切ようです。漕いでいるときは余裕もなく、周りを見ることができませんでしたが、沖で休憩がてら眺めた風景はとても美しく、いつの間にかこんなに遠くまで来ていたのかと驚きもしました。

2日目夜の学年レクリエーションも大変盛り上がりしました。最初は学科ごとにかたまっていたのが、様々なゲームをする中で交流が始まり、徐々に学年



全体の一体感が生まれてきました。また、クラス役員決めなどのシーンでも、積極的に話し合いを行うなど協力して活動する様子が見られました。何事にも一生懸命取り組み、皆で明るく盛り上がる様子から、この学年の今後への期待が大きく膨らみました。

必要最低限のものしかない、多少不便な2泊3日の生活の中で、学生たちは大きく成長したように思います。まだまだ固さのあったクラスメイトとの関係もほぐれ、リラックスして学生生活を送る基盤を手に入れることができたのではないのでしょうか。これから始まる5年間の日々の生活がさらに充実していくことを願っています。

(出典 平成23年度第128号鈴風 p.32)

資料 5 - 3 - ① - 23

平成23年度 第2学年研修旅行実施要項

- 1 目 的 研修旅行を通じ、その国の特色ある体験を学習して見聞を広め、国際感覚を涵養し、また学生間及び教員との親睦を図る。
- 2 期 日 平成23年11月9日（水）～11月12日（土） 3泊4日
- 3 目 的 地 マレーシア
- 4 参 加 学 生 第2学年 208名
(M42, E42, I43, C40, S41)
- 5 引 率 者 8名

総括(校長補佐)	井上寮務主事
学年主任	出口教員
学級担任 (M)	森教員
(E)	山崎教員
(I)	丹波教員
(C)	川本教員
(S)	安富教員
担任補佐	松尾教員
- 6 行 程 別紙のとおり
- 7 経 費 学生旅行等積立金（一人当たり約113,000円）
寄附金（教育奨励）等
- 8 そ の 他
 - ① 服装等身だしなみは、学生として品位のある服装とする。
 - ② 外部委託による看護師を随行させる。

(出典 学生課資料)

平成 23 年度 2 年生研修旅行報告

マレーシア研修

はじめてのマレーシア研修旅行

はじめてのマレーシア研修旅行で目指したこと
第 2 学年主任 教授 出口 芳孝

ブトラジャヤのひとときわ暗い湖に、ライトアップされたピンクモスクのミナレットを、車窓に見送るバスの中、安堵感が溢れてきたのを、はや横かしく思い出しています。

延坪島砲撃事件を機に研修旅行先が韓国からマレーシアに変更されたのが 1 月、現地を下見できたのが 8 月でした。それ以来安全確保という消極的理由に終わらず、この変更を積極的に利用していく方法を考えてきました。

異文化理解の側面からは、韓国に比べるとマレーシアは地誌的にも文化的にも違いは分かり易いものの、「理解」にまで深めることは逆に難問となります。辛くて味の薄い現地料理を、日本人の基準で「まずい」と切り捨てずに、現地基準を受け入れて「それなりに」味わってみるのが理解の始まりでしょう。

街中のヒジャブとブルカ姿から多民族多宗教を感じるのには簡単ですが、回教寺院やヒンズー寺院では信徒達の祈る姿やお互いの信仰を尊重する姿から、異教の神聖な行事であるクリスマスを祝う我々の方が異常なことを悟りました。古来アジアの東西を結ぶ「海の道」の要衝で宗教に加えて商人労働者も流入した結果として、ロイヤルセランゴール工場を見学し、植民地時代の名残を独立広場周辺や農村体験の油ヤシ農園に、街を走る日本車や日韓競作のツインタワーに現在の経済交流を、新首都予定地のスーパー IT 都市ブトラジャヤではその美しさと共に未来の情報交易立国への意欲を感じてきました。

現地 50 時間の強行日程に、農村滞在に 4 時間、都心の自主研修に 8 時間と思いついたメリハリもつけましたが、海外旅行では安全管理意識を育てることも重要で、旅券を預かるのを止めました。現地の日常に触れる意味もあり、ホテル前の雑貨店への夜間外出を許し、自主研修を夜まで延長するなど、不安ながらも敢えて挑戦してみました。

事前指導では旅行の実施方法とか注意事項の伝達で精一杯で、研修意図を徹底する時間を取れないまま、



ピンクモスク

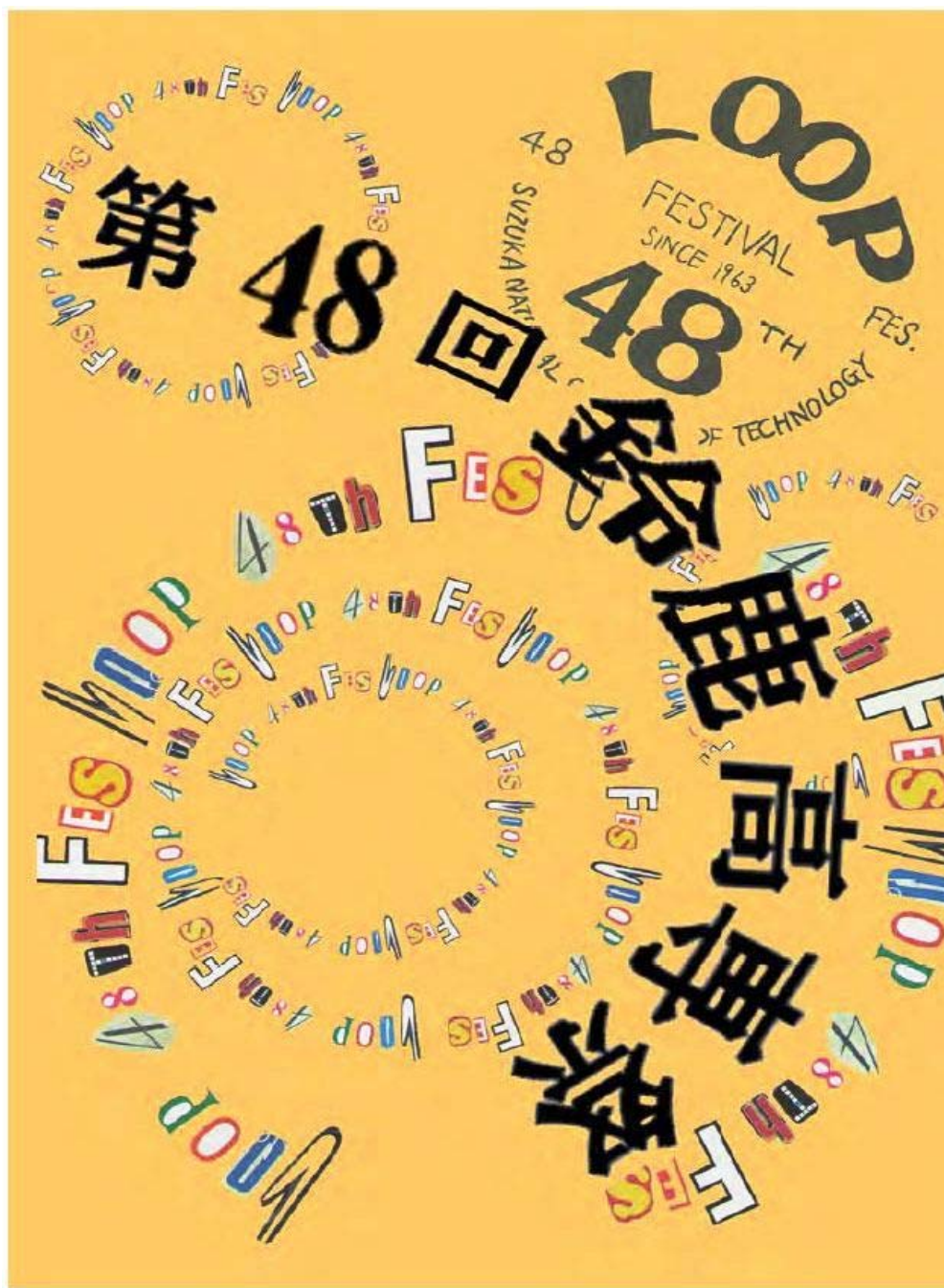
結果的に韓国研修ほどには満足してもらえなかったようで残念なのですが、今後については色々な可能性が見えてきて、その意味では大変良い研修でした。

日 程

- 11 月 9 日 (水)
 - 06:00 学校発
 - 09:00 関西国際空港着
 - 11:00 出国
 - 17:05 クアラルンプール国際空港着
 - 19:10 夕食
 - 20:10 Petronas Twin Tower 周辺より夜景鑑賞
 - 21:00 ホテル着
- 11 月 10 日 (木)
 - 06:30 朝食
 - 08:30 クアラルンプール市内観光
 - 11:00 班別自由行動 (現地学生ガイド付き)
 - 19:00 夕食
 - 20:30 ホテル着
- 11 月 11 日 (金)
 - 06:30 朝食
 - 08:30 ホテル発 (貸切バス)
 - 09:00 Royal Selangor Pewter 工場見学
バトゥ洞窟寺院見学
(2 グループに分けて見学)
 - 12:50 バンプリス村着 歓迎式

(出典 平成23年度第129号鈴風p. 10)

平成23年度 高専祭テーマ「LOOP」



(出典 平成 23 年度高専祭パンフレット表紙)

平成23年度 高専祭実行委員長・副委員長挨拶

挨拶

高専祭実行委員長
材料工学科5年 小林 直貴



L∞Pというテーマには「輪」と「繰り返す」という意味が込められています。
 「輪」 鈴鹿高専在校生、先生方、その他の高専祭に関わっていただいたみなさん全員が一つの輪になるような気持ちで支え合いながら高専祭を良いものにしたいと願いを込めました。
 「繰り返す」 今まで行われてきた高専祭で良いところや悪いところがありました。温故知新という言葉がありますがまさにその心を忘れず、悪い風に繰り返すのではなく、良い風に高専祭を今後ずっと繰り返していけたらという意味をこめてL00Pの000の部分に∞にしました。

学生会会長
電子情報工学科4年 里本 まい



「秋、といえば高専祭!!」というくらい大きな行事が今年もやってきましたね。バザーも学科展示もステージイベントも、全部自分たちの手によるものだからこそ、魅力的な行事なのだと思います。
 ほんととはこんな挨拶より、私たちみんなで造り上げた高専祭を肌で感じて楽しんでほしい、というのが本音だったりします。文字になったものよりも、今見てもらっているもののほうが大事ですね。みんなが今日を楽しむため、たくさん準備をしてきました。だから難しい言葉は必要ないと思うんです。

今日がここにいる全員にとって忘れられないものになりますように。

資料 5 - 3 - ① - 27

平成 23 年度 高専祭 スポンサー (一部抜粋)

東山動物病院

電話(059)
388-4688

〒510-0234
鈴鹿市江島本町22-1



診療時間		月	火	水	木	金	土	日	祝日
午前	9:30~12:00	○	○	×	○	○	○	×	×
午後	4:00~7:00	○	○	×	○	○	○	○	×

＜＜緊急企画＞＞

よくぞこの欄を見つけてくれたな、そんな諸君に任務を与えよう！

- ・ **任務内容**
高専祭本部副委員長を見つけ出せ！
- ・ **詳細**
本年度の副委員長である濱田ひろ君を見つけ出し、うまく質問に答えることができたならご褒美を差し上げよう。
ただし質問は難しいので愛と勇気とノリを駆使しろ！
- ・ **ターゲットの特徴**
本部パーカーを着ているかも。ボーカルかも。ミスコンの司会かも。
以上！がんばれ少年少女達！(*_*)



当店では良質で安心して食べられる食材を提供し、食の楽しみを、皆様にもっと、知って頂き、くつろいで頂ける店作りに、心懸けております。

tel 〇五九一三六八
〇五九一三五五

(鈴鹿市江島本町)
四日市本店
鈴鹿江島店

この企画をお持ちいただいたお客様に

ワンドリンクサービス！
+
10% OFF

△ 5名様までとさせていただきます。

スポンサー

環境に優しい
何度も使える18リットル缶
ドラム缶のリユースを推進する更生事業

佐藤空罐株式会社

三重郡川越町高松144

TEL 059 - 364 - 3388

ご予約・お問い合わせはフリーダイヤルで
0120 - 172353

林 克己ビューティーサロン

鈴鹿市旭が丘4丁目6-30

(出典 平成 23 年度高専祭パンフレット p. 30)

平成24年度 部活動・同好会一覧

3. クラブ活動

本校には、次のような文化系クラブと体育系クラブがあります。学生生活を豊かにする絶好の機会ですから自分に合ったクラブで積極的に活動しましょう。1～3年生は毎年必ずどこかのクラブに登録しなければならないことになっています。4・5年生は自由登録です。

登録方法は、担任から配布される「クラブ登録用紙」に登録したいクラブ名を記入し、そのクラブの部長の先生の許可を得た後、担任に提出します。1年生は4月末まで、2年生以上は前学年の2月中旬までが登録期限になっています。

年度途中でクラブを変更する場合は、学生支援係で自分のクラブ登録用紙を受け取り、やめるクラブの部長の先生に了解してもらいます。そして、新しく入るクラブの部長の先生の許可を得た後、担任に報告し、学生支援係にクラブ登録用紙を提出します。

<文化系クラブ>

- ・自動車部
- ・音楽部
- ・E S S
- ・写真部
- ・美術部
- ・文芸部
- ・無線部
- ・コンピュータ部
- ・ロボ研
- ・囲碁将棋部
- ・茶道部
- ・ソーラーカー研究会

<体育系クラブ>

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技部 ・バドミントン部 ・硬式野球部 ・ソフトテニス部 ・テニス部 ・バスケットボール部 ・ワンダーフォーゲル部 ・柔道部 ・剣道部 ・バレーボール部 ・弓道部 ・卓球部 ・空手道部 ・ハンドボール部 ・サッカー部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー部 ・水泳部 ・女子バレーボール部 |
|---|--|

4. 同好会活動

本校には、次のような同好会があります。同好会は同じ趣味を持った仲間が集まって活動する団体で、全学年自由登録です。

登録方法はクラブ登録と同じです。「クラブ登録用紙」右側の「第2登録」を使います。

同好会を立ち上げるには、顧問になってもらえる先生の了解をもらい、「学生団体結成願」に必要事項を記入し、学生主事に提出します。なお、活動内容がほとんど同じであるクラブや同好会が存在する等の場合には、結成が許可されないことがあります。また、一定数の学生が3年以上続けて活動している場合には、クラブに昇格できることになっています。この場合、以下の書類が必要です。

- 1) 同好会会員名簿
- 2) 同好会顧問の推薦書
- 3) 実績報告書（活動状況および経費の概要を書いたもの）

ただし、登録者がいないなど活動実態がないと認められた場合には廃止されることがあります。

<同好会一覧>

- ・華道同好会
- ・鉄道愛好会
- ・ピアノ同好会
- ・カード同好会
- ・大東流合気武術同好会
- ・アコースティックギター同好会
- ・ソーラン同好会
- ・ソフトボール同好会
- ・合唱同好会
- ・科学同好会
- ・放送同好会
- ・自転車同好会
- ・動画制作同好会

(出典 平成24年度学生便覧 p. 49-50)

資料5-3-①-29

平成24年度 クラブ部長・クラブ部長補佐・指導教員分担					
(学生会文化部門)					
音楽クラブ	クラブ部長	伊藤 明	(学生会体育部門)		
音楽クラブ	クラブ部長補佐	佐脇 豊	弓道部	クラブ部長	西岡 将美
音楽クラブ	クラブ部長補佐	森 育子	弓道部	クラブ部長補佐	末次 正寛
E S S	クラブ部長	マイケル ローソン	弓道部	クラブ部長補佐	南部 紘一郎
E S S	クラブ部長補佐	井上 哲雄	卓球部	クラブ部長	中井 洋生
写真クラブ	クラブ部長	小林 達正	卓球部	クラブ部長補佐	井瀬 潔
写真クラブ	クラブ部長補佐	花井 孝明	卓球部	クラブ部長補佐	生貝 初
美術クラブ	クラブ部長	下古谷 博司	空手部	クラブ部長	伊藤 清
文芸クラブ	クラブ部長	久留原 昌宏	空手部	クラブ部長補佐	小倉 正昭
無線クラブ	クラブ部長	井上 哲雄	空手部	クラブ部長補佐	田村 陽次郎
囲碁将棋	クラブ部長	堀江 太郎	ハンドボール部	クラブ部長	山崎 賢二
囲碁将棋	クラブ部長補佐	豊田 哲	ハンドボール部	クラブ部長補佐	兼松 秀行
茶道クラブ	クラブ部長	桑原 裕史	ハンドボール部	クラブ部長補佐	山本 智代
			ハンドボール部	クラブ部長補佐	鬼頭 みずき
(学生会体育部門)			サッカー部	クラブ部長	民秋 実
陸上競技部	クラブ部長	船越 一彦	サッカー部	クラブ部長補佐	渥美 清隆
陸上競技部	クラブ部長補佐	近藤 一之	サッカー部	クラブ部長補佐	篠原 雅史
陸上競技部	クラブ部長補佐	三浦 陽子	ラグビー部	クラブ部長	奥田 一雄
バドミントン部	クラブ部長	長原 滋	ラグビー部	クラブ部長補佐	北村 登
バドミントン部	クラブ部長補佐	奥野 正明	ラグビー部	クラブ部長補佐	船越 邦夫
バドミントン部	クラブ部長補佐	丹波 之宏	水泳部	クラブ部長	森 誠護
硬式野球部	クラブ部長	藤松 孝裕	水泳部	クラブ部長補佐	下野 晃
硬式野球部	クラブ部長補佐	和田 憲幸	水泳部	クラブ部長補佐	小川 亜希子
硬式野球部	クラブ部長補佐	平井 信充	女子バレーボール部	クラブ部長	林 浩士
ソフトテニス部	クラブ部長	大貫 洋介	女子バレーボール部	クラブ部長補佐	松尾 江津子
ソフトテニス部	クラブ部長補佐	山口 雅裕			
ソフトテニス部	クラブ部長補佐	甲斐 穂高	(同好会)		
テニス部	クラブ部長	柴垣 寛治	華道	指導教員	近藤 一之
テニス部	クラブ部長補佐	出口 芳孝	ピアノ	指導教員	白木原 香織
テニス部	クラブ部長補佐	西村 一寛	カード	指導教員	久留原 昌宏
バスケットボール	クラブ部長	川本 正治	アコースティックギター	指導教員	花井 孝明
バスケットボール	クラブ部長補佐	日下 隆司	ソラン	指導教員	南部 紘一郎
バスケットボール	クラブ部長補佐	山田 伊智子	ソフトボール	指導教員	山本 智代
W・V部	クラブ部長	黒田 大介	合唱	指導教員	篠原 雅史
W・V部	クラブ部長補佐	奥 貞二	自転車同好会	指導教員	打田 正樹
W・V部	クラブ部長補佐	柴田 勝久	動画同好会	指導教員	丹波 之宏
柔道部	クラブ部長	仲本 朝基	科学同好会	指導教員	山崎 賢二
柔道部	クラブ部長補佐	高倉 克人	放送同好会	指導教員	青山 俊弘
柔道部	クラブ部長補佐	豊田 哲	スキー同好会	指導教員	森 誠護
剣道部	クラブ部長	細野 信幸			
剣道部	クラブ部長補佐	川口 雅司			
剣道部	クラブ部長補佐	南部 智憲			
バレーボール部	クラブ部長	淀谷 真也			
バレーボール部	クラブ部長補佐	澤田 善秋			
バレーボール部	クラブ部長補佐	林 浩士			

*自動車部, コンピューター部, ロボ研, ソーラーカー研究会は創造プロジェクトに区分

*大東流合気武術同好会は24年度活動実績無し

(出典 平成24年度学生便覧p. 195)

資料 5 - 3 - ① - 30

クラブ活動指導実績報告書

平成23年度学生会クラブコーチ指導実績報告書

平成23年9月16日

鈴鹿工業高等専門学校長 殿

クラブ名 : バスケットボール

クラブ部長名 : 川本 正治



下記のとおり指導を受けましたので報告します。

記

コーチ名 : 河内 隆昭

月	日	曜日	指導時間	時数	指導内容
5月	7日	土	13 : 00 ~ 17 : 00	4.0	練習における技術指導
5月	8日	日	9 : 00 ~ 17 : 00	7.0	試合における技術指導
5月	15日	日	9 : 00 ~ 17 : 00	7.0	試合における技術指導
5月	22日	日	9 : 00 ~ 13 : 00	4.0	試合における技術指導
7月	10日	日	9 : 00 ~ 13 : 00	4.0	練習における技術指導
8月	7日	日	9 : 00 ~ 13 : 00	4.0	練習における技術指導
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
月	日		: ~ :		
合 計				30.0	

※ 指導時間が昼をはさむ場合は、12～13時の1時間を除いた時数を記入してください。

(出典 学生課資料)

クラブ活動時における安全マニュアルについて

クラブ名	陸上競技部
部 員 数	1 年 1 1 名 (内訳 男子 : 1 1 名、女子 : 0 名) 2 年 1 2 名 (内訳 男子 : 1 0 名、女子 : 2 名) 3 年 9 名 (内訳 男子 : 8 名、女子 : 1 名) 4 年 1 1 名 (内訳 男子 : 9 名、女子 : 2 名) 5 年 6 名 (内訳 男子 : 6 名、女子 : 0 名) 専攻科 1 年 1 名 (内訳 男子 : 1 名、女子 : 名) 専攻科 2 年 名 (内訳 男子 : 名、女子 : 名) 合 計 5 0 名 (内訳 男子 : 4 5 名、女子 : 5 名)
顧 問 (教職員名)	船越 一彦 近藤 一之
過去に起きた事故事例	・ 用具等による物理的な事故は特になし ・ 陸上競技におけるスポーツ障害として、ハムストリングの肉離れ、アキレス腱周囲炎、腸脛靭帯炎、捻挫、腰痛等がある。
今後予想される事故	・ 投擲競技の投てき物による事故が一番危険である ・ サッカー部が蹴ったボールがコース場に飛び出してきたときそのボールをよけようとして怪我が起こる可能性がある ・ 夏場の脱水症状
発生事故に対する対策と予想される事故に対する今後の対策	・ 投てきに関しては市営競技場を主に使い、学内ではラグビー部が練習していないときに投げさせているので現在までに事故は起こっていない ・ 防球ネットの増加ではみ出てくるボールを減少させる ・ 老朽化してきたところの修繕をお願いしたい ・ 夏場は積極的に水分補給をさせている。また、調子の悪そうな学生が早めに練習を切り上げさせているので、今まで大きな事故につながったことはない
事故発生時の処置及び処理方法	・ 事故が発生した際は地元の病院に搬送する ・ 携帯電話の番号を部員全員に知らせてあるので、会議等でその場にいらなくても即座に対応できるようにしている ・ 怪我については日頃からいろいろと知識をつけさせているので簡単な対処法なら部員自身がわかっている

記入欄は、必要に応じ調整して下さい。部員数については、記入日現在でお願いします。

(出典 学生課資料)

資料 5 - 3 - ① - 32

第 49 回 東海地区国立高等専門学校体育大会 総合成績表

種 目 / 順 位				備 考		2 位		3 位		
陸 上 競 技				鈴鹿高専		岐阜高専		豊田高専		
テ ニ ス	男 子	団 体	個人	D	鈴鹿高専	岐阜高専		沼津高専		
					S	上瀬・関(鈴)	福田・梅原(沼)			
	女 子	団 体	個人	D	鈴鹿高専	岐阜高専				
					S	山本・山川(鈴)	大曾根・伊藤(豊)			
バドミントン	男 子	団 体	個人	D	鈴鹿高専	岐阜高専		鈴鹿高専		
					S	岩田・宮川(岐)	青山・起(鈴)			
						岩田(岐)	野村(岐)			
							大西(鈴)			
	女 子	団 体	個人	D	沼津高専	岐阜高専		鈴鹿高専		
					S	佐野・米山(沼)	篠田・白石(岐)			
						米山(沼)	西園(鈴)			
							永島川・篠田(岐)			
							井出・平野(豊)			
							平野(豊)			
ソ フ ト テ ニ ス	男 子	団 体	個人	岐阜高専	鈴鹿高専	豊田高専		小林・村田(鈴)		
	女 子	団 体	個人	鳥羽商船	岐阜高専	豊田高専		生田・山下(鳥)		
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル				男 子	鈴鹿高専 ※1	岐阜高専	沼津高専		鈴鹿高専	
空 手 道	団 体	個人	総合	鈴鹿高専	岐阜高専	豊田高専		沼津高専		
				鈴鹿高専	岐阜高専	沼津高専				
				鈴鹿高専	沼津高専	豊田高専				
				山口(鈴)	伊藤(鈴)	山口(鈴)				
サ ッ カ ー				男 子	豊田高専	沼津高専	鈴鹿高専		鈴鹿高専	
柔 道	男 子	団 体	個人	全 国	岐阜高専	鳥羽商船	鈴鹿高専		鈴鹿高専	
					岐阜高専	鈴鹿高専	鈴鹿高専			
					井尾(岐)	西脇(岐)	猪飼(沼)			
					川路(岐)	北村(岐)	横田(岐)			
					水谷(岐)	石川(岐)	市川(鳥)			
					後藤(岐)	森(岐)	後藤(岐)			
					大前(岐)	中村(鳥)	大前(岐)			
					中村(鳥)	中村(鳥)	中村(鳥)			
弓 道	女 子	団 体	個人	豊田高専	沼津高専	鈴鹿高専		鈴鹿高専		
	女 子	団 体	個人	渡邊(鈴)	寛(沼)	深谷(豊)		深谷(豊)		
硬 式 テ ニ ス				男 子	岐阜高専	鈴鹿高専	岐阜高専		岐阜高専	
剣 道	男 子	団 体	個人	全 国	鈴鹿高専	鳥羽商船	岐阜高専		岐阜高専	
					鈴鹿高専	岐阜高専	沼津高専			
					田中(鈴)	伊藤(鈴)	松谷(鈴)			
					鈴鹿高専	豊田高専	松谷(鈴)			
ハ ン ド ボ ー ル	女 子	団 体	個人	田中(鈴)	伊藤(鈴)	小林(鈴)		小林(鈴)		
	女 子	団 体	個人	田中(鈴)	伊藤(鈴)	小林(鈴)		小林(鈴)		
バ レ ー ボ ー ル				男 子	豊田高専	鈴鹿高専	岐阜高専		岐阜高専	
水 泳	女 子	団 体	個人	全 国	豊田高専	鳥羽商船	岐阜高専		岐阜高専	
					鈴鹿高専	鈴鹿高専	岐阜高専			
					鈴鹿高専	沼津高専	豊田高専			
					鈴鹿高専	沼津高専	岐阜高専			
卓 球	男 子	団 体	個人	D	豊田高専	岐阜高専	鳥羽商船		鳥羽商船	
					S	岩崎・酒井(豊)	本多・桑田(豊)			
						近藤(豊)	本多(豊)			
						豊田高専	岐阜高専			
						小田・大敷(豊)	川野・伊藤(鈴)			
						小田(豊)	中村(鳥)			
ラ グ ビ ー フ ッ ト ボ ー ル				男 子	豊田高専	鈴鹿高専	岐阜高専		岐阜高専	

※ 1 代表決定戦(7/18女子がカテゴリー)にて決定

二重丸は全国大会出場
(別紙個人競技者名を参照)

寄体協賛日外(全国大会無し)

(出典 学生課資料)

第 4 6 回全国高等専門学校体育大会 成績表

陸上競技			水泳競技		
平成23年8月27日(土)・28日(日)			平成23年8月28日(日)		
長野市営陸上競技場			千葉県国際総合水泳場		
種目	成績	出場者	種目	成績	出場者
男子総合	準優勝		総合	準優勝	
男子100m	3位	清水開吏(4S)	男子100m自由形	予選	大北裕夢(2M)
男子200m	準優勝	湯田功稀(5S)	男子200m自由形	5位	飯田佑樹(1E)
男子400m	準優勝	湯田功稀(5S)	男子400m自由形	予選	種村恭佑(1E)
男子1500m	優勝	加藤佑樹(3I)		予選	石川由祐(1E)
男子5000m	4位	加藤佑樹(3I)	男子100m背泳ぎ	5位	森寺晃平(2S)
男子5000m	予選	黒田和良(5E)	男子200m背泳ぎ	6位	森寺晃平(2S)
男子110mH	予選	森岡享平(3C)	男子100m平泳ぎ	予選	草薙輝(4M)
男子走高跳	準優勝	衛藤将(2E)	男子200m平泳ぎ	予選	草薙輝(4M)
男子走幅跳	優勝	大津渉(5M)	男子100mバタフライ	準優勝	若林駿介(1C)
男子三段跳	優勝	大津渉(5M)		5位	飯田佑樹(1E)
	5位	菅大彰(3M)	男子200m個人メドレーリレー	予選	種村恭佑(1E)
男子円盤投	予選	杉田篤(2M)			
男子 4×100mR	優勝	奥野浩佑(5S)、清水開吏(4S)、湯田功稀(5S)、岡山元志郎(5E)	男子400mリレー	優勝	大北裕夢(2M)、加島 匠(4S)、飯田佑樹(1E)、埜口雄史(2S)、種村恭佑(1E)、若林駿介(1C)
女子100m	4位	増田智香(4S)			
女子走幅跳	4位	杉本雅子(3M)	男子400mメドレーリレー	3位	森寺晃平(2S)、草薙輝(4M)、若林駿介(1C)、藤山悠太(5I)、飯田佑樹(1E)
			女子100m自由形	6位	伊藤 有紗(1C)
			女子50m背泳ぎ	5位	伊藤 珠志歌(1M)
			女子100m平泳ぎ	4位	伊藤 珠志歌(1M)
			女子50mバタフライ	3位	伊藤 有紗(1C)
バスケットボール			平成23年8月20日(土)・21日(日)		
			駒沢オリンピック公園総合運動場体育館・屋内球技場		
種目	成績	出場者			
男子	3位	中川徹也(5E)、池宮俊貴(5E)、鈴木綱太(5I)、青木優(5S)、杉谷直人(4E) 北村章史(4E)、山内亮佑(3M)、上原雅広(3I)、伊藤大貴(2S)、松村一輝(3S) 西村直樹(1M)、西村勇輝(2E)、土方拓己(2E)、坂口慶(1S)、小野竜太(1M)			
女子	優勝	眞弓綾香(4S)、寺田真穂(3S)、山下りさ(3C)、佐野真由(5C)、野村睦(3S)、笹野栞(3I) 戸島実咲(3S)、高木楓(3S)、高木夏(2S)、牧 諒佳(1C)、阪悠加(1C)、山本凜(1I)、荻野唯(4S)			
テニス			平成23年8月25日(木)～27日(土)		
			サニーインむかい共同テニスコート		
出場種目	成績	出場者			
男子 団体	3位	上瀧雅己(5E)、服部大輔(5E)、吉村拓也(5C)、日口将志(4C)、毛利裕貴(4E)、関優(2M)			
男子個人ダブルス	初戦	上瀧雅己(5E)、関優(2M)			
男子個人シングルス	3位	上瀧雅己(5E)			
女子個人ダブルス	優勝	山本唯(3C)・山川若菜(3S)			
女子個人シングルス	準優勝	山本唯(3C)			
剣道			平成23年8月27日(土)・28日(日)		
			長岡市市民体育館		
種目	成績	出場者			
男子 団体	3位	草分剛瑠(5S)、伊藤仁貴(5S)、鬼頭知宏(5S)、田中亮(5M) 松谷祐貴(5M)、植谷拓斗(3E)、藤巻高文(1E)			
男子 個人	2回戦	伊藤仁貴(5S)			
男子 個人	ベスト8	田中亮(5M)			
女子 個人	3位	田中愛(3S)			
女子剣道大会団体	優勝	田中愛(3S)、小林美貴(3E)、加藤千尋(3C)、伊藤恵(2E)、川端香澄(2S)、小林南美(1S)			

(出典 学生課資料)

高専体育大会

地区大会 51 種目中 22 種目優勝

多くの支えと、先輩の言葉

剣道部主将 (5S) 草分 剛瑠

『一生懸命の努力は人を裏切らない』私がまだ1年生だったころ、当時キャプテンであった先輩が残した言葉です。その言葉通り、先輩方は東海地区高専大会を制し、そして、2年間優勝を逃していた全国高専大会において改めて頂点に輝きました。

その後、私たちは一度の敗戦を味あうこともなく全国を制覇し続け、去年の夏には全国高専大会4連覇を達成することができました。そしてとうとう今年7月2日・3日、私にとって最後となる高専大会が、鳥羽商船高専にて始まりました。「これが最後だ」と思うと、これまでになくプレッシャーがありました。『一生懸命の努力は人を裏切らない』という言葉を感じ努力し続けた私達は、全く他高専に負ける気はありませんでした。

結果は男子団体(全国大会予選)29連覇・男子勝ち抜き戦24連覇・女子団体14連覇を達成することができ、前人未到の全国高専大会男子団体5連覇・全国女子高専大会団体10連覇への切符を手にすることができました。

この結果を勝ち得たのは、毎日親身にご指導して下さる細野先生をはじめ、ご自身の研究で忙しいなか来て下さる南部先生、毎週修道館に帰ってきて稽古をつけて下さる先輩方、遠征や大会等のとき宿泊から移動手段まですべて手配して下さる川口先生、いつも支えてくれている保護者や友人等、数多くの支えがあったからだと思います。

先生方、先輩方、保護者、友人等、私達の周りの



数多くの支えに感謝を忘れず、そしてこれからも『一生懸命の努力は人を裏切らない』という言葉に胸に努力を続けていきます。



東海高専大会を終えて

陸上競技部 (5S) 森 啓太

今年の東海高専大会は鈴鹿市の石垣池公園陸上競技場で行われた。昨年総合優勝を果たし、今年は二連覇という目標を持ち試合に挑んだ。昨年、キャプテンであった衛藤先輩がぬけ少し不安があったが、この一年は新たにキャプテンとなった湯田を中心に厳しい練習も乗り越え頑張ってきた。

大会は天気に恵まれ、とても暑い日となった。その中、1日目からトラック競技、フィールド競技共に大量得点をかせぎ、二位の岐阜高専とは大差の総合点トップで一日目を折り返した。特に毎年苦勞している投擲種目での優勝は、チームに勢いを与えた。しかし、圧勝で優勝するだろうと思っていた4×100mリレーは、結果は優勝だったが2位と僅差ということで、全部員、気を引き締め直して2日目に挑んだ。

2日目もとても暑い日となった。2日目も1日目の勢いそのまま得点をかせいでいった。最終種目の4×400mリレーは、昨年、豊田高専に敗れ、今年は優勝を目指していたが、今年も豊田高専に敗れてしまい悔しい結果となった。

最終的に鈴鹿高専は2年連続の総合優勝を果たし、二連覇を達成した。試合を終えた選手は、喜びと安

(出典 平成23年度第128号鈴風p.16)

全国高専体育大会報告

した。

最後に、高専はテスト期間が長いので部活と勉強の両立は難しいですが、部活で得るものは今後の人生できっと役に立つのでぜひ部活を続けてほしいと思います。部活以外にも何か本気で取り組むものがある人は、自分が納得するまでとことん続けてほしいと思います。

【水泳部】次に繋がる一泳

材料工学科 2 学年 埜口 雄史

全国高専大会が今年は千葉県国際総合水泳場で行なわれました。今年は前年度と比較すると鈴鹿高専からの全国大会に挑む選手は数倍多く、男子だけでなく今年新しく入部した一年生の女子も出場することができました。また東海地区予選での、男子総合優勝、女子総合優勝、そして男女総合優勝という結果からも、今年は全国大会でよい結果を残すことができるのではないかと自信がありました。

大会当日、程よい緊張を持ちながら挑みました。開会式が終わってから円陣を組み、気合を入れて試合が始まりました。チームの仲間が泳ぐときには必ず応援し、皆、声を枯らしていました。特にリレーでは他高専の応援の声も高まり、会場全体が盛り上がり、非常に白熱したと思います。そんな雰囲気の中、一生懸命泳ぐことができました。

結果、たくさんの種目で入賞を果たし、個人種目では準優勝、三位もあり、リレー種目では 400m フリーリレーが優勝、400m メドレーリレーが三位とよい成績を取ることができました。また、総合成績では全国で準優勝を飾ることができました。これは五月始め頃から日々努力してきた個人の力と、水泳部の皆で声を出し合い、練習してきたことの結果だと僕は思います。去年の目標となっていた全国大会でも

上位に食い込むスイマーとなることができました。準優勝という快挙を成し遂げましたが、惜しくも優勝校の松江高専には一歩及ばなかったところでひとつ悔いがありました。

今年は全国大会で上位に成績を取めることができました。これは水泳部がこれから強くなるための大きな一歩となったと思います。しかし、これで満足せず、今度は上位ではなく全国の一歩、「優勝」を手にしたいという思いが芽生えました。このことは来年の水泳部の目標ともなりました。松江高専にあとちょっとのところで負けてしまったその悔しい思いを糧にして、一人一人が日々精進し、また皆で水泳部を盛り上げていきたいと思っています。

【バスケットボール部 (男子)】 全国高専大会

電気電子工学科 5 学年 中川 徹也

「ビィー...」

鳴り響く試合終了の合図。その合図に導かれ、俺達 5 年生の走り続けてきた足が止まった。結果は準決勝敗退。この夏は今までで 1 番苦しく、悔しく、でもとても心地よい時となり、忘れられない夏となった。

東海大会終了後、俺は全国大会で戦えるチームにするため、皆の意識、モチベーションを変えたいと思った。スポーツは精神状態の違いでプレイの質は大きく変わり、質の高いプレイを続けることで応用力がついてくる。またバスケットはチームで戦うから組織の機能も重要となる。全国大会へ出てくるチームはどれも応用力が高く、組織力があり、強い。俺はそんなチームを目指して、後輩達に厳しく言葉を発した。また皆の見本になれるよう努めた。

けど、バスケットをしてない時はいつもこんな考えが浮かんでいた。皆に厳しく言うことで気持ちが離れてしまってるんじゃないか。このやり方で良かったのか。とても不安だった。辛かった。泣いたこともあった。

でもこんな不安を抱えながら、それでもやっていけたのは 5 年生の仲間がいたからだ。相談にも乗ってくれたり、プレイでも一緒にチームを引っ張ってくれた。5 年生の皆、ホンマにありがとう。

全国大会当日、初戦の香川戦はとても厳しい試合で、相手にペースを握られた状態となった。けど、終盤に入っていくにつれて点差は縮まり、最後には



1. 学生会の仕組み

学生会について

学生会とは、鈴鹿高専の全学生が会員となっており、その中から選ばれた役員で構成される組織により運営されています。主に高専祭、体育祭等の学生参加行事の企画・運営、学生会各種委員会の運営、会費の出納管理等を行います。

総会について

総会は学生会の最高議決機関です。全学生が構成員として参加します。

評議会について

役員及び各クラス・クラブ各 1 名の評議員で構成され、学生会の運営に関する事項を審議します。

役員会について

学生会は、総会で決定した事項を確実に実施するため、「役員会（執行部）」をおいています。役員会は、会長、副会長、会計長、書記からなり、各種委員長やクラブ・同好会に指示を出す役割を担います。その他、意見箱や新聞などを用いて学生の意見を学校に繋ぐ橋渡しを行い、キャンパスライフの向上に努めます。役員は評議会において選出されます。

委員会について

委員会は会員である学生で構成する組織です。各種の委員会はそれぞれ特徴があり、主にキャンパスライフを支える活動をしています。

学 生 会 の 組 織

役 職	役 職 の 説 明
役員会（執行部） 会長 副会長 会計長 書記	学生会を代表し、総責任者としてその業務を行う。 会長を補佐し、先頭に立って実務を行う。 主に部活動の予算の執行を行う。 会議などで話された内容を議事録にする。
学生会役員 高専祭実行委員長 環境美化委員長 行事企画委員長 体育委員長	最大のイベントである高専祭の企画・運営を担う。 美化活動に関する中心的な役割を担う。 イベント（球技大会など）の企画・運営を担う。 体育祭の企画・運営を担う。
委員会 広報委員会 体育委員会 行事企画委員会 環境美化委員会 通学・交通委員会 アルバム委員会 ボランティア委員会	校内新聞作成など広報活動を行う。 体育委員長を中心として、体育祭の企画・運営をする。 行事企画委員長を中心として、イベントの企画・運営をする。 環境美化委員長を中心として、美化活動の企画・運営をする。 通学の際の安全を学生に促す。 5年間の写真を管理し、卒業アルバムを作成する。 校内外のボランティア活動に積極的に参加する。

（出典 平成 24 年度学生便覧 p. 47）

平成 24 年度 学生会役員および専門委員長、副委員長名簿

1、学生会会長	4 E	■■■■■	(■■■■■■■)
2、副会長	3 S	■■■■■	(■■■■■■■■■)
3、副会長	3 M	■■■■■	(■■■■■■■)
4、会計長	4 M	■■■■■	(■■■■■■■■■)
5、書記	4 C	■■■■■	(■■■■■■■)
6、候補長	4 S	■■■■■	(■■■■■■■)
7、評議会委員長	4 I	■■■■■	(■■■■■■■■■)
8、高専祭実行委員長	5 M	■■■■■	(■■■■■■■)
9、高専祭実行副委員長	5 M	■■■■■	(■■■■■■■■■)
10、体育委員長	5 E	■■■■■	(■■■■■■■■■)
11、体育副委員長	5 E	■■■■■	(■■■■■■■■■)
12、環境美化委員長	5 S	■■■■■	(■■■■■■■■■)
13、環境美化副委員長	5 S	■■■■■	(■■■■■■■■■)
14、交通通学委員長	4 S	■■■■■	(■■■■■■■)
15、交通通学副委員長	4 S	■■■■■	(■■■■■■■■■)
16、自転車管理委員長	4 C	■■■■■	(■■■■■■■■■)
17、自転車管理副委員長	3 I	■■■■■	(■■■■■■■■■)
18、行事企画委員長	4 E	■■■■■	(■■■■■■■■■)
19、行事企画副委員長	4 C	■■■■■	(■■■■■■■■■)
20、ボランティア委員長	4 E	■■■■■	(■■■■■■■■■)
21、ボランティア副委員長	4 E	■■■■■	(■■■■■■■■■)
22、広報委員長	5 I	■■■■■	(■■■■■■■■■)
23、広報副委員長	5 I	■■■■■	(■■■■■■■)
24、女子更衣室管理委員長	4 S	■■■■■	(■■■■■■■■■)
25、女子更衣室管理副委員長	4 I	■■■■■	(■■■■■■■■■)
26、図書文化委員長	5 C	■■■■■	(■■■■■■■■■)

(出典 学生課資料)

学生会

新しい一歩をつくる

電子情報工学科 4 学年 里本 真衣

朝の静かな時間にのんびりと学校に行くのがくせになりました。いちようの木と空の組み合わせが意外と気に入っていて、すごくきれいな時はなんとなく幸せな気分で歩いています。そんなふうのにらりくらり、しかも目立たないようにしていたので知名度はすごく低い自信があります。

そんな私が“会長”という役職でいいのかと正直何度も悩みました。大勢の前にでるより細かい仕事をこなしているほうが性に合うのではないかと、もっと人望のある人が前に立つべきだったのではないかと今でも少し思っています。昨年までの会長さんにはできても私にはなかなか思うようにいかないこともあり、見方を変えてみようと思いました。「私にできることはなにか」「どんなことが求められているのか」今までどおりを貫くのではなく、少しずつ良いものにしていくと役員との協力のもと動き始めています。来年度以降も引き続き頑張ってください!! ←

学生会の仕事は主に予算の決定、処理と他高専との交流です。知らない人もたくさんいると思いますが、ちゃんと活動してますよ(笑)今年度の予算は昨年度のマニュアルを基にして「活動場所の清掃状況はどうか」「活動時間は守れているか(寮食の時間など)」といったことも基準にいつつ決定しました。寮食の時間については寮のほうでも問題になっているので絶対守ってくださいね(汗)部活からプロジェクトになって、うまく対応しきれず申し訳ないです。

他高専との交流会に関しては、私は今年度参加することができなかったのですが「他高専の学生会ではどんなことをしているのか」「問題に対してどんな取り組みをしているのか」ということをメインに会議を行っています。会議自体は真剣なのですが、空き時間にはみんなで話したりしていて、いまだにブ



学生会メンバー

ライブートでの交流も途絶えていないのがすごく嬉しいです。中部の高専との交流に関しては、15FAXという月の行事などを紹介しているものがあります。学生会室前に貼ってあるのでよかったら見てみてください。七夕祭りやクリスマスイベントに心惹かれるのは私だけでしょうか??笑

それ以外にも来年度からは他の委員会さんと協力していきたいと思っています。今まではしていなかったのですが話し合いの場を持ったりしていくつもりです。学生会は先生と学生との橋渡しの役割でもあるので、なにか思うことがあったら近くの役員に声をかけてみてください。きっとなかましてくれます。

そんなこんなで今年度はあまり大きな変革を起こすことはできませんでした。しかし来年度へつないでいく一歩を踏み出せたと思っています。ほかの人と同じことをできなくてもいい、自分のペースで歩んでいきました。悩むことも多かったけれど、やりがいがあった楽しかったです。本当はもっと学生会でやっていきたいし、心残りもたくさんありますが次の世代に引き継いでいきます。学生会のみんな、大好きです!!ありがとうございました!!

(出典 平成23年度第129号鈴風p. 75)

(分析結果とその根拠理由)

学生は特別活動，学生指導，学校行事，クラブ活動及び学生会活動など種々の場面において積極的かつ活発な企画・立案・実施を経験している。したがって，準学士課程の学生に対して本校は人間性を涵養するように教育課程を編成しており，さらに課外活動をもって豊かな人間性を身につけている。

観点 5－4－①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価・単位認定については、授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則及び学業成績評価基準を（資料 5－4－①－1～3）、年度始めに学生便覧を配布するとともに、オリエンテーション等で周知をしている。科目ごとの成績評価法、再試験の取り扱い、標準的な学習時間についてはシラバスに明記し、初回の授業の際に担当教員よりシラバスを配布し説明を行っている。また、1単位の履修時間が、授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目については、自己学習時間のアンケートを行う際に学生に周知し、このアンケート結果を考慮し、学修時間が不足していると思われる場合、宿題やレポートを課す等している（資料 5－4－①－4，5，資料 5－2－②－1 続き）。なお、前・後期試験の得点に関しては、受講生各自に試験答案を返却あるいは提示し、模範解答を解説しながら採点ミスが無いかを確認させる。そして、各教員はシラバスに記載した評価方法に基づいた評価シートを作成し評価を行っている（資料 5－4－①－6）。また、成績不振者に対しては、定期試験ごとに教務主事あるいは担任より督促状を送付し、学生本人及び保護者がそのことを認識できるよう配慮している（資料 5－4－①－7）。シラバスに記載した評価方法と基準に則り成績評価を実施し、授業担当教員が出席する進級判定会議及び卒業判定会議において単位認定及び卒業認定を行っている（資料 5－4－①－8，9）。

資料 5 - 4 - ① - 1

授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則

(趣旨)

第1条 本校における授業科目の履修，単位の修得及び課程修了の認定は，この規則の定めるところによる。

(授業科目の履修・単位の修得の特例)

第2条 第4学年及び第5学年の学生は，別に定めるところにより，他学科の授業科目を履修し単位を修得することができる。

第3条 第5学年の学生は，当該学科の開設する第4学年の授業科目中履修しなかった科目又は修得できなかった科目を5単位まで修得できる。

(大学等における学修申請等)

第4条 学則第29条の規定により，大学等の授業等を本校における授業科目の履修とみなし，単位の認定を受けようとする者は，他大学等の授業を履修する前に別紙様式に定める大学等における学修申請書を学生課教務係に提出し，単位修得後は別紙様式に定める大学等における学修単位認定申請書を同係に提出しなければならない。

(学業成績の評価)

第4条の2 学業成績の評価については，別に定める評価基準によるものとする。

(単位の修得)

第5条 単位の修得は，授業科目の評価が60点以上であり，かつ，1単位につき欠席時数が6時間以内とする。

(課程修了)

第6条 課程修了は，次の各号に該当するものについて認定する。

- (1) 教育課程に定める学年の授業科目につき所定の単位を修得していること。
- (2) 次表に掲げる学年に対応した単位数を修得していること。

学年	修 得 単 位 数
1	必修科目の全単位
2	必修科目の全単位
3	必修科目の全単位
4	第1学年から第4学年の必修科目の全単位，選択必修科目の所定の単位及び選択科目の単位の合計が134単位以上
5	第1学年から第5学年の必修科目の全単位，選択必修科目の所定の単位及び選択科目の単位の合計が167単位以上（専門科目82単位以上を含む。）

- (3) 特別活動の履修状況が良好であること。

(課程修了の認定)

第7条 前条の認定は，専任の授業担当教員で構成する修了認定会議の意見を聞いて，校長が行う。

第8条 前条により当該学年の課程の修了を認定された者は，進級又は卒業ができるものとする。

2 当該学年の課程の修了を認定されない者は原学年に留まり，第1学年から第3学年（退学を申し出た場合を除く。）は当該学年の単位数，第4学年及び第5学年の場合は当該学年の修得単位数のうち修得できなかった単位を修得するものとする。この場合において，第4学年の場合は第5学年の単位（選択科目及び選択必修科目に限る。）を修得できるものとし，第5学年の場合は卒業研究は再度行うものとする。

3 原学年に留められた者が，当該学年の課程修了を再度認定されないときは，学則第44条第2号の規定により，退学させるものとする。

(追認試験)

第9条 追認試験を受験できる者は，第1学年から第3学年にあっては2科目以下，第4学年及び第5学年にあっては4単位以下の追認試験の結果によって課程修了の認定ができる者に限るものとし，受験できる科目数は第1学年から第3学年にあっては2科目，第4学年及び第5学年にあっては4単位を超えない科目数を限度とする。

2 追認試験の結果により，当該科目の単位を認定することができる。

3 追認試験に関しては，別に定める。

附 則

この規則は，平成23年4月1日から施行する。

(出典 平成24年度学生便 p.127-128)

資料 5－4－①－2

国内外の他教育機関における修得単位認定に係る規定

(他の高等専門学校における授業科目の履修)

第 28 条 校長は、教育上有益と認めるときは、本校の学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を 30 単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(大学等における学修等)

第 29 条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

3 第 1 項の規定は、第 37 条に規定する留学の場合及び学生が外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は、30 単位を超えないものとする。

(留学)

第 37 条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第 14 条に定める在学期間を含めることができる。

3 校長は、第 29 条第 3 項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

4 前 3 項に関し、必要な事項は別に定める。

(出典 平成 24 年度学生便覧 p. 66-67)

資料 5 - 4 - ① - 3

学業成績評価基準

(趣旨)

第1条 授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則第4条の2の規定に基づき、学業成績については、この基準によって評価する。

(原則)

第2条 学業成績は、試験の結果又は課題・レポート等の結果に基づき評価する。

(試験)

第3条 本校教育の成果をはかり、適正な授業運営の資料とし、あわせて学生の学習効果を確認し、その指導に資するため試験を行う。

2 学生は、試験を受けなければならない。

3 試験は、平常の試験、中間試験及び定期試験とする。

(平常の試験)

第4条 授業担当教員は、当該科目について随時に、適宜の方法で試験（平常の試験という。）を行うことができる。

(中間試験)

第4条の2 中間試験は、前期後期それぞれの中間に校長が一定の期日を定めて、原則として全校一斉に行う。ただし、授業担当教員は教科の性質又は授業の進捗等によって、これを行わないことができる。

2 中間試験の期日・時間割等は2週間前に告示する。

(定期試験)

第5条 定期試験は、各学期末に校長が期日を定めて、原則として全校一斉に行う。

2 定期試験は、筆答試験によることを通例とする。ただし、授業科目の特質により実技を課し、又は作品・報告書等の提出をもって筆答試験にかえることができる。

3 授業担当教員は、前項のほか授業上必要と認めるときは報告書・論文等の提出をもって筆答試験にかえることができる。

4 授業担当教員は、第2項ただし書及び第3項により筆答試験によらないで定期試験を行うときは、あらかじめ校長の承認を得なければならない。

5 定期試験の期日・時間割等は2週間前に告示する。

(定期試験を受けられない場合の取扱い)

第6条 病気その他の理由によって定期試験を受けることができない者は、あらかじめ事由を付して(病気による場合は、医師の診断書を添付すること)校長に届出なければならない。

2 前項の者に対しては、校長の定めるところにより追試験を行うものとする。

(再試験)

第6条の2 定期試験及び中間試験の評価で60点に達していない授業科目については、再試験を行うことができる。

2 再試験における試験科目の点数については、60点を上限とする。

3 不正行為者の当該試験における全ての科目の再試験は行わない。

(不正行為の取扱い)

第7条 時間割を編成して実施する試験について不正行為を行った場合には、当該不正行為者の当該試験科目の点数は0点とする。また、当該試験におけるその他の試験科目の点数については、60点を上限とする。

(学業成績の評価及び報告)

第8条 授業担当教員は、定期試験終了後速やかに担当科目について当該学期間の成績を評価し、校長に報告するものとする。ただし、前期後期を通じて授業を行う科目については学年末においては、一年間の成績を評価してこれを報告するものとする。

2 前期又は後期のみに授業を行う科目については、当該学期の成績をもって学年の成績とする。

(評価等)

第9条 中間試験を実施した授業担当教員は、試験終了後速やかに担当教科について各学期の初めから中間試験までの間の成績を評価し、校長に報告するものとする。

第10条 第8条及び前条の評価は、定期試験等の成績を基に評価するものとする。ただし、低学年（第1・2学年）については、平常の授業に対する取組姿勢を加味することもある。

2 前項の取組姿勢を加味する場合にあっては、シラバスに明記しなければならない。

3 評価は、100点法によってこれを表す。

第11条 (削除)

(学業成績の記録)

第12条 学業成績は、点数に次の評語を付して学籍簿に記載する。ただし、「不可」については、この限りでない。

評 語 学業成績の点数

優 100点－80点

良 79点－65点

可 64点－60点

不可 59点以下

(学業成績の利用)

第13条 学業成績は、各学期及び一年間の評価確定後速やかに学生及び保護者に通知する。ただし、学年末においては全学年の成績のみを通知するものとする。

2 前項の規定による通知のほか、学級担任が学生指導上必要があると認めたときは、学生に対して点数を内示することができる。

3 就職、進学、その他学生の身分上のことで学業成績を報告し、又は証明書を発行する場合は、評語によることとし、各学年末の成績のみについて、これを行う。

附 記

この基準は、平成21年4月1日から実施する。

(出典 平成24年度学生便覧 p.128-130)

4・5学年、専攻科講義科目

授業科目名[illegible]

学年

学科

出席番号氏名

合計した時間数を記入してください。

合計時間数（右詰）

--	--	--

時間

自己学習時間(時間)	学生数人
0.5-1.0	1
1.0-1.5	4
1.5-2.0	3
2.0-2.5	4
2.5-3.0	1
3.0-3.5	1
6.0-6.5	1

– 329 –

資料 5－4－①－5

物理化学Ⅱ シラバス抜粋

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理化学Ⅱ	平成23年度	高倉 克人	4	通年	学修単位2	必

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 学業成績は次式に従って算出される：学業成績＝0.8×（中間・定期試験の平均点）＋0.2×（小テスト・課題の平均点）。ただし、中間・前期末試験の成績が 60 点に満たない学生のうち、希望者に対しては各試験につき 1 回だけ再試を行い、満点の 8 割以上を得点した場合は、対応する試験の得点を（再試験の満点×0.6）に差し替えて成績を算出する。また再試の得点が満点の 8 割に満たない場合も、本試験より高得点であれば再試の得点に差し替えて成績を算出する。

〔単位修得要件〕 学業成績で 60 点以上を取得すること。

（出典 平成 23 年度物理化学Ⅱ シラバス抜粋）

資料 5－4－①－6

物理化学Ⅱ 平成23年度成績評価シート													
成績＝0.8×(中間・期末試験の平均)+0.2×(小テスト・課題の平均点)													
学生氏名	前期中間	前期中間(再)	前期末	前期末(再)	後期中間	後期中間(再)	学年末	小テスト1	小テスト2	小テスト3	課題1	成績	優 良 可 不 可
84			52		43	53	43	35	90	90	85	61	可
95			90		94		99	100	97	100	100	95	優
96			93		100		100	100	92	90	100	97	良
82			84		56		50	80	99	95	100	73	可
65			86		56	82	57	82	100	75	90	71	良
89			92		85		68	80	48	85	90	82	優
91			96		90		100	100	99	100	100	95	良
99			98		100		99	95	100	95	100	99	可
98			88		95		89	92	97	100	100	93	優
95			73		72		78	100	72	100	100	82	良
87			91		98		79	93	88	100	95	90	優
76			83		73		84	60	83	85	100	80	良
95			91		94		100	85	99	100	100	95	優
72			69		63		65	90	85	100	90	72	良
80			66		71		84	60	97	85	80	76	良
17	60		45	51	39	65	85	60	68	100	85	67	良
88			82		85		85	70	93	85	90	85	優
95			99		90		99	95	98	95	90	96	良
46	60		58	61	53	72	64	60	83	90	90	65	良
96			93		83		99	97	94	85	100	93	優
67			70		84		78	90	93	100	100	79	良
89			72		90		85	95	95	100	90	86	優
78			81		74		96	85	95	100	100	85	良
45	60		50	76	58		61	60	68	55	90	61	可
70			61		55		58	60	83	95	90	67	良
84			92		78		69	60	94	90	90	81	優
77			80		63		69	60	95	95	100	75	良
96			98		94		90	100	100	100	100	96	優
94			93		92		97	87	97	95	100	94	優
93			85		88		70	60	95	100	90	84	優
81			74		65		98	65	97	95	90	81	優
88			95		86		71	84	86	95	95	86	優
87			100		83		83	100	100	100	100	91	優
71			96		64		66	87	95	95	100	78	良
95			77		55	73	53	97	91	100	100	76	良
50	60		73		59		41	100	99	90	70	65	良

*太い枠で囲ってある答案をファイルングしてあります

（出典 物理化学Ⅱ 成績評価シート）

資料 5 - 4 - ① - 7

平成 23 年度前期末試験 成績不振者への督励状

(別添 1)

平成23年 月 日

様

鈴鹿工業高等専門学校
教務主事 桑原裕史

貴家 君におかれましては、先に実施いたしました前期末試験の結果から見て、今後、格別の努力が行われずこのままの状態が継続しますと、本年度末の進級（卒業）に大きな支障を生ずることが予測されます。

本校におきましては、今後も可能な限り補習授業や補講を実施し、また、教員のオフィスアワーズを設定するなど、機会をとらえて学級担任及び授業担当教員等から本人あてに成績向上のための督励を重ねていきます。

つきましては、保護者におかれましても本人の自覚を促し、後期の勉学に向けて、より一層奮起されるよう激励頂きますことをお願いいたします。

(出典 学生課資料)

秘

学業成績，出欠一覽表
(第1学年～第4学年)

鈴鹿工業高等専門学校

科 目 名	国語 I	国語 II	世界史 I	地理	基礎数学 A	基礎数学 B	物理	化学	英語 A	英語 B	新課程選修Ⅰ 基礎数学Ⅱ	美術	音楽	書道	選択Ⅱ 数学Ⅲ	選択Ⅲ 工作実習	情報処理Ⅰ	選択Ⅳ 設計実習	創造Ⅱ 工学講習	創造Ⅲ 工学講習										
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1										
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1										
座 位 番 号	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1										
姓 名	石田	渡辺	小倉正	坂野	保原	瀧江	仲井	山崎	日下	中井	糸織	渡平	阿部	山口	坪	佐藤	藤本	坪	近藤	志井	44 名	点	中	目	目	計	目	目	計	
科目番号											ローソン																			
											ローソン																			
01	89	82	85	90	84	87	79	70	76	68	72				71	73	64	63	64											
02	73	69	81	72	83	80	82	80	80	80	80				76	67	82	76												
03	74	83	85	69	74	80	69	69	68	64	74	77					69	65	69											
04	80	82	82	87	92	83	76	76	76	81	72	82		66		74	83	76	66											
05	70	80	73	86	74	86	84	73	75	85	75				73	66	83	73	69											
06	93	95	96	96	90	94	86	94	91	90					64	69	82	84	97											
07	75	82	85	86	84	82	76	84	76	83				82		72	85	70	76											
08	76	74	75	75	69	71	67	79	76	64	77				64	61	67	76	79											
09	78	83	76	85	75	73	83	76	82	80	77				76	76	69	74	71											
10	77	79	75	72	80	73	72	75	69	76					61	74	73	66	81											
11	78	82	82	80	86	86	83	83	76	70				75		76	67	80	80											
12	79	82	86	81	72	71	83	76	86	85			61			77	87	76	81											
13	79	96	82	85	76	79	85	80	94	91	72			91		67	67	72	67											
14	85	94	92	81	83	91	87	94	86	84				90		72	67	79	84											
15	82	83	86	77	74	72	86	75	83	76	85				77	85	89	72	83											
16	70	69	67	82	84	80	89	82	67	65	77				81	61	69	82	66											
17	80	83	90	84	86	81	91	85	94	86	86			83		91	67	80	84											
18	69	75	83	86	86	84	74	89	76	87	72				71	70	85	81	72											
19	78	76	77	82	70	70	82	89	84	80	80		75			80	86	77	73											
20	83	81	69	80	85	80	87	89	83	79	80				61	77	69	83	76											
21	68	80	83	82	82	84	99	87	87	81	82			80		69	89	89	86											
22	70	76	84	90	81	80	86	85	85	77	61	73			76	74	76	84	82											
23	67	80	75	81	76	87	84	72	74	64	80	73				75	87	83	79											
24	90	92	95	78	89	85	89	85	75	74	73		77			67	67	85	91	80										
25	73	85	75	82	72	83	85	89	75	74	72			73		83	86	86	86											
26	80	89	84	84	80	74	89	79	71	86						68	82	86	79											
27	70	71	76	77	80	79	87	74	84	81	69	72				68	74	84	83											
28	67	74	66	80	70	61	75	88	76	73	80				75	66	76	85	66											
29	80	86	84	82	82	81	100	81	69	79					95	85	89	79	70											
30	85	81	72	83	83	80	73	86	80	75	72		76			68	81	86	83											
31	67	67	76	76	82	87	82	86	87	75	72					85	83	72	74											
32	64	76	80	71	87	85	86	82	84	75	75				73	67	67	73	76											
33	71	83	85	72	73	69	82	80	80	72	75				77	76	69	86	73											
34	86	86	85	85	71	66	84	73	77	71	72				80	84	79	71	72											
35	80	84	81	82	72	83	81	76	77	68		78				86	86	74	66											
36	70	76	70	80	89	80	77	74	76	67	72			75		77	67	68	70											
37	68	96	97	93	87	86	100	83	84	69	85	80				89	86	82	67											
38	81	87	72	75	79	70	83	87	82	77	80				80	82	86	81	83											

(出典 学生課資料)

秘

鈴鹿工業高等専門学校

[illegible]

(出典 学生課資料)

成績評価、単位認定及び修了認定に関する学則を策定しており、年度初めオリエンテーションなどの機会に学生に対しても周知している。また、各規則に則って成績評価や単位認定及び修了認定を適切に実施している。

